

5 市民アンケート

I 調査概要

1. 調査の目的

地震発災時の市民の行動やその後の意識の変化についてアンケート調査を行う。

2. 調査の設計

- (1) 対象者 : 市内に居住する満 18 歳以上の男女計 4,000 名
- (2) 調査方法 : 配布は郵送方式、回答は郵送方式及びWEB方式
- (3) 調査期間 : 令和 6 年 7 月 16 日～7 月 31 日
- (4) 配付数・回収数・回収率

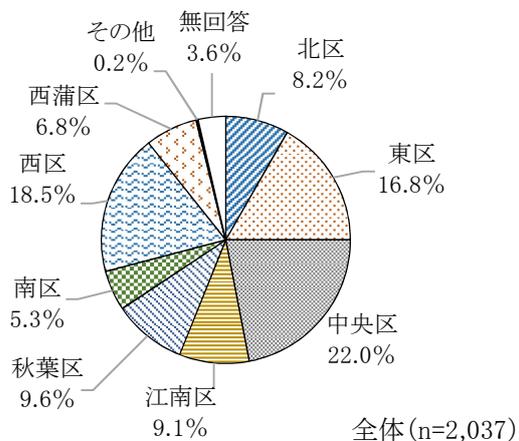
配布数	回収数	回収率
4,000	2,037	50.9%

3. 集計・分析にあたって

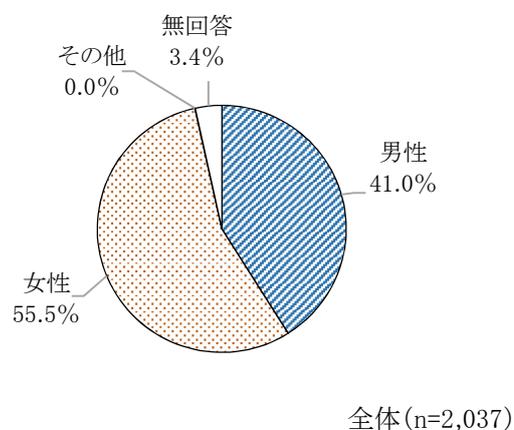
- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計 100%にならないことがある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

4. 回答者の特性

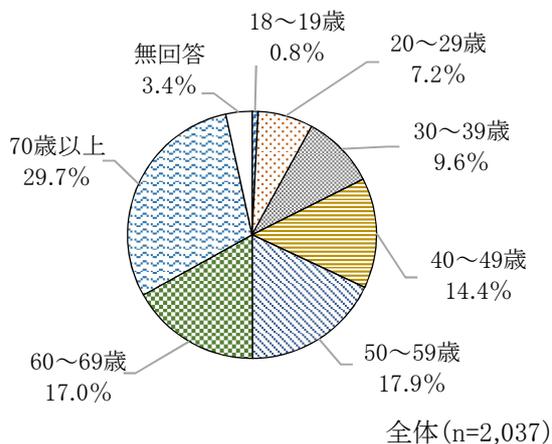
◆ 区別



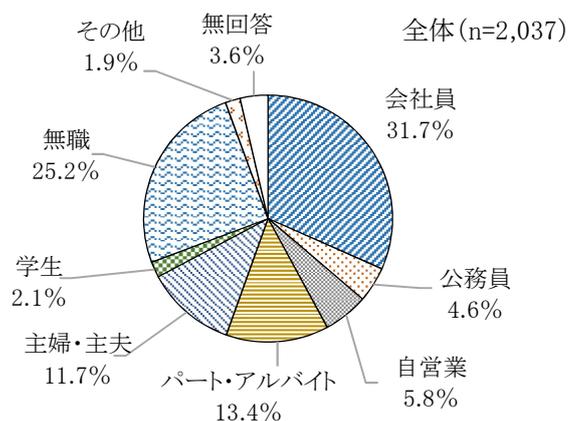
◆ 性別



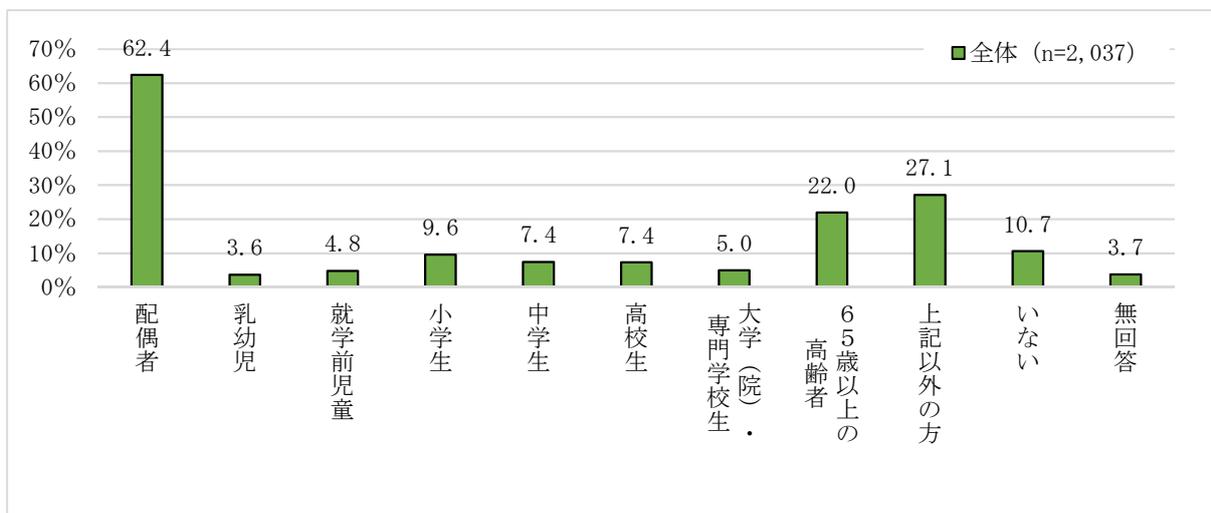
◆ 年齢別



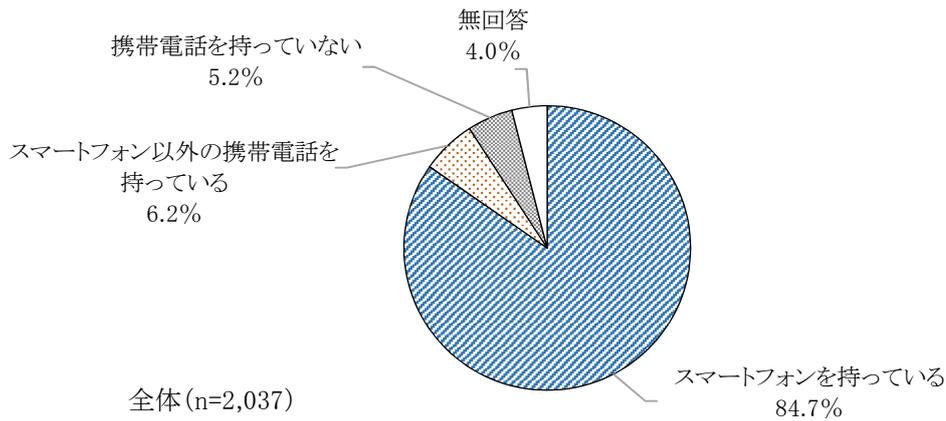
◆ 職業別



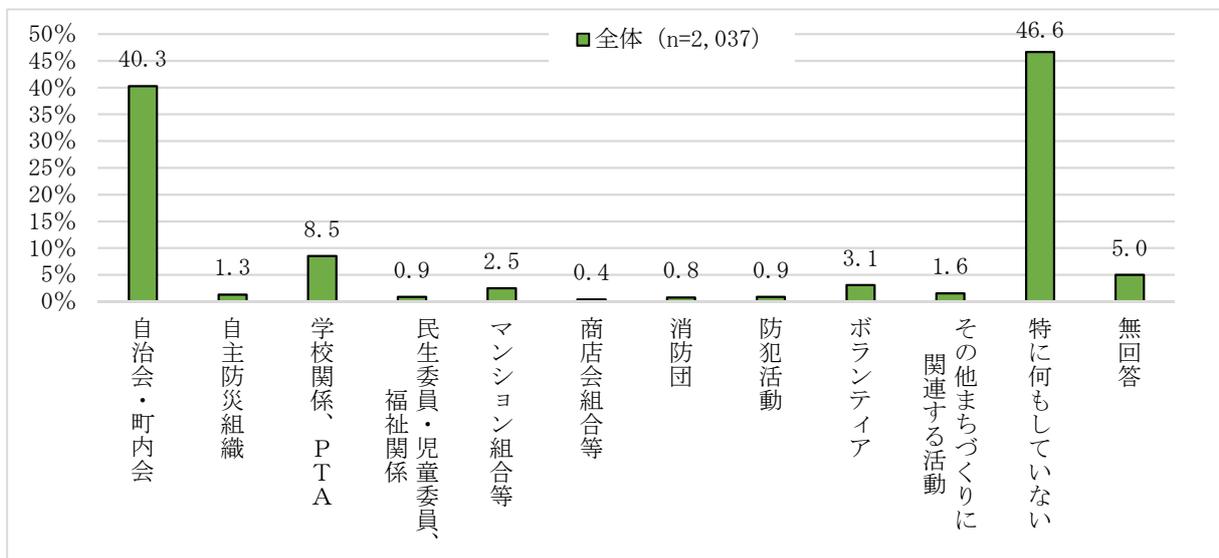
◆ 同居家族



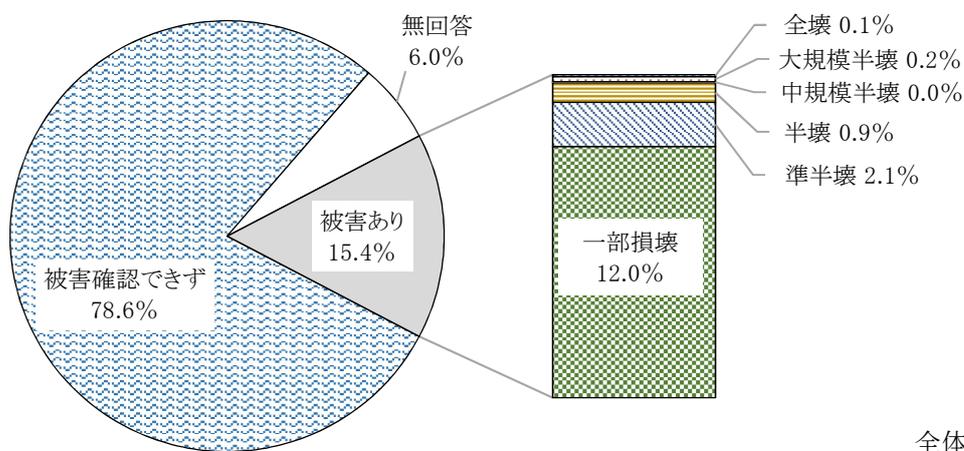
◆携帯電話の所有状況



◆日ごろから参加している地域活動

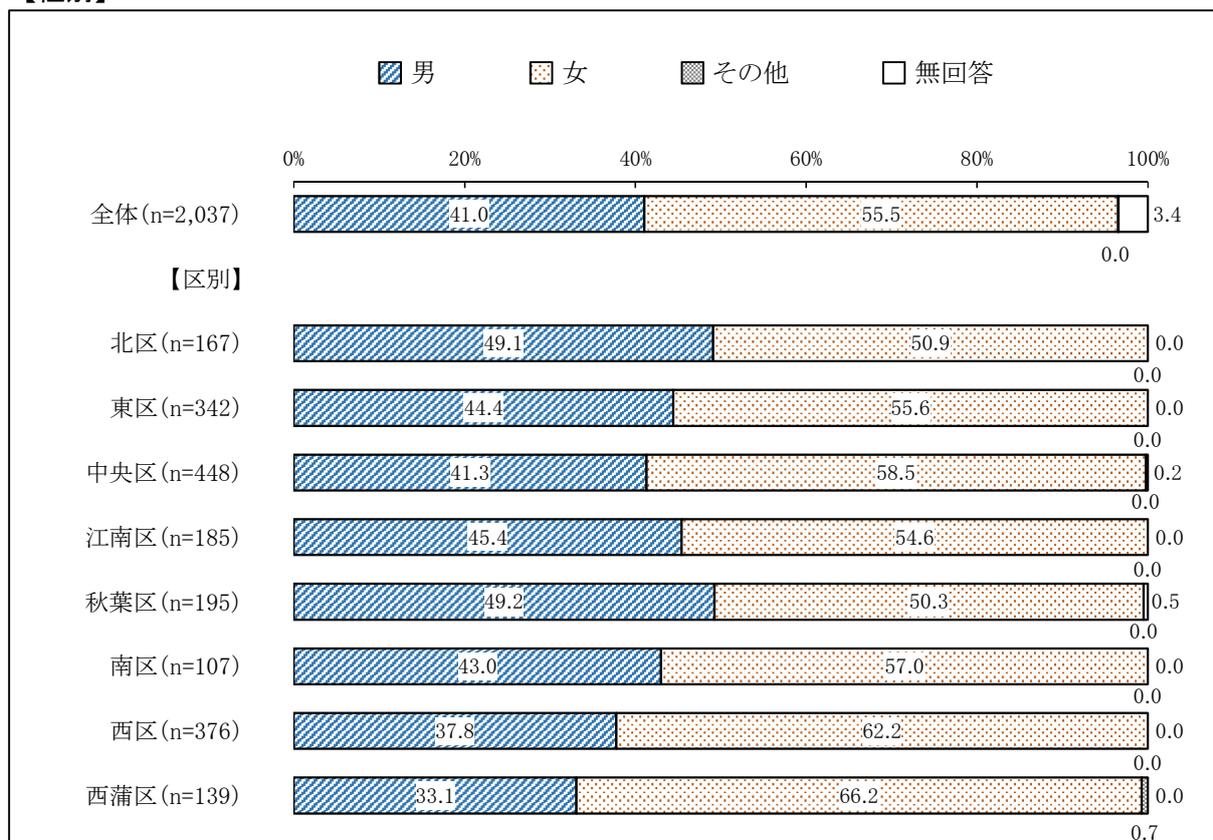


◆能登半島地震による被害状況

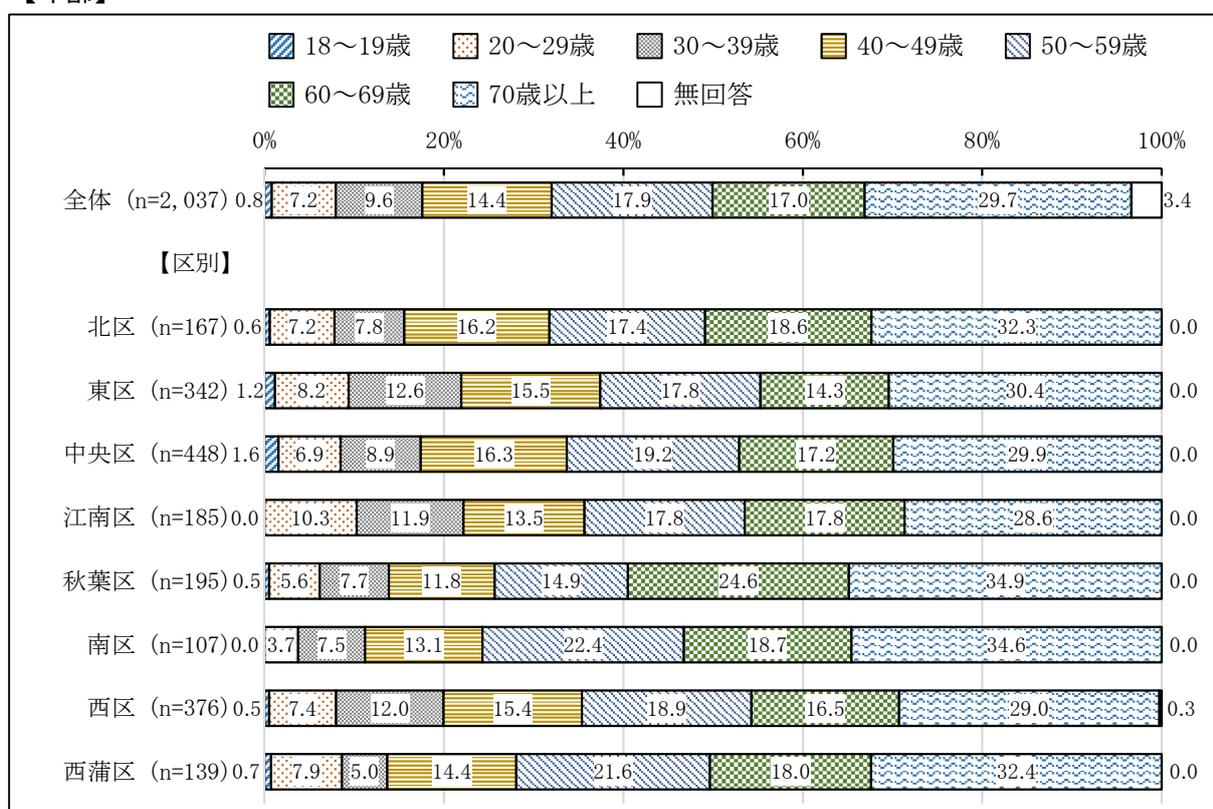


5. 回答者の特性（区別集計）

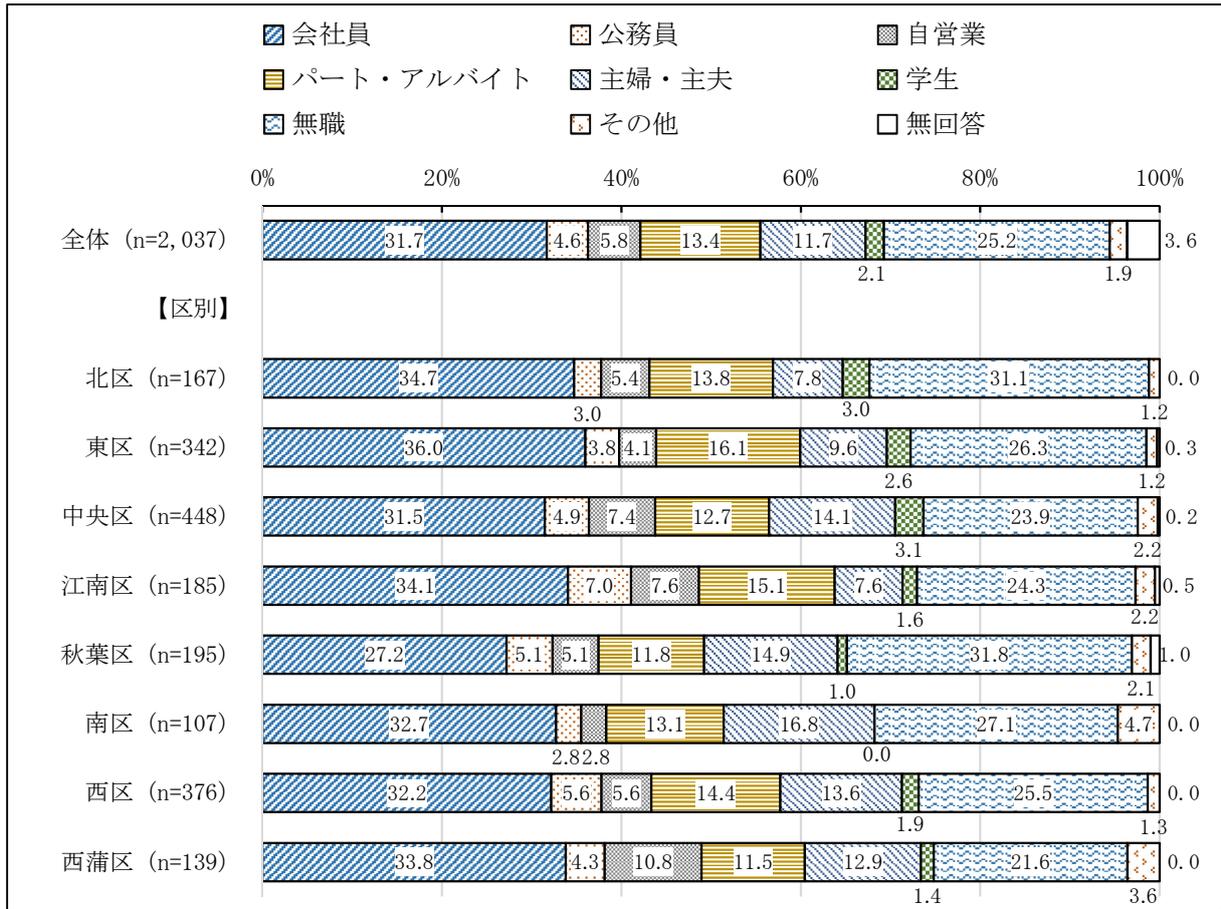
【性別】



【年齢】



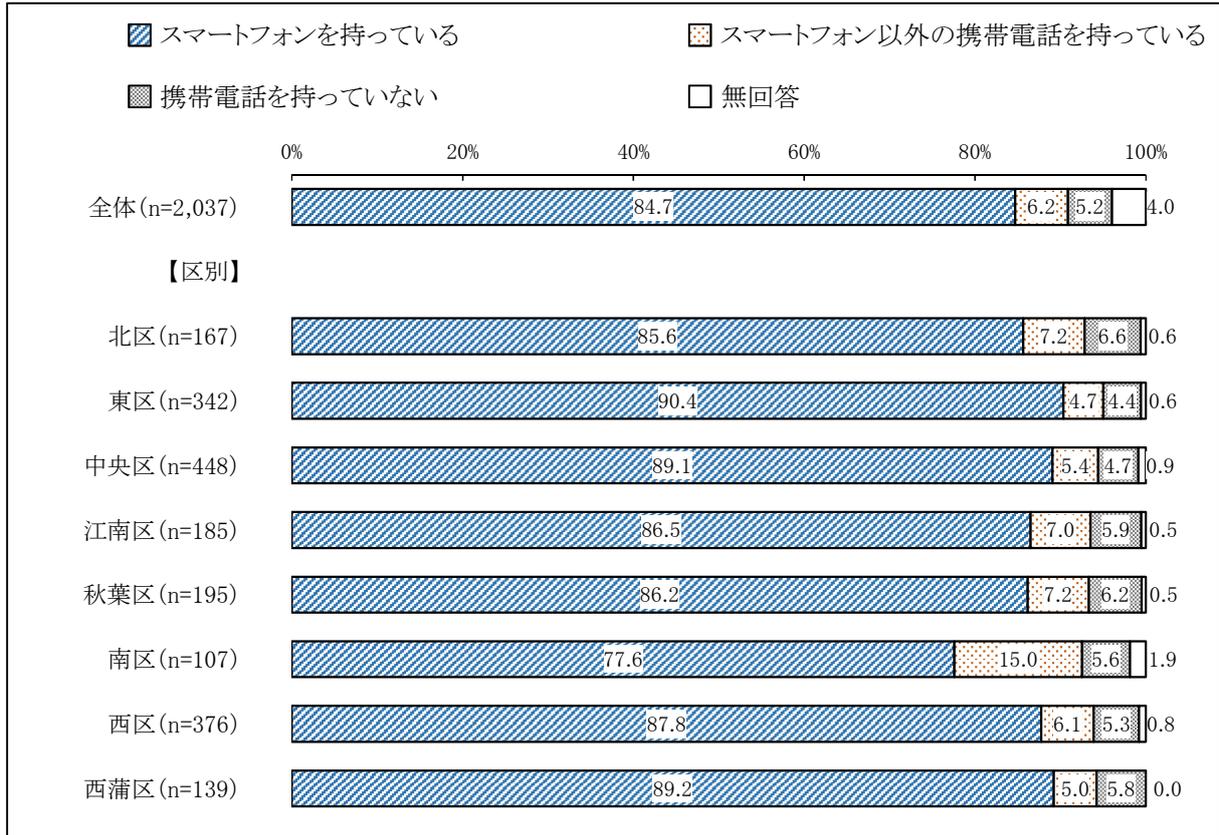
【職業】



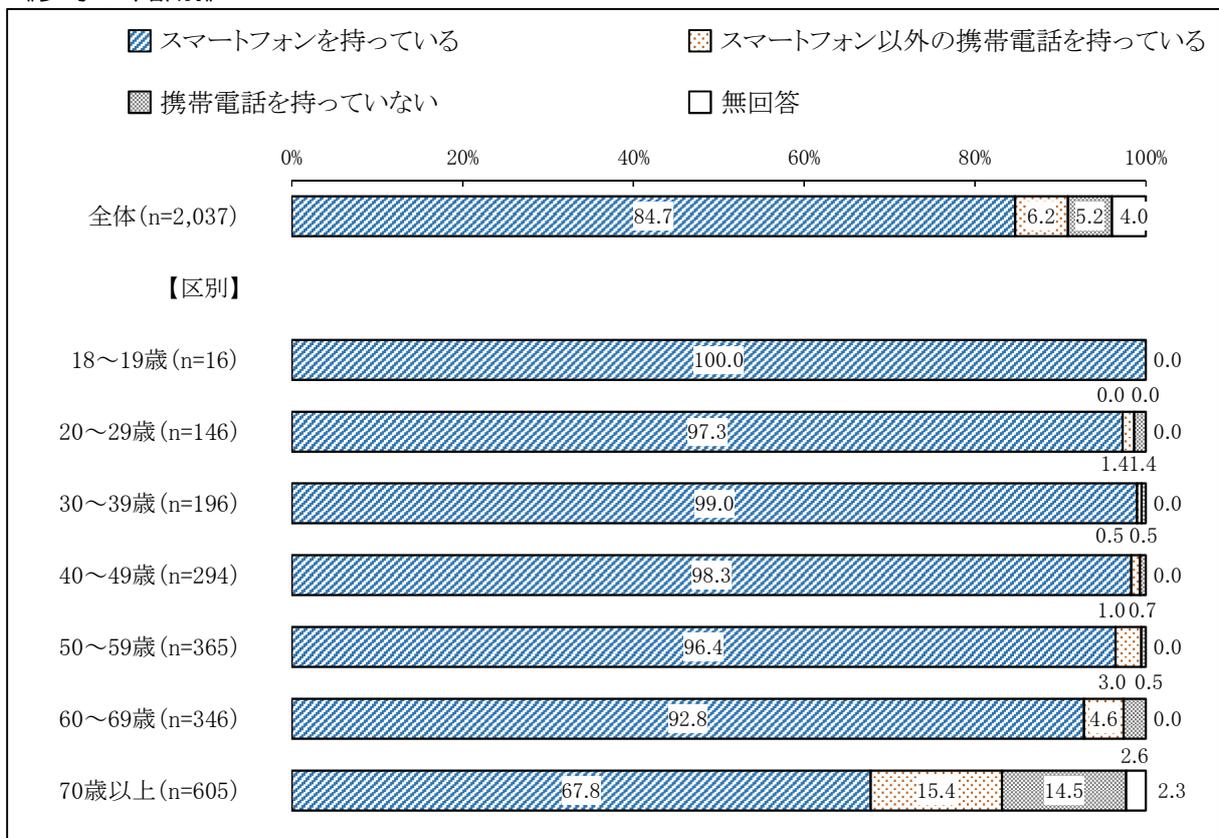
【同居家族】

割合 (%)	配偶者	乳幼児	就学前児童	小学生	中学生	高校生	大学(院)・専門学校生	65歳以上の高齢者	上記以外の方	いない	無回答
全体 (n=2,037)	62.4	3.6	4.8	9.6	7.4	7.4	5.0	22.0	27.1	10.7	3.7
【区別】											
北区 (n=167)	68.9	2.4	3.6	7.8	8.4	6.0	5.4	28.1	32.3	8.4	0.0
東区 (n=342)	63.2	6.7	7.3	11.4	8.2	9.9	4.4	20.2	29.8	9.4	0.9
中央区 (n=448)	58.3	2.5	3.6	10.5	6.5	7.1	4.5	15.4	24.3	19.9	0.4
江南区 (n=185)	68.1	6.5	4.3	10.8	7.6	6.5	4.3	23.2	27.0	7.6	0.5
秋葉区 (n=195)	67.2	4.1	4.6	9.7	10.3	8.2	5.6	22.6	28.2	11.3	0.0
南区 (n=107)	71.0	2.8	2.8	7.5	8.4	5.6	6.5	19.6	36.4	6.5	0.9
西区 (n=376)	65.2	2.9	5.9	10.4	7.2	6.6	6.1	26.9	24.5	8.0	0.3
西蒲区 (n=139)	69.8	1.4	6.5	7.9	6.5	10.8	6.5	35.3	34.5	5.0	0.0

【携帯電話の所有状況】



《参考：年齢別》



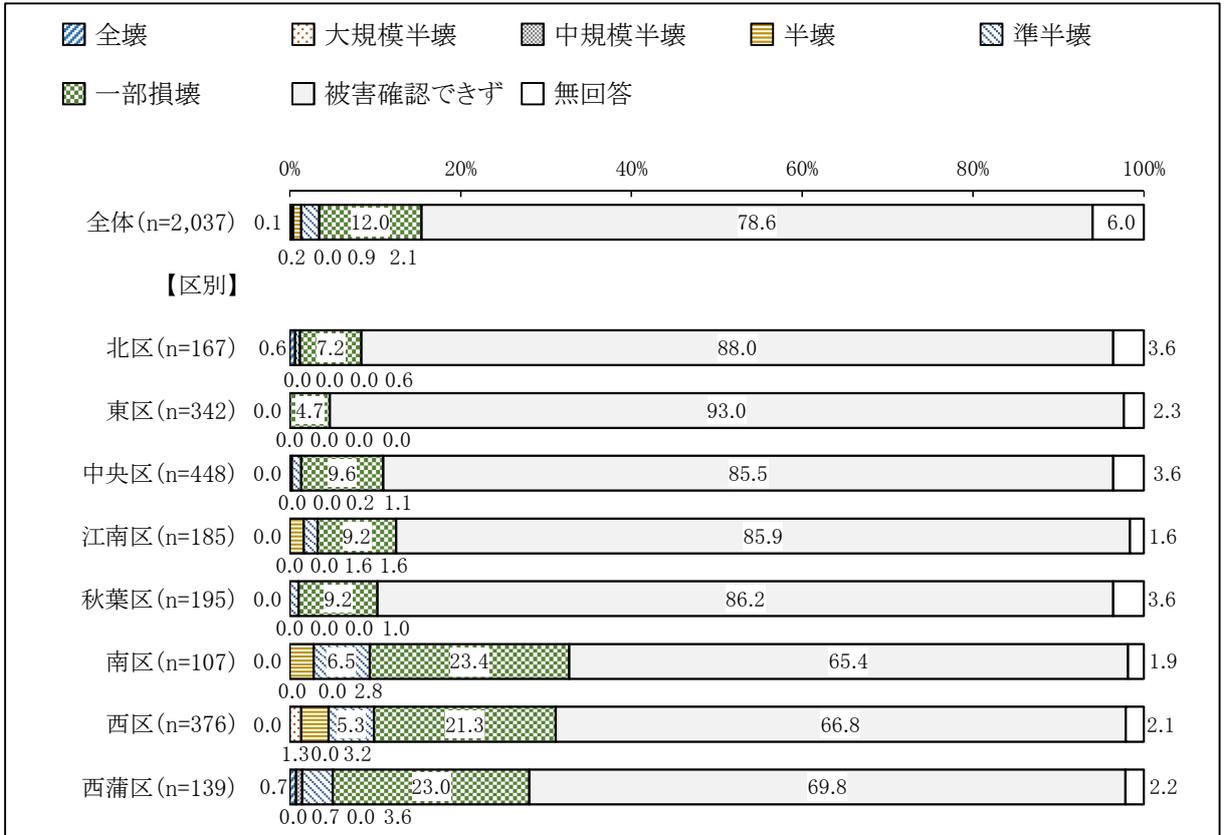
【日ごろから参加している地域活動】

割合 (%)	自治会・町内会	自主防災組織	学校関係、PTA	民生委員・児童委員、福祉関係	マンション組合等	商店会組合等	消防団	防犯活動	ボランティア	その他まちづくりに関連する活動	特に何もしていない	無回答
全体 (n=2,037)	40.3	1.3	8.5	0.9	2.5	0.4	0.8	0.9	3.1	1.6	46.6	5.0

【区別】

北区 (n=167)	55.7	1.2	7.2	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	3.6	2.4	38.9	1.2
東区 (n=342)	45.6	1.2	10.5	1.2	0.9	0.3	0.6	1.5	2.6	0.6	44.2	2.3
中央区 (n=448)	32.8	0.9	8.9	0.7	8.9	0.4	0.4	0.9	3.3	0.9	53.8	0.9
江南区 (n=185)	40.0	0.5	7.0	1.1	0.5	0.5	0.5	0.5	2.7	2.2	53.5	1.6
秋葉区 (n=195)	42.1	1.5	12.8	1.5	1.5	0.0	1.5	0.5	4.6	3.1	42.1	2.1
南区 (n=107)	49.5	3.7	5.6	0.9	0.0	0.9	1.9	0.9	2.8	2.8	44.9	1.9
西区 (n=376)	42.8	1.6	7.7	1.1	1.1	0.3	0.5	1.3	3.2	1.3	50.5	1.9
西蒲区 (n=139)	38.8	2.2	9.4	0.0	0.0	1.4	1.4	0.7	2.9	2.9	47.5	2.2

【能登半島地震による被害状況】

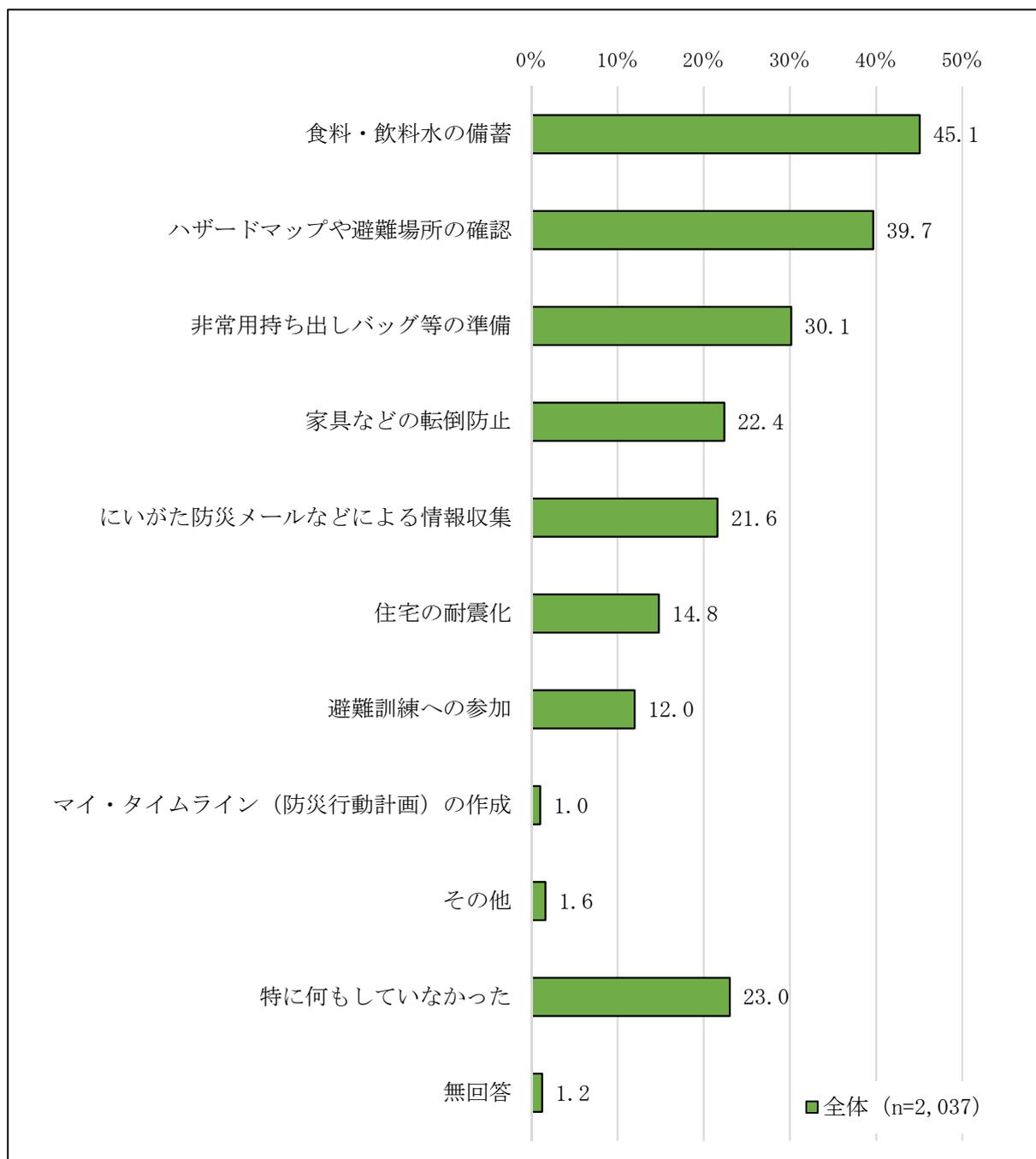


Ⅱ 調査結果

1. 令和6年1月1日の能登半島地震（以降「地震」）発生前の状況

(1) 災害に備えて事前にとっていた対策

問1 あなたは、災害に備え事前にどのような対策をとっていましたか。（あてはまるものすべて）



【全体結果】

災害に備えて事前にとっていた対策は、「食料・飲料水の備蓄」(45.1%)が最も割合が高く、次いで「ハザードマップや避難場所の確認」(39.7%)、「非常用持ち出しバッグ等の準備」(30.1%)、「家具などの転倒防止」(22.4%)、「にいがた防災メールなどによる情報収集」(21.6%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 1.1 参照)

① 区別

「食料・飲料水の備蓄」と答えた割合は、西区(50.3%)で最も高く、南区(38.3%)で最も低い。「ハザードマップや避難場所の確認」と答えた割合は、北区(46.7%)で最も高く、西蒲区(29.5%)で最も低い。「非常用持ち出しバッグ等の準備」と答えた割合は、東区(36.3%)で最も高く、南区(24.3%)で最も低い。

南区と西蒲区は、他の区と比較して割合が低い項目が多い。

② 性別

「食料・飲料水の備蓄」(男性 42.0%、女性 47.4%)、「非常用持ち出しバッグ等の準備」(男性 26.7%、女性 33.6%)、「にいがた防災メールなどによる情報収集」(男性 19.4%、女性 23.5%)と答えた割合は、男性よりも女性で高く、「家具などの転倒防止」(男性 24.0%、女性 20.7%)と答えた割合は、女性よりも男性で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「食料・飲料水の備蓄」は60～69歳(47.4%)、「ハザードマップや避難場所の確認」は40～49歳(47.6%)、「非常用持ち出しバッグ等の準備」は30～39歳(35.2%)で答えた割合が最も高い。

20～29歳で他の年齢と比較して、割合が低い項目が多い。

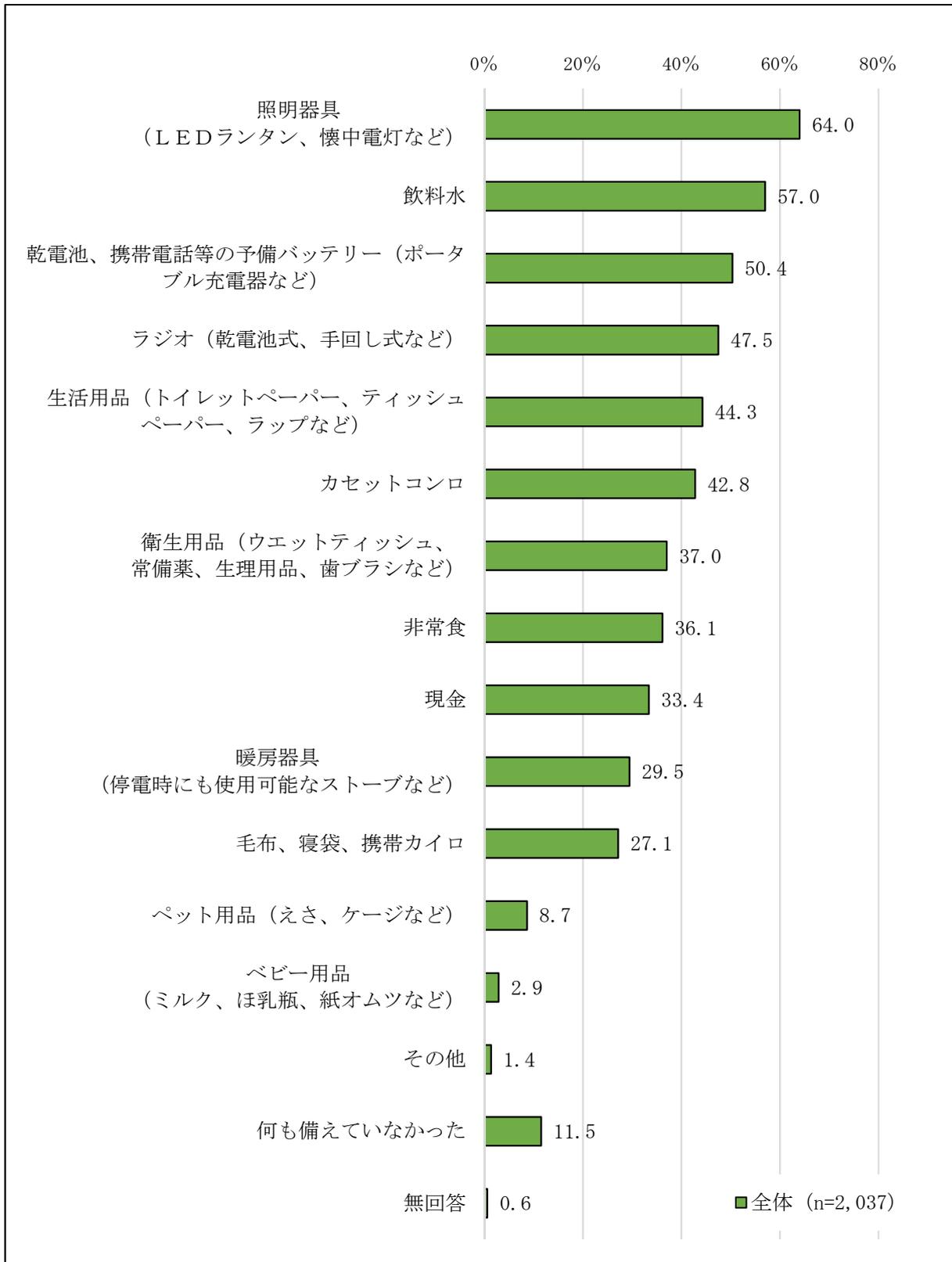
図 1.1 災害に備えて事前にとっていた対策

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	食料・飲料水の備蓄	避難場所の確認 ハザードマップや	非常用持ち出し バッグ等の準備	家具などの転倒防止	などにがた による防災 情報メール 集	住宅の耐震化	避難訓練への参加	マイ・タイムライン (防災行動計画) の作成	その他	特に何もしていなかった	無回答
全体 (n=2,037)	45.1	39.7	30.1	22.4	21.6	14.8	12.0	1.0	1.6	23.0	1.2
【区別】											
北区 (n=167)	44.9	46.7	28.1	19.8	22.8	16.2	15.0	0.6	1.8	19.2	1.2
東区 (n=342)	49.1	43.0	36.3	23.1	21.9	15.5	11.7	1.8	1.2	18.7	1.2
中央区 (n=448)	44.4	43.8	32.6	25.2	21.4	13.8	14.1	0.7	2.2	22.5	1.3
江南区 (n=185)	41.6	31.4	26.5	21.1	16.8	13.5	3.8	1.6	3.2	30.3	1.1
秋葉区 (n=195)	42.1	39.0	28.2	17.4	20.0	16.4	14.9	1.0	0.5	24.1	1.0
南区 (n=107)	38.3	29.9	24.3	20.6	15.9	14.0	14.0	0.0	0.9	23.4	2.8
西区 (n=376)	50.3	40.7	31.1	22.9	28.5	13.6	9.0	1.3	1.3	23.1	1.1
西蒲区 (n=139)	38.8	29.5	25.9	19.4	16.5	15.1	16.5	0.0	1.4	26.6	0.7
【性別】											
男性 (n=836)	42.0	39.0	26.7	24.0	19.4	14.5	13.5	1.0	2.0	24.4	0.8
女性 (n=1,130)	47.4	40.3	33.6	20.7	23.5	14.7	10.9	1.1	1.3	21.8	1.6
【年齢別】											
18～19歳 (n=16)	43.8	50.0	25.0	37.5	6.3	18.8	6.3	0.0	0.0	25.0	0.0
20～29歳 (n=146)	35.6	30.1	23.3	17.8	17.8	10.3	2.7	0.7	2.1	34.2	0.0
30～39歳 (n=196)	42.3	34.2	35.2	19.4	23.5	19.4	2.6	0.5	0.0	27.0	0.0
40～49歳 (n=294)	46.9	47.6	32.3	13.9	22.8	13.6	8.8	1.0	1.7	22.8	0.3
50～59歳 (n=365)	46.3	38.1	28.2	23.0	24.9	13.7	8.8	0.5	1.4	19.7	0.8
60～69歳 (n=346)	47.4	38.4	27.7	20.5	22.8	9.8	14.2	0.9	1.7	23.7	0.6
70歳以上 (n=605)	45.5	41.3	33.2	27.9	19.5	17.5	19.7	1.7	2.1	20.3	3.1

(2) 災害に備えた備蓄

問2 あなたは、災害に備えご家庭でどのようなものを備蓄していましたか。(あてはまるものすべて)



【全体結果】

災害に備えた備蓄は、「照明器具（LEDランタン、懐中電灯など）」（64.0%）が最も割合が高く、次いで「飲料水」（57.0%）、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー（ポータブル充電器など）」（50.4%）が5割台で、「ラジオ（乾電池式、手回し式など）」（47.5%）、「生活用品（トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど）」（44.3%）、「カセットコンロ」（42.8%）が4割台で続く。

【属性別結果】（次ページ図 1.2 参照）

① 区別

「照明器具（LEDランタン、懐中電灯など）」と答えた割合は、西区（68.1%）で最も高く、西蒲区（58.3%）で最も低い。「飲料水」と答えた割合は、西区と東区（いずれも61.7%）で最も高く、西蒲区（48.9%）で最も低い。「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー（ポータブル充電器など）」と答えた割合は、東区（54.7%）で最も高く、西蒲区（42.4%）で最も低い。

西蒲区は、他の区と比較して割合が低い項目が多い。

② 性別

「飲料水」（男性54.5%、女性59.2%）、「生活用品（トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど）」（男性37.0%、女性49.7%）、「カセットコンロ」（男性40.6%、女性44.0%）「衛生用品（ウェットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど）」（男性29.7%、女性43.2%）」と答えた割合は、男性よりも女性で高く、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー（ポータブル充電器など）」（男性52.8%、女性48.3%）と答えた割合は、女性よりも男性で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「照明器具（LEDランタン、懐中電灯など）」は70歳以上（71.2%）で答えた割合が最も高く、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられた。「飲料水」は40～49歳（58.8%）、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー（ポータブル充電器など）」は60～69歳（52.0%）で答えた割合が最も高い。

20～29歳で他の年齢と比較して、割合が低い項目が多い。

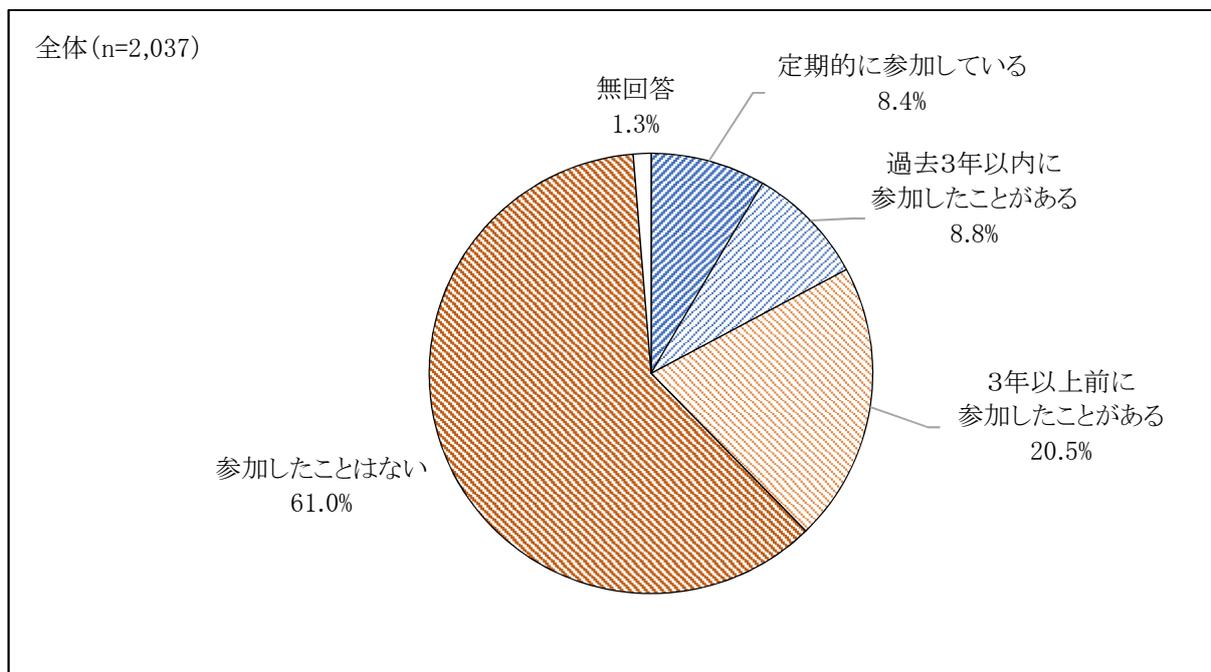
図 1.2 災害に備えた備蓄

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	照明器具 (LEDランタン、懐中電灯など)	飲料水	乾電池、携帯電話等の予備バッテリー (ポータブル充電器など)	ラジオ (乾電池式、手回し式など)	生活用品 (トイレットペーパー、 ティッシュペーパー、ラップなど)	カセットコンロ	衛生用品 (ウェットティッシュ、 常備薬、生理用品、歯ブラシなど)	非常食	現金	暖房器具 (停電時にも使用可能なストーブな ど)	毛布、寝袋、携帯カイロ	ペット用品 (えさ、ケージなど)	ベビー用品 (ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)	その他	何も備えていなかった	無回答
全体 (n=2,037)	64.0	57.0	50.4	47.5	44.3	42.8	37.0	36.1	33.4	29.5	27.1	8.7	2.9	1.4	11.5	0.6
【区別】																
北区 (n=167)	61.7	57.5	47.9	44.9	40.1	41.9	33.5	33.5	29.9	31.1	24.6	8.4	3.6	0.0	10.8	0.0
東区 (n=342)	64.9	61.7	54.7	48.5	46.2	43.3	38.9	43.9	36.5	29.5	28.4	8.8	3.5	0.9	11.4	0.6
中央区 (n=448)	61.4	58.9	51.1	48.4	44.2	42.6	38.4	37.5	32.4	22.5	29.9	9.2	2.7	2.5	13.4	0.7
江南区 (n=185)	66.5	51.9	45.9	47.0	44.3	42.7	34.1	31.9	31.4	30.3	25.4	6.5	4.3	0.0	11.9	1.1
秋葉区 (n=195)	62.1	52.8	50.3	52.8	45.1	41.0	35.9	28.7	33.3	33.8	27.2	7.7	2.6	0.5	9.7	0.0
南区 (n=107)	63.6	49.5	45.8	40.2	38.3	39.3	35.5	31.8	32.7	33.6	26.2	9.3	0.9	1.9	10.3	1.9
西区 (n=376)	68.1	61.7	52.4	48.7	47.9	46.5	43.9	38.3	35.1	31.1	27.7	9.8	2.9	2.1	10.9	0.3
西蒲区 (n=139)	58.3	48.9	42.4	36.0	39.6	36.0	27.3	32.4	30.9	34.5	23.0	7.2	1.4	0.7	13.7	0.7
【性別】																
男性 (n=836)	62.7	54.5	52.8	48.4	37.0	40.6	29.7	34.0	31.0	27.8	22.8	6.7	2.8	1.1	13.2	0.6
女性 (n=1,130)	64.3	59.2	48.3	46.1	49.7	44.0	43.2	38.1	34.9	30.4	30.5	9.9	3.1	1.5	10.7	0.6
【年齢別】																
18～19歳 (n=16)	75.0	68.8	50.0	50.0	43.8	37.5	43.8	43.8	62.5	18.8	31.3	18.8	12.5	0.0	12.5	0.0
20～29歳 (n=146)	43.2	48.6	44.5	26.0	29.5	22.6	34.9	30.8	32.9	9.6	22.6	4.1	2.1	2.1	17.8	0.0
30～39歳 (n=196)	54.1	58.7	50.5	27.6	34.2	34.7	42.9	35.2	32.1	13.3	26.5	7.1	16.8	0.0	15.8	0.0
40～49歳 (n=294)	60.2	58.8	48.6	40.8	41.2	44.6	44.2	39.8	25.5	21.8	29.3	9.5	3.4	2.0	10.9	0.3
50～59歳 (n=365)	63.3	57.3	50.1	46.0	45.8	41.4	37.3	37.8	26.6	26.6	30.1	9.6	1.1	1.4	13.7	0.5
60～69歳 (n=346)	67.3	58.1	52.0	47.7	48.0	51.4	33.8	37.6	33.2	37.9	25.7	11.6	0.9	1.4	9.5	0.3
70歳以上 (n=605)	71.2	57.4	51.4	62.0	49.9	44.6	35.0	34.5	40.8	40.2	26.6	7.1	0.5	1.2	9.4	1.3

(3) 防災関連事業の参加状況

問3 あなたは、自治会・町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防災関連事業に参加したことがありますか。(どれか1つ)



【全体結果】

防災関連事業に、「定期的に参加している」が8.4%、「過去3年以内に参加したことがある」が8.8%、「3年以上前に参加したことがある」が20.5%、「参加したことはない」が61.0%となった。

【属性別結果】(次ページ図1.3参照)

① 区別

「参加したことはない」と答えた割合は、江南区(74.6%)で最も高く、南区(42.1%)で最も低い。

② 性別

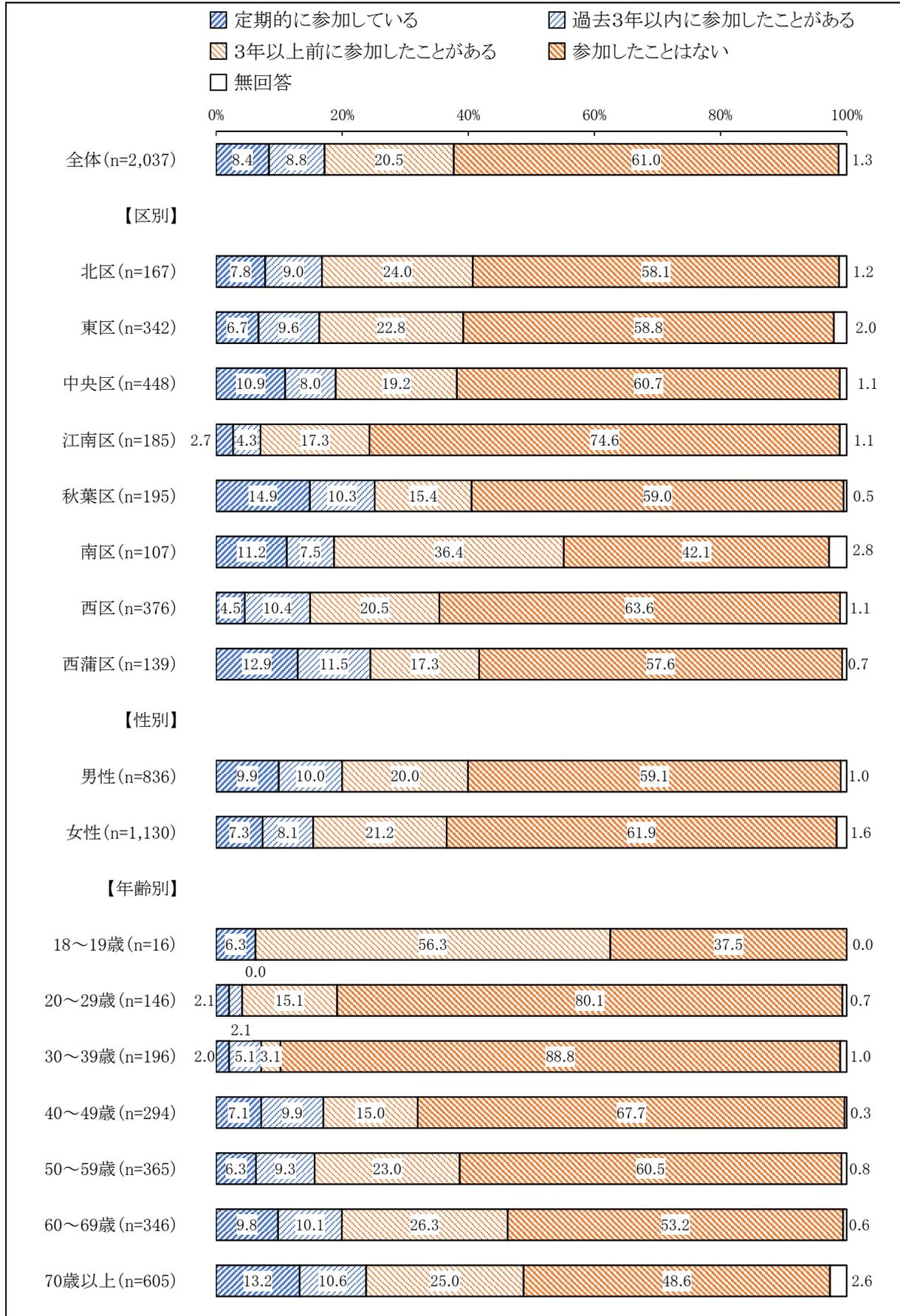
「参加したことはない」と答えた割合は、男性(59.1%)より女性(61.9%)で高い。

③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「参加したことはない」と答えた割合は、30~39歳(88.8%)で最も高く、75歳以上(48.6%)で最も低い。

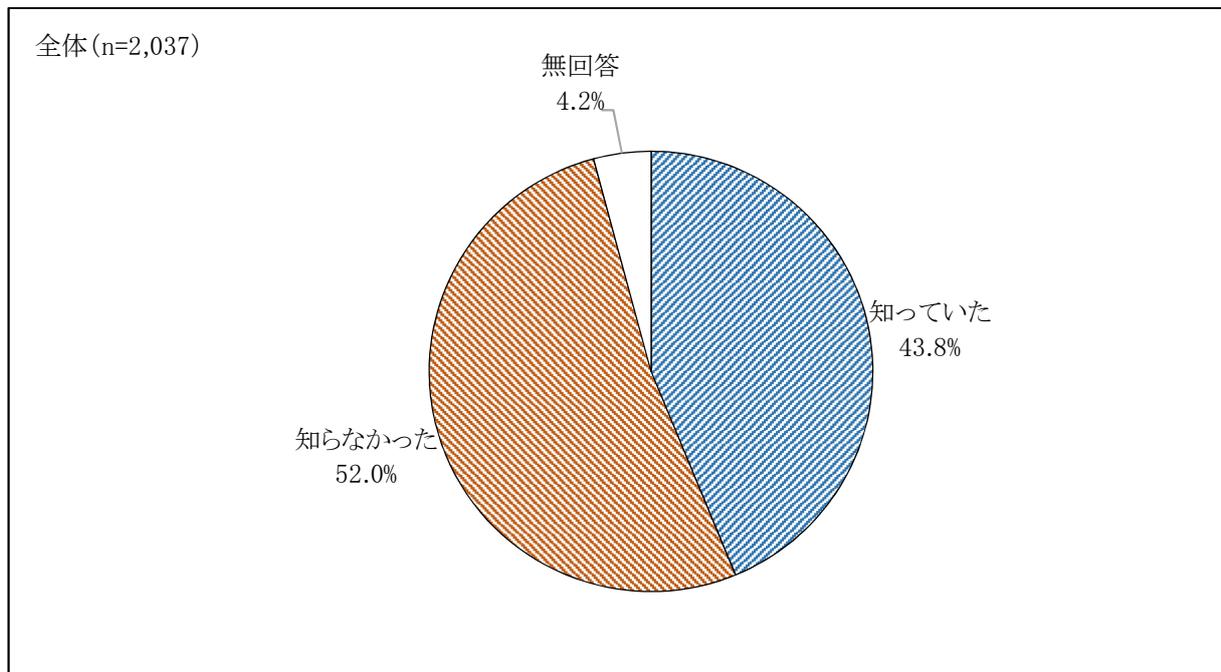
図 1.3 防災関連事業の参加状況

(区別/性別/年齢別)



(4) 津波浸水想定状況の認知状況

問4 あなたは、「新潟市津波ハザードマップ」でご自宅やお勤め先の津波浸水想定状況（津波の高さや到達時間）を知っていましたか。



【全体結果】

津波浸水想定状況を、「知っていた」が43.8%、「知らなかった」が52.0%となった。

【属性別結果】（次ページ図1.4参照）

① 区別

「知らなかった」と答えた割合は、西蒲区（70.5%）で最も高く、東区（42.7%）で最も低い。

② 性別

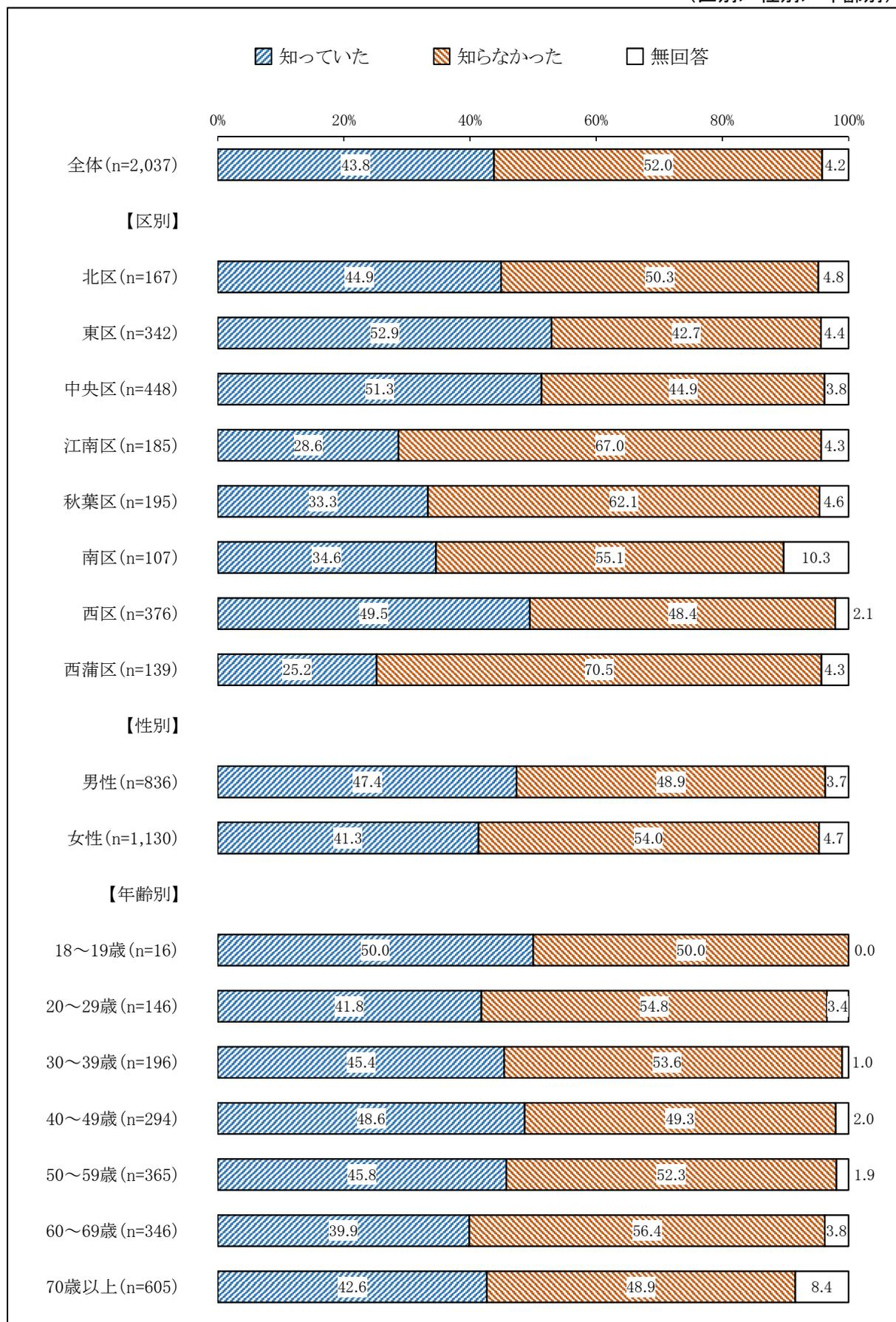
「知らなかった」と答えた割合は、男性（48.9%）より女性（54.0%）で高い。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「知らなかった」と答えた割合は、60～69歳（56.4%）で最も高い。

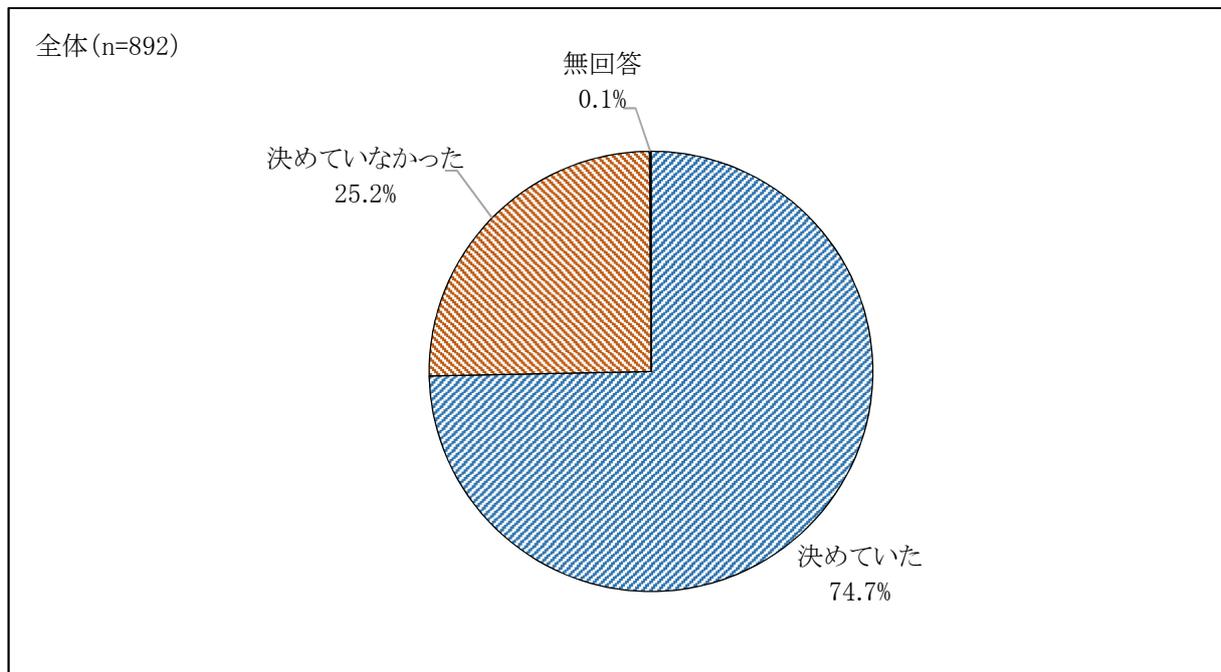
図 1.4 津波浸水想定状況の認知状況

(区別／性別／年齢別)



(5) 津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていたか

問5 あなたは、津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていましたか。



【全体結果】

津波警報が発表された時にどこへ避難するか「決めていた」と答えた割合が74.7%、「決めていなかった」と答えた割合が25.2%となった。

【属性別結果】(次ページ図1.5参照)

① 区別

「決めていなかった」と答えた割合は、江南区(35.8%)で最も高く、東区(17.7%)で最も低い。

② 性別

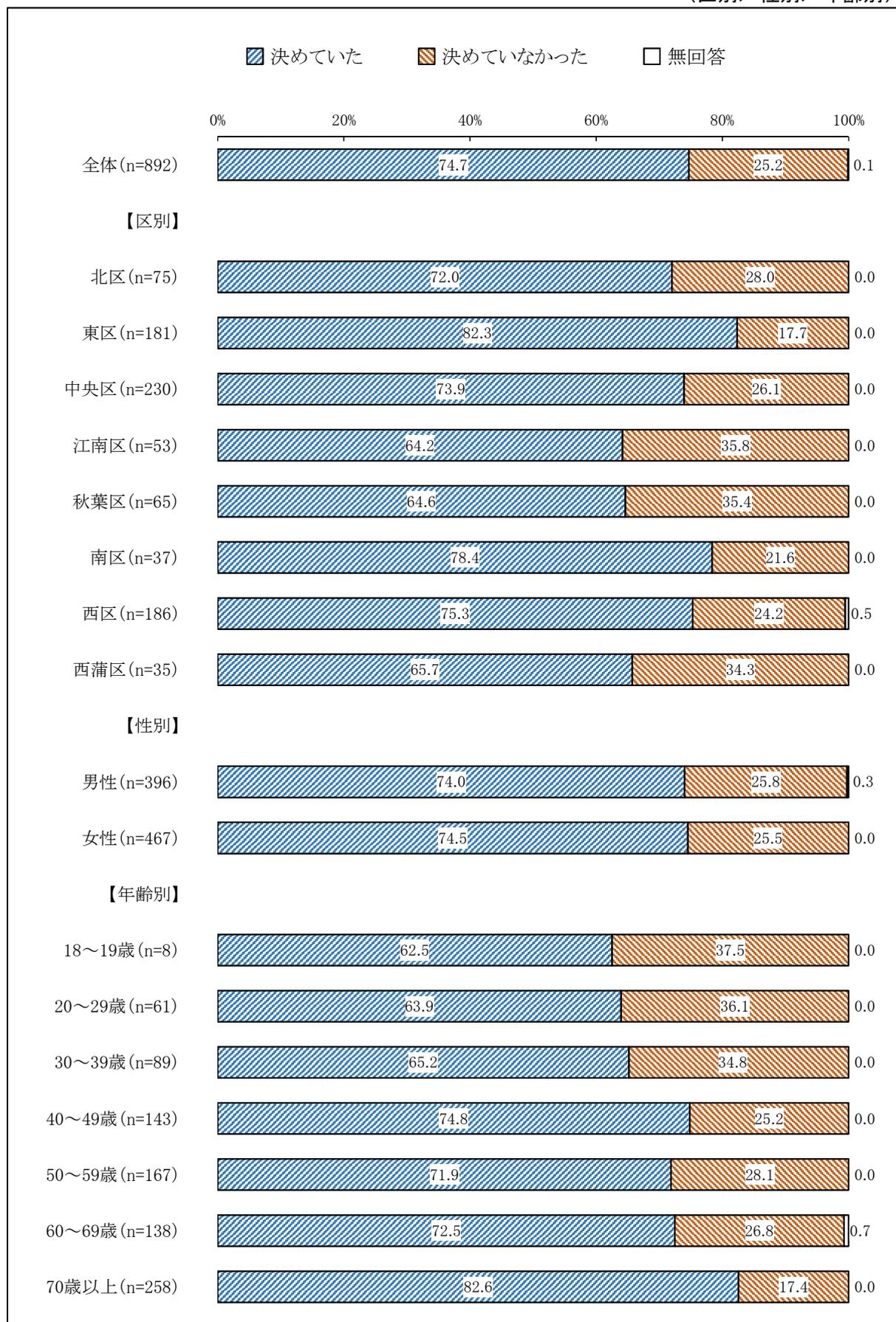
「決めていなかった」と答えた割合は、男女での大きな差はみられなかった。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「決めていなかった」と答えた割合は、20～29歳(36.1%)で最も高く、年齢が高いほど割合が低くなる傾向がみられる。

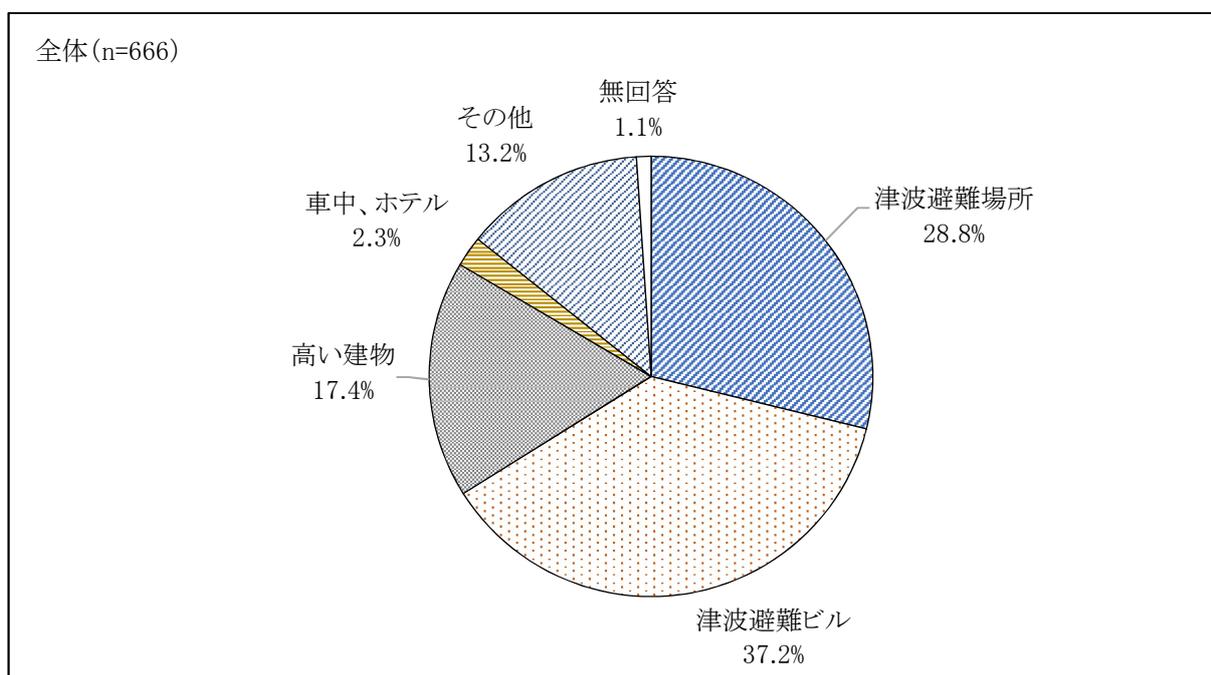
図 1.5 津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていたか

(区別／性別／年齢別)



(6) 避難すると決めていた場所

問6 どこへ避難するか決めていましたか。(どれか1つ)



【全体結果】

避難すると決めていた場所は、「津波避難ビル」(37.2%)の割合が最も高く、次いで「津波避難場所」(28.8%)、「高い建物」(17.4%)の順に続いた。「その他」は「自宅(マンション)」等の意見がみられた。

【属性別結果】(次ページ図1.6参照)

① 区別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

② 性別

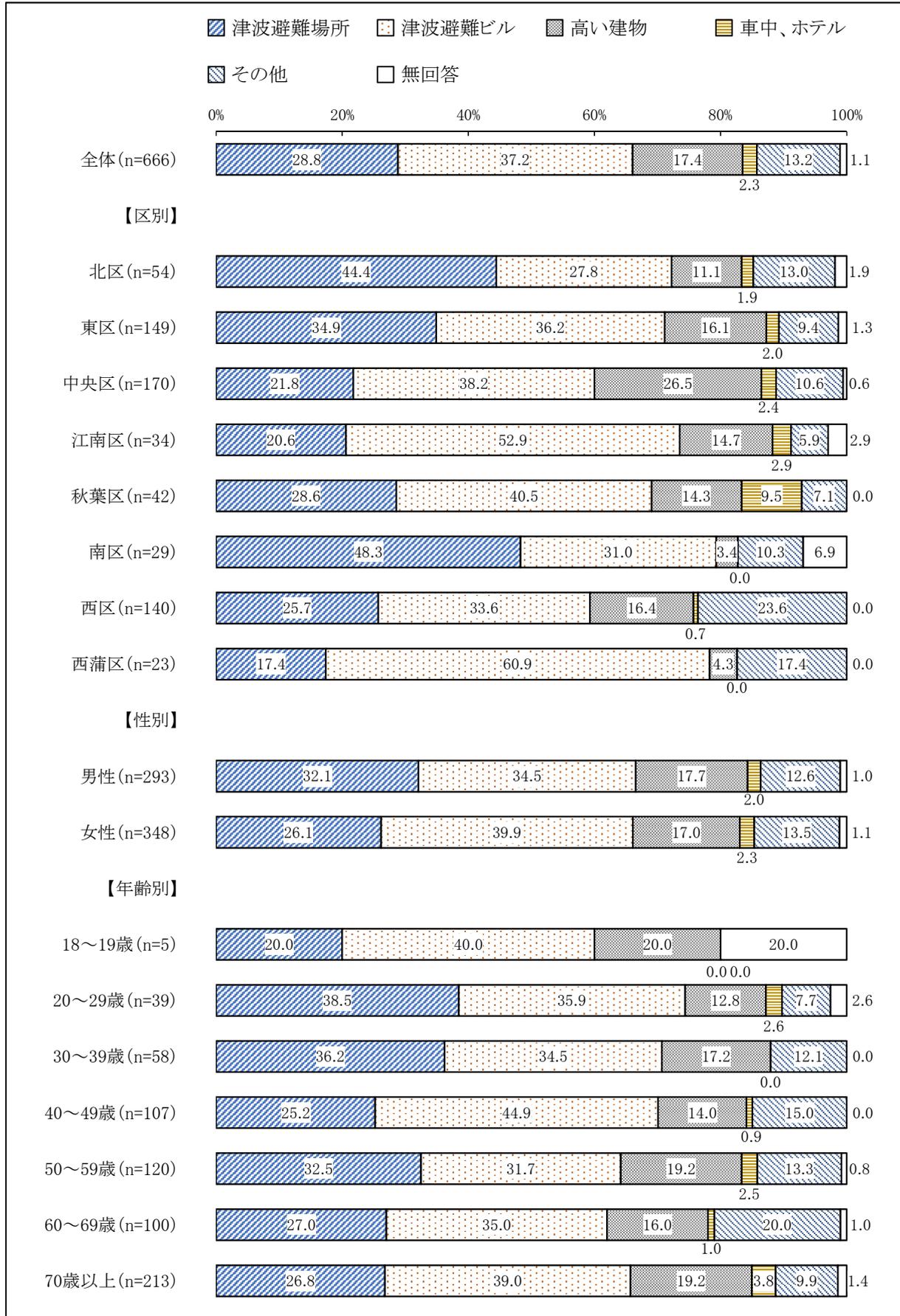
「津波避難場所」と答えた割合は、女性(26.1%)より男性(32.1%)で高く、「津波避難ビル」と答えた割合は、男性(34.5%)より女性(39.9%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

図 1.6 避難すると決めていた場所

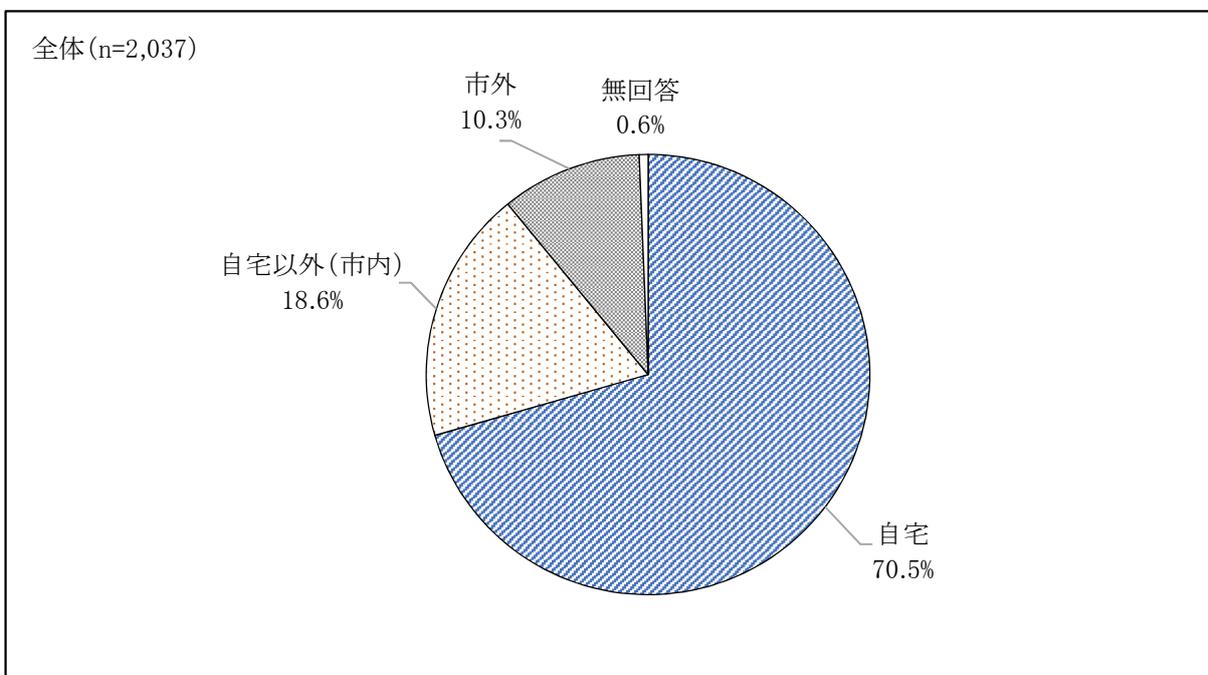
(区別/性別/年齢別)



2. 地震発生時の行動について

(1) 地震発生時にいた場所

問7 あなたは、地震発生（津波警報発表）時どこにいましたか。（どれか1つ）



【全体結果】

地震発生時にいた場所は、「自宅」(70.5%)の割合が最も高く、次いで「自宅以外(市内)」(18.6%)、「市外」(10.3%)の順に続いた。

【属性別結果】(次ページ図2.1参照)

① 区別

「自宅」と答えた割合は、南区(80.4%)で最も高く、中央区(65.2%)で最も低かった。

② 性別

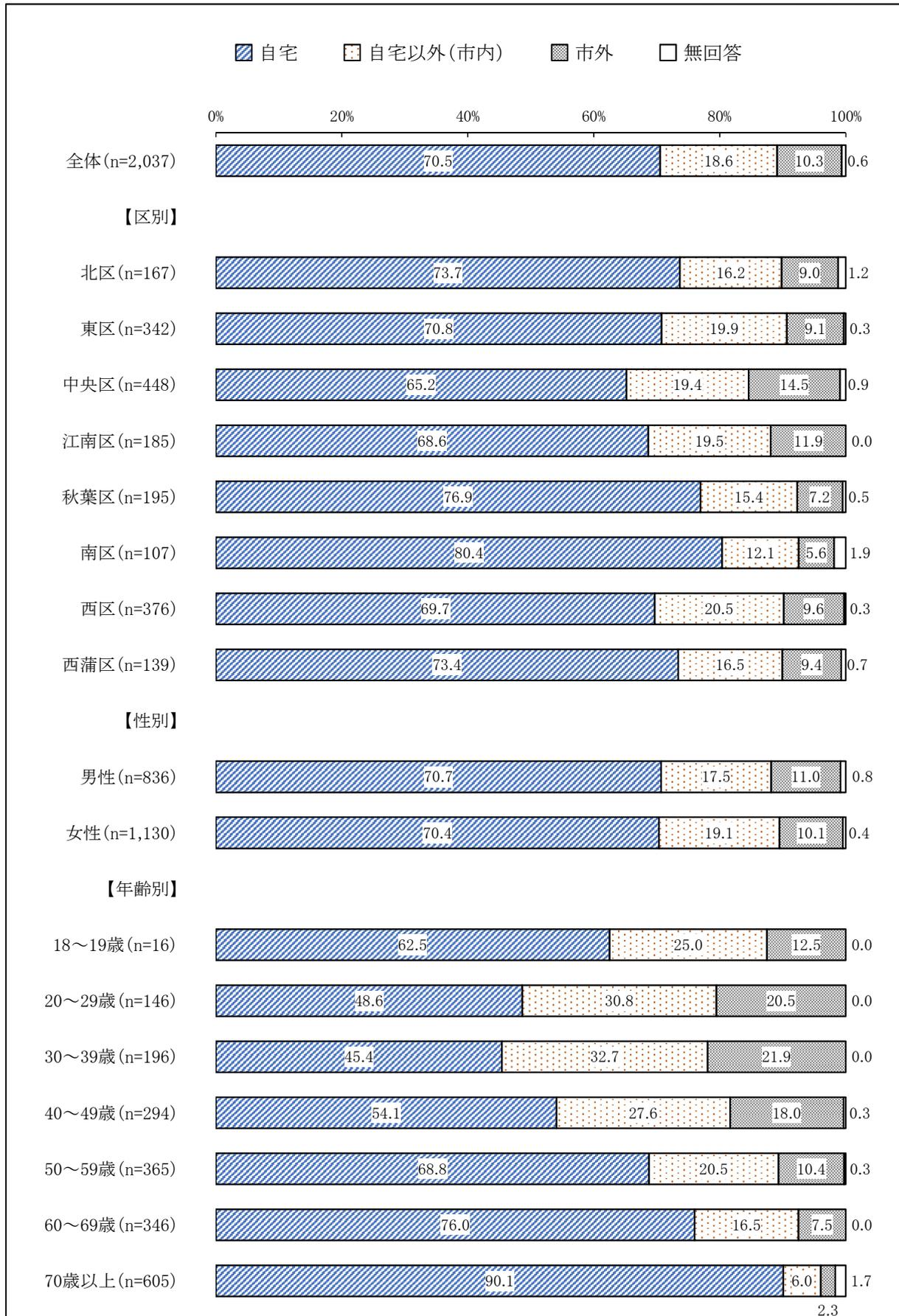
男女での大きな差はみられなかった。

③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「自宅」と答えた割合は、70歳以上(90.1%)で最も高く、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

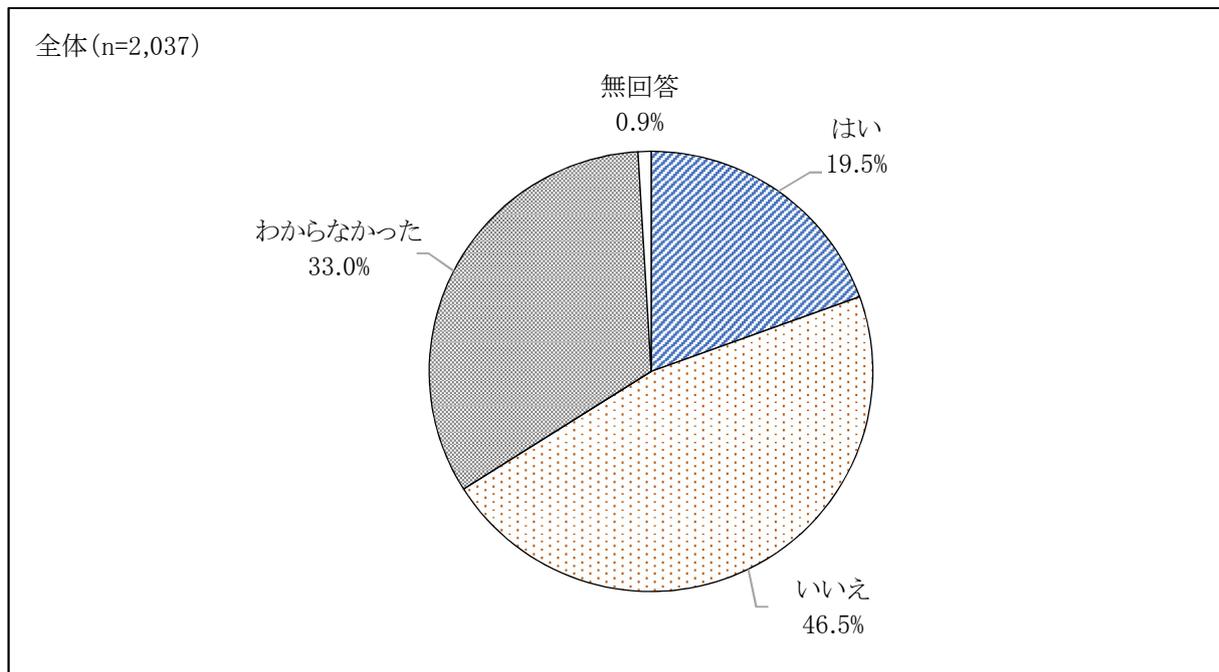
図 2.1 地震発生時にいた場所

(区別/性別/年齢別)



(2) 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域であったか

問8 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。(どれか一つ)



【全体結果】

地震発災時にいた場所は津波浸水想定区域であったかという問いに対し、「はい」と答えた割合が19.5%、「いいえ」が46.5%、「わからなかった」が33.0%となった。

【属性別結果】(次ページ図2.2参照)

① 区別

「はい」と答えた割合は、東区(29.8%)で最も高く、次いで中央区(29.5%)、北区(24.6%)、西区(18.6%)の順に続いた。

② 性別

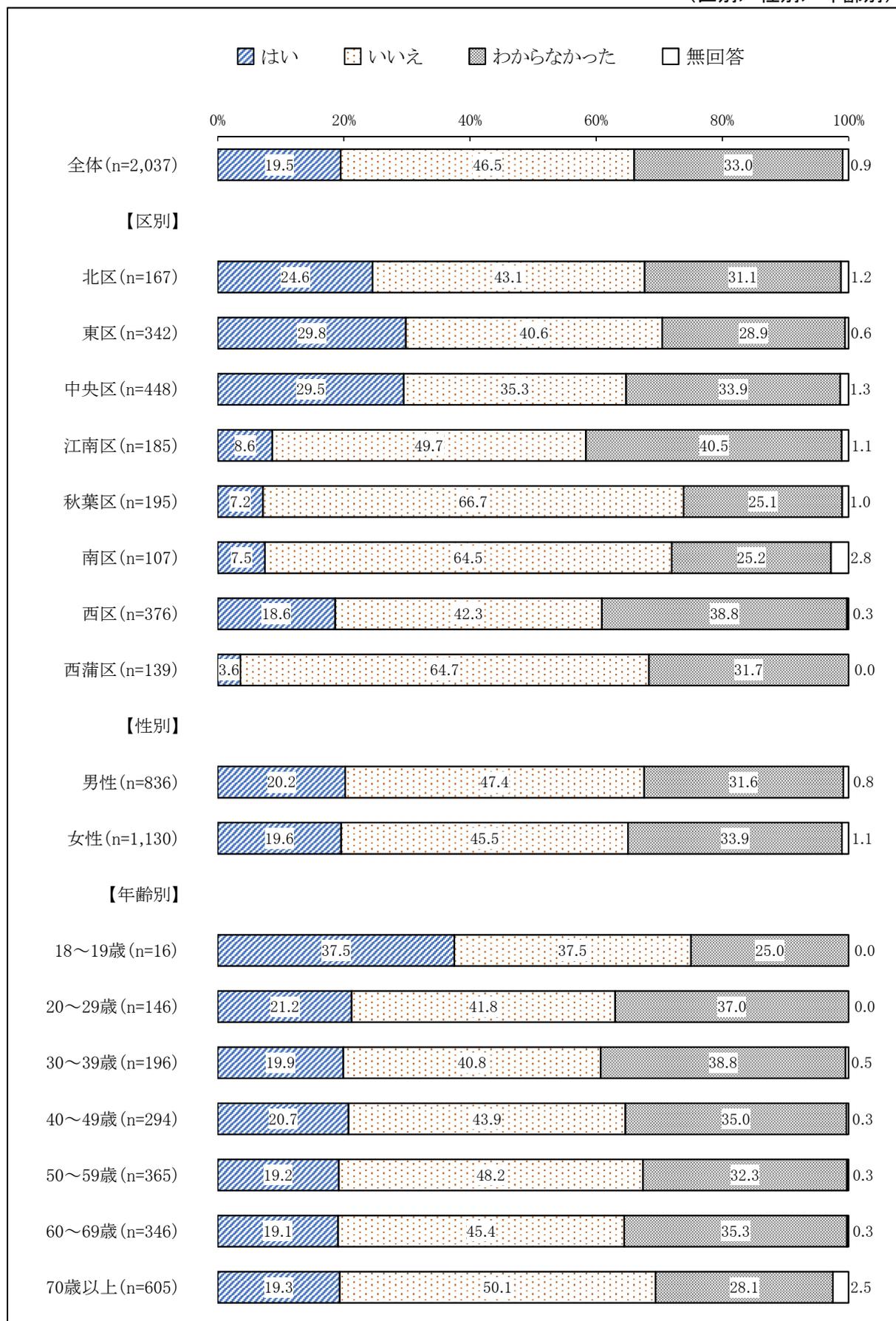
男女での大きな差はみられなかった。

③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「わからなかった」と答えた割合は、30~39歳(38.8%)で最も高く、次いで20~29歳(37.0%)、60~69歳(35.3%)の順に続いた。

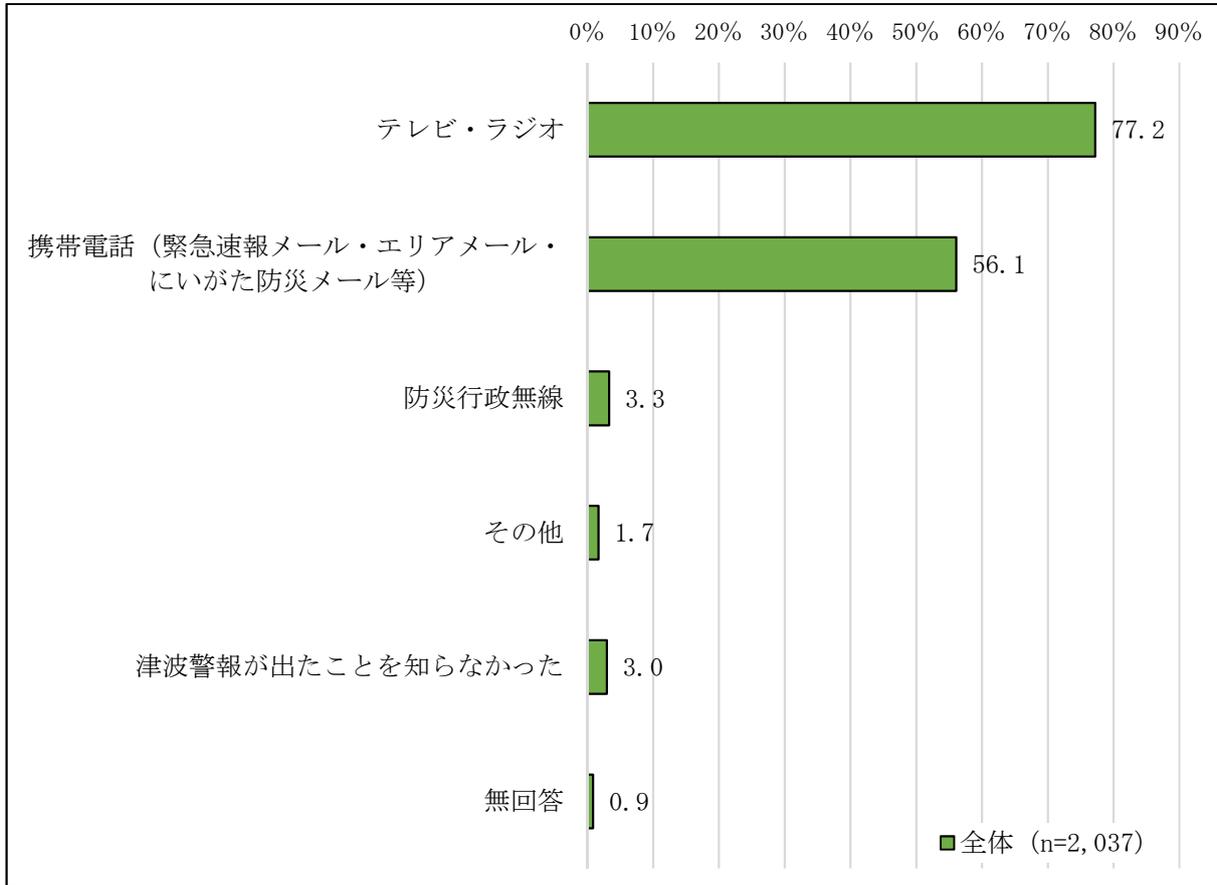
図 2.2 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域であったか

(区別／性別／年齢別)



(3) 津波警報を知った方法

問9 津波警報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて)



【全体結果】

津波警報を知った方法は、「テレビ・ラジオ」(77.2%)、「携帯電話 (緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等)」(56.1%)と答えた割合が高く、他は低い。

【属性別結果】(次ページ図 2.3 参照)

① 区別

「防災行政無線」と答えた割合は、西蒲区(8.6%)で最も高く、「津波警報が出たことを知らなかった」も西蒲区(6.5%)で最も高かった。

② 性別

男女での大きな差はみられなかった。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「テレビ・ラジオ」は年齢が高くなるほど、「携帯電話 (緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等)」は年齢が低くなるほど、答えた人の割合が高くなる傾向がみられた。

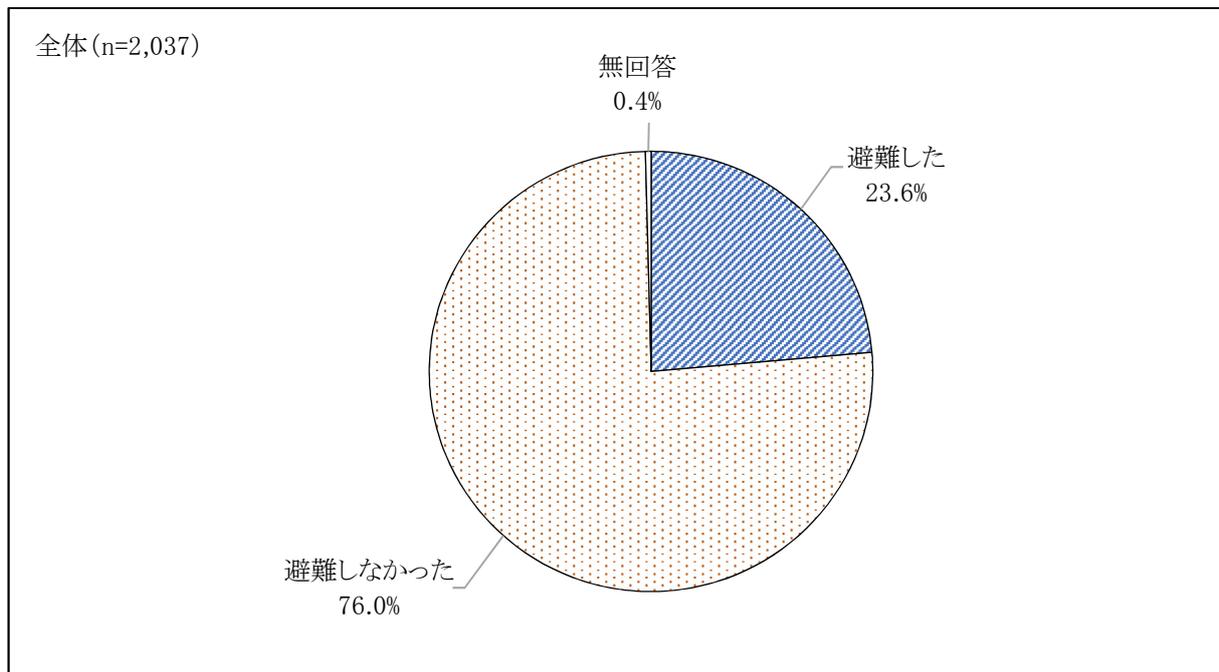
図 2.3 津波警報を知った方法

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	テレビ・ラジオ	携帯電話 （緊急速報メール・ エリアメール・ 防災メール等）	防災行政無線	その他	津波警報が出たことを 知らなかった	無回答
全体 (n=2,037)	77.2	56.1	3.3	1.7	3.0	0.9
【区別】						
北区 (n=167)	76.6	64.1	3.6	0.6	2.4	0.0
東区 (n=342)	75.4	63.7	2.6	1.8	0.3	1.2
中央区 (n=448)	77.0	53.3	3.6	3.6	2.9	0.7
江南区 (n=185)	77.3	51.4	1.1	1.6	5.9	0.5
秋葉区 (n=195)	83.6	50.8	1.5	0.0	1.0	2.1
南区 (n=107)	83.2	45.8	5.6	0.0	5.6	2.8
西区 (n=376)	75.8	57.7	2.9	1.6	2.9	0.3
西蒲区 (n=139)	79.9	51.8	8.6	0.0	6.5	0.7
【性別】						
男性 (n=836)	76.3	57.3	3.5	1.4	2.4	1.1
女性 (n=1,130)	78.6	54.8	3.3	2.0	3.3	0.8
【年齢別】						
18～19歳 (n=16)	75.0	62.5	0.0	6.3	0.0	0.0
20～29歳 (n=146)	67.1	64.4	3.4	4.8	1.4	0.0
30～39歳 (n=196)	68.9	68.4	3.1	2.0	1.0	0.0
40～49歳 (n=294)	78.6	59.5	3.1	1.4	2.4	0.0
50～59歳 (n=365)	80.0	57.3	3.6	2.2	2.2	0.3
60～69歳 (n=346)	78.0	56.4	4.0	1.4	3.2	0.6
70歳以上 (n=605)	81.2	46.6	3.1	1.0	4.5	2.5

(4) 地震発災時の避難状況

問 10 地震発生時に避難しましたか。



【全体結果】

地震発災時に「避難した」と答えた人の割合は 23.6%、「避難しなかった」は 76.0%となった。

【属性別結果】(次ページ図 2.4 参照)

① 区別

「避難した」と答えた割合は、西区(34.0%)で最も高く、次いで東区(33.9%)、中央区(27.9%)、北区(25.7%)の順に続いた。

② 性別

「避難した」と答えた割合は、男性(22.4%)より女性(25.4%)で高い。

③ 年齢別

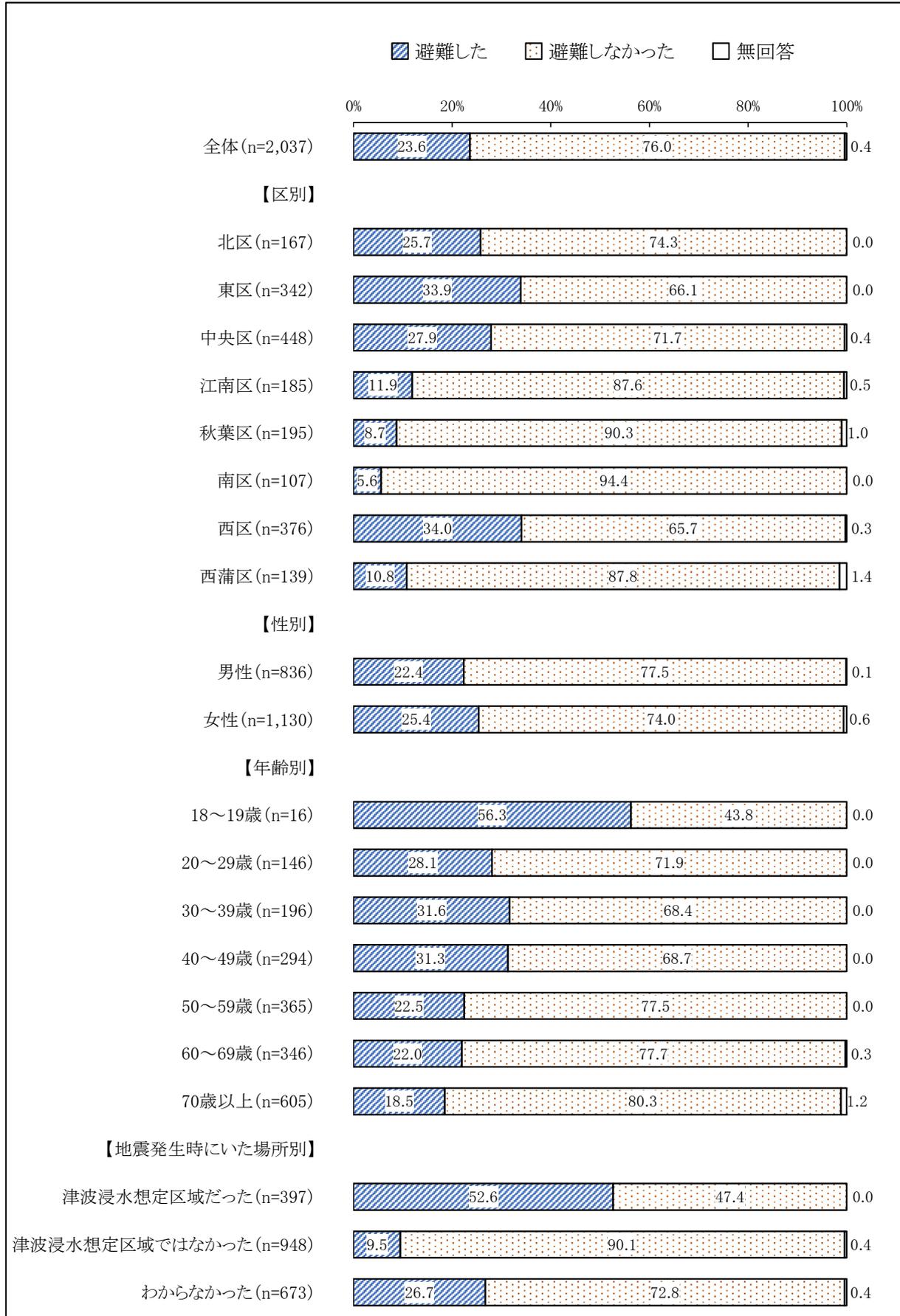
回答数が少ない 18~19 歳を除き、「避難した」と答えた割合は、30~39 歳(31.6%)で最も高く、70 歳以上(18.5%)で最も低い。30 歳以上では年齢が高いほど、割合が低くなる傾向がみられた。

④ 地震発生時にいた場所別

「避難した」と答えた割合は、地震発生時にいた場所が、津波浸水想定区域だった(52.6%)で高く、津波浸水想定区域ではなかった(9.5%)と大きな差がみられた。また、わからなかったは、26.7%であった。

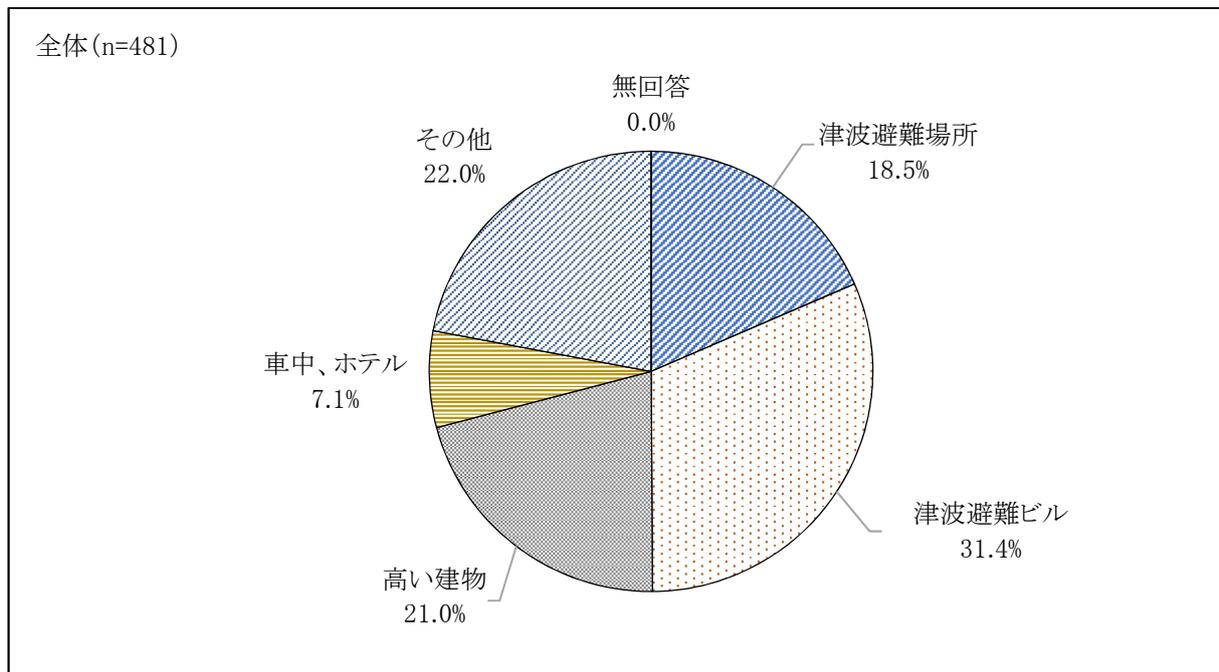
図 2.4 地震発災時の避難状況

(区別／性別／年齢別／地震発生時にいた場所別)



(5) 避難した場所

問 11 問 11～22 は避難した方（問 10 で「1」を選んだ方）のみお答えください。
どこに避難しましたか。（どれか1つ）



【全体結果】

避難した場所は、「津波避難ビル」(31.4%)の割合がもっと高く、次いで「高い建物」(21.0%)、「津波避難場所」(18.5%)の順に続いた。

【属性別結果】(次ページ図 2.5 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「津波避難ビル」の割合が最も高かった。

② 性別

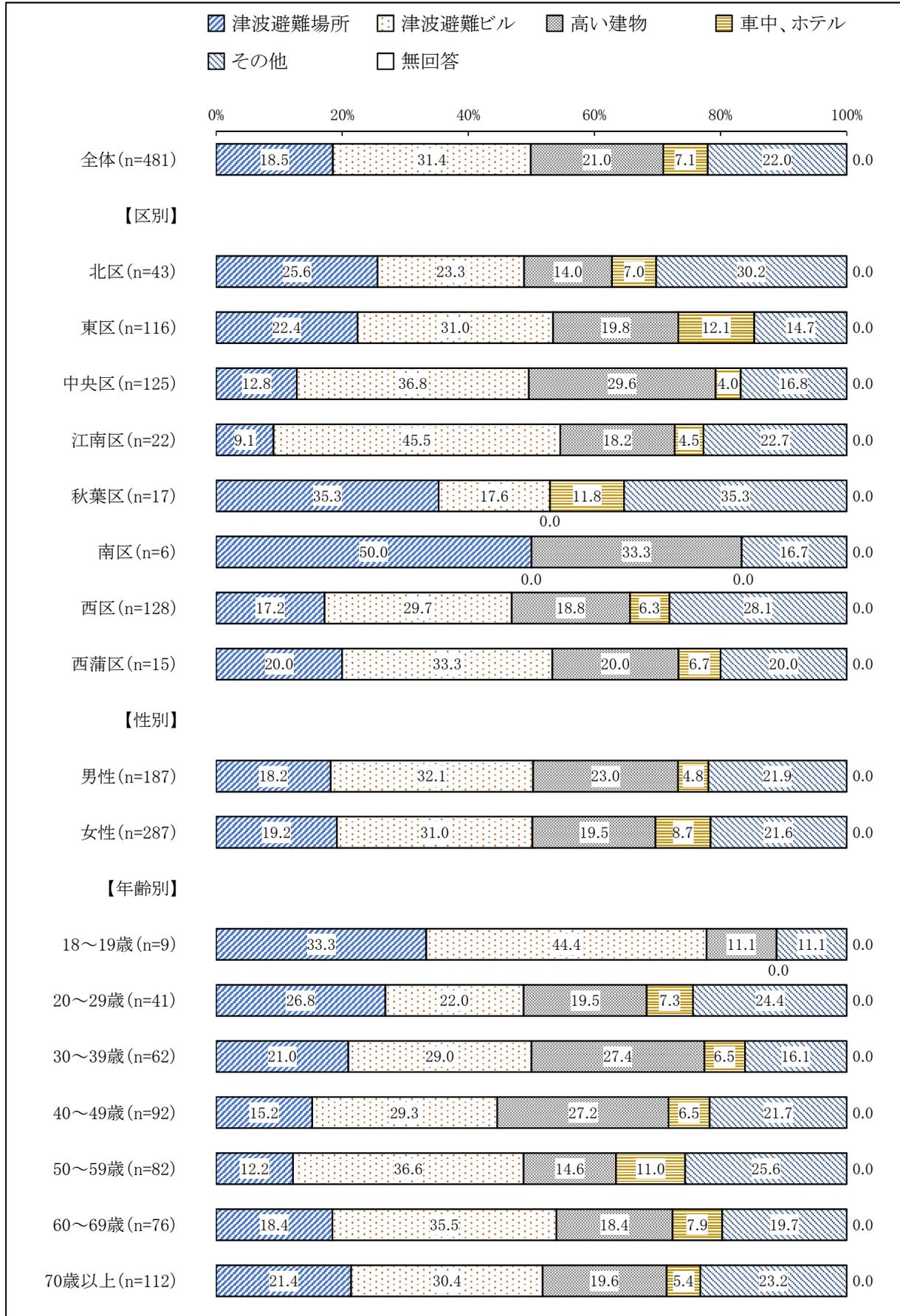
「高い建物」と答えた割合は、女性(19.5%)より男性(23.0%)で高く、「車中、ホテル」と答えた割合は、男性(4.8%)より女性(8.7%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「津波避難ビル」と答えた割合は、50～59歳(36.6%)で、「高い建物」と答えた割合は、30～39歳(27.4%)で、「津波避難場所」と答えた割合は、20～29歳(26.8%)で最も高い。

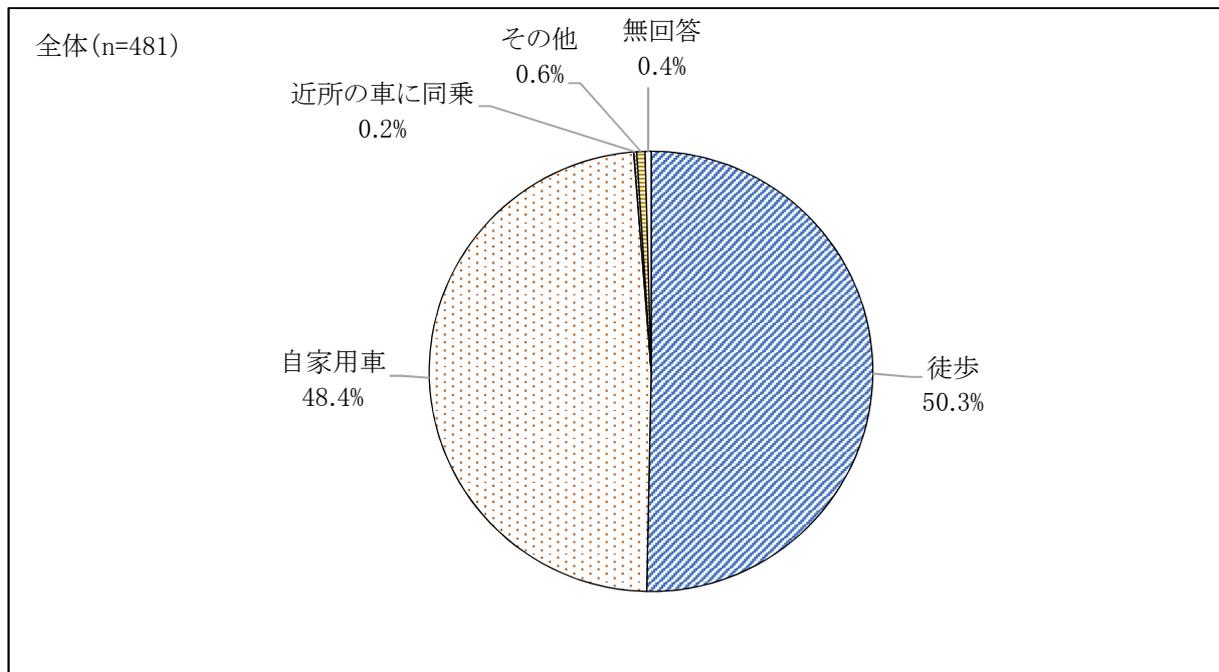
図 2.5 避難した場所

(区別/性別/年齢別)



(6) 避難方法

問 12 どうやって避難しましたか。(どれか1つ)



【全体結果】

避難した方法は、「徒歩」(50.3%)と「自家用車」(48.4%)が概ね半数ずつの割合となった。他の割合は低い。

【属性別結果】(次ページ図 2.6 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、「徒歩」の割合は中央区(60.0%)で最も高く、東区(50.9%)で最も低く差はみられるが、いずれも「徒歩」の割合が「自家用車」の割合を上回っている。

② 性別

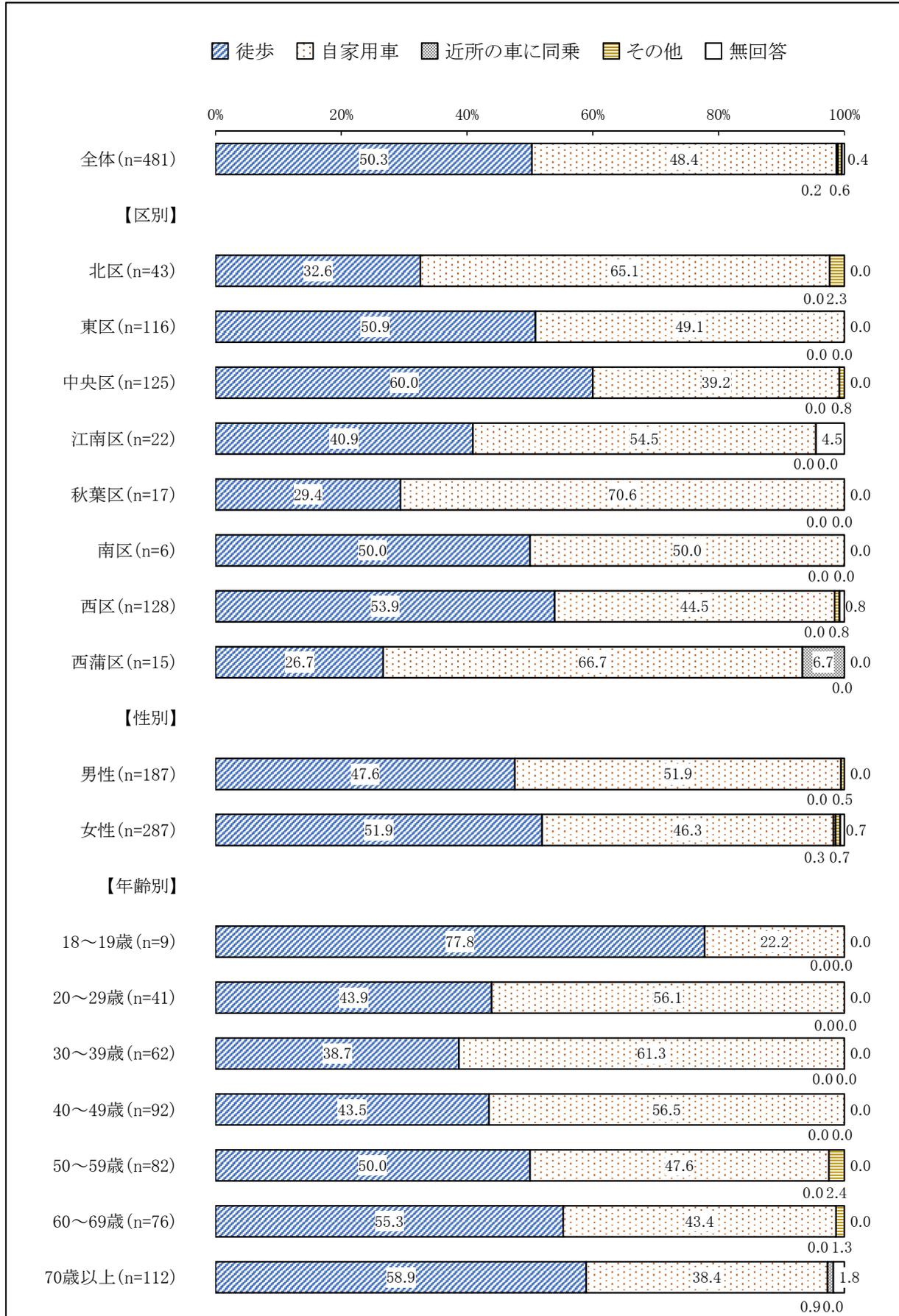
「徒歩」と答えた割合は、男性(47.6%)より女性(51.9%)で高い。

③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「徒歩」と答えた割合は、70歳以上(58.9%)で最も高く、30~39歳(38.7%)で最も低い。30歳以上では年齢が高くなるほど、割合が高くなる傾向がみられる。

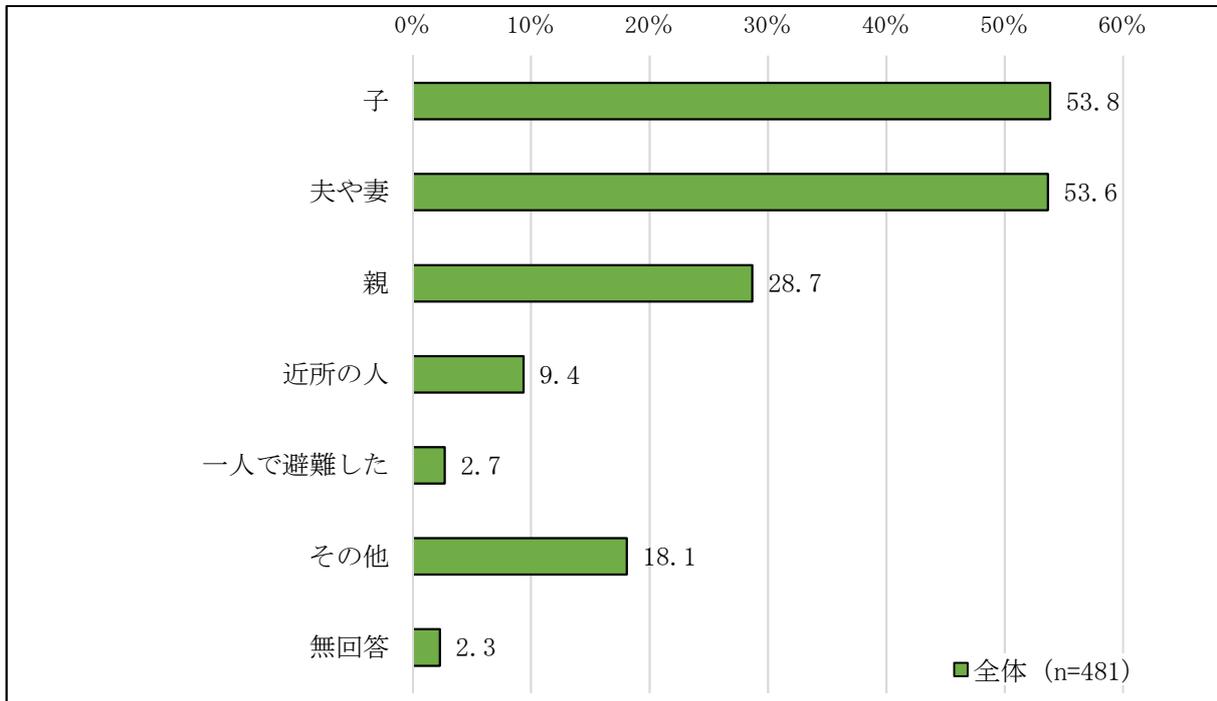
図 2.6 避難方法

(区別/性別/年齢別)



(7) 一緒に避難した人

問 13 誰と避難しましたか。(あてはまるものすべて)



【全体結果】

一緒に避難した人は、「子」(53.8%)と「夫や妻」(53.6%)が5割を越し割合が高くなっている。次いで「親」(28.7%)、「近所の人」(9.4%)の順に続いた。

【属性別結果】(次ページ図 2.7 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、「子」の割合は東区(59.5%)で最も高く、「夫や妻」の割合は西区(60.2%)で最も高い。

② 性別

「夫や妻」と答えた割合は、女性(48.8%)より男性(60.4%)で高く、「親」と答えた割合は、男性(24.6%)より女性(31.7%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「子」と答えた割合は、40~49歳(68.5%)で最も高く、「夫や妻」と答えた割合は60~65歳(65.8%)で最も高い。「親」と答えた人の割合は、年齢が高くなるほど低くなるが、60~65歳(22.4%)でも2割を超えている。

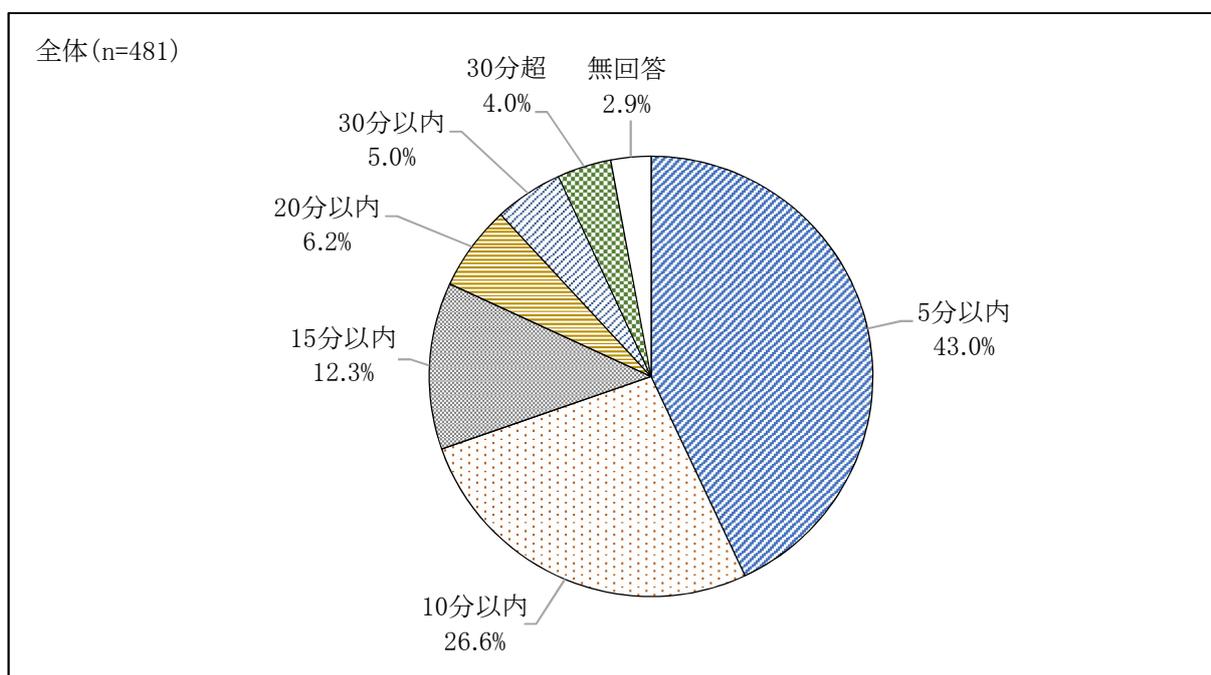
図 2.7 一緒に避難した人

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	子	夫や妻	親	近所の人	一人で避難した	その他	無回答
全体 (n=481)	53.8	53.6	28.7	9.4	2.7	18.1	2.3
【区別】							
北区 (n=43)	53.5	60.5	18.6	4.7	2.3	16.3	4.7
東区 (n=116)	59.5	50.9	24.1	8.6	1.7	13.8	1.7
中央区 (n=125)	48.8	45.6	25.6	9.6	4.8	18.4	0.8
江南区 (n=22)	63.6	63.6	31.8	4.5	4.5	31.8	4.5
秋葉区 (n=17)	52.9	47.1	41.2	5.9	5.9	23.5	0.0
南区 (n=6)	16.7	66.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
西区 (n=128)	54.7	60.2	33.6	11.7	0.8	17.2	3.9
西蒲区 (n=15)	46.7	46.7	66.7	13.3	0.0	26.7	0.0
【性別】							
男性 (n=187)	52.4	60.4	24.6	8.0	4.8	13.9	2.7
女性 (n=287)	54.4	48.8	31.7	10.1	1.4	20.6	2.1
【年齢別】							
18～19歳 (n=9)	0.0	0.0	88.9	11.1	11.1	33.3	0.0
20～29歳 (n=41)	19.5	22.0	61.0	2.4	4.9	24.4	2.4
30～39歳 (n=62)	53.2	54.8	40.3	6.5	3.2	27.4	1.6
40～49歳 (n=92)	68.5	58.7	34.8	8.7	3.3	20.7	3.3
50～59歳 (n=82)	57.3	57.3	32.9	7.3	6.1	9.8	0.0
60～69歳 (n=76)	63.2	65.8	22.4	10.5	0.0	13.2	1.3
70歳以上 (n=112)	49.1	52.7	2.7	14.3	0.0	16.1	4.5

(8) 避難先までかかった時間

問 14 避難先までどれくらいの時間がかかりましたか。



【全体結果】

避難先までかかった時間は、「5分以内」(43.0%)の割合が最も高く、次いで「10分以内」(26.6%)、「15分以内」(12.3%)、「20分以内」(6.2%)の順に続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.8 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「5分以内」と答えた割合が最も高く、「5分以内」と「10分以内」の合計で、7割前後を占めている。

② 性別

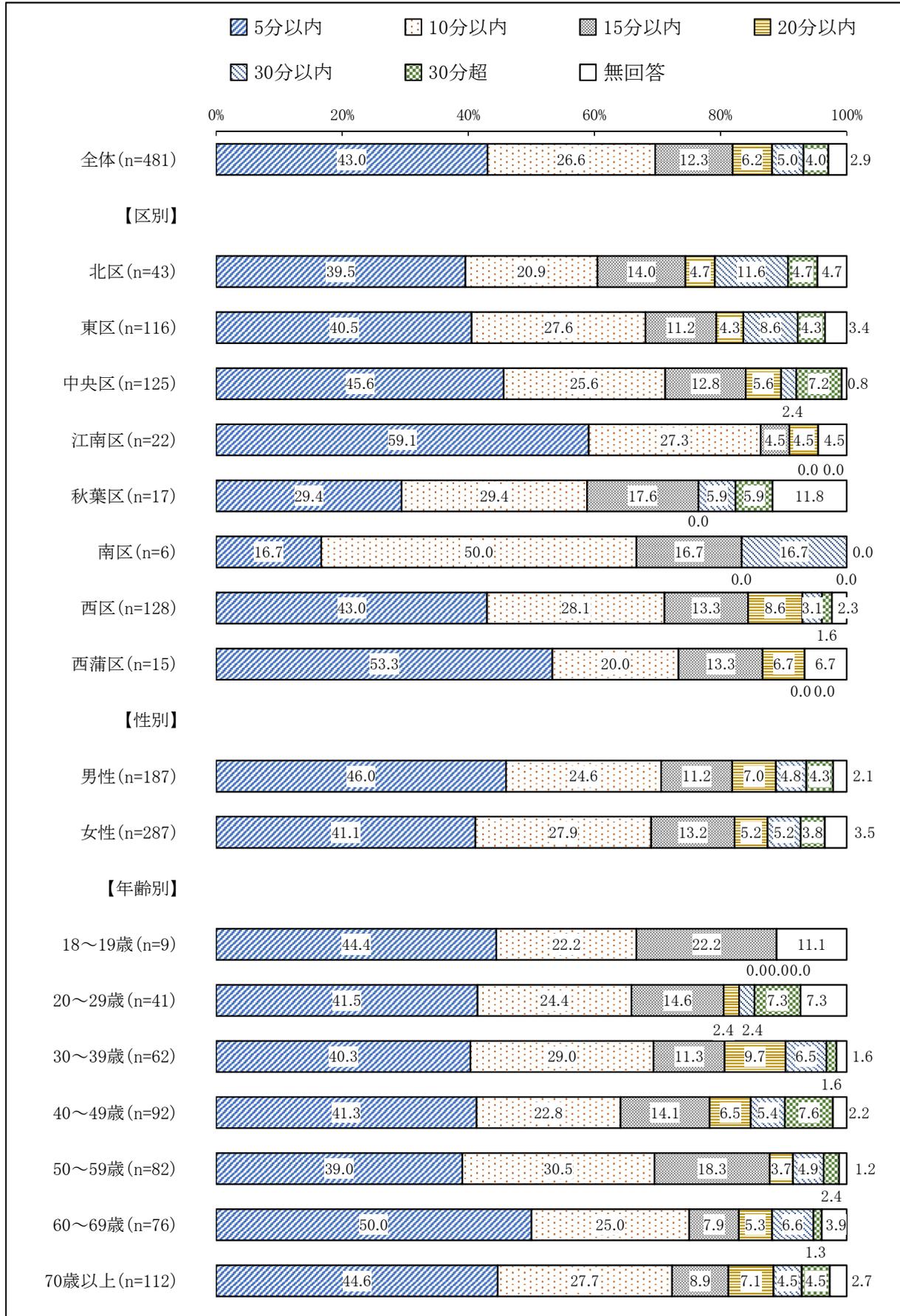
「5分以内」と答えた割合は、女性(41.1%)より男性(46.0%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「5分以内」と答えた割合は、60～69歳(50.0%)で最も高い。「15分以内」と答えた割合は、50～59歳(18.3%)で最も高い。

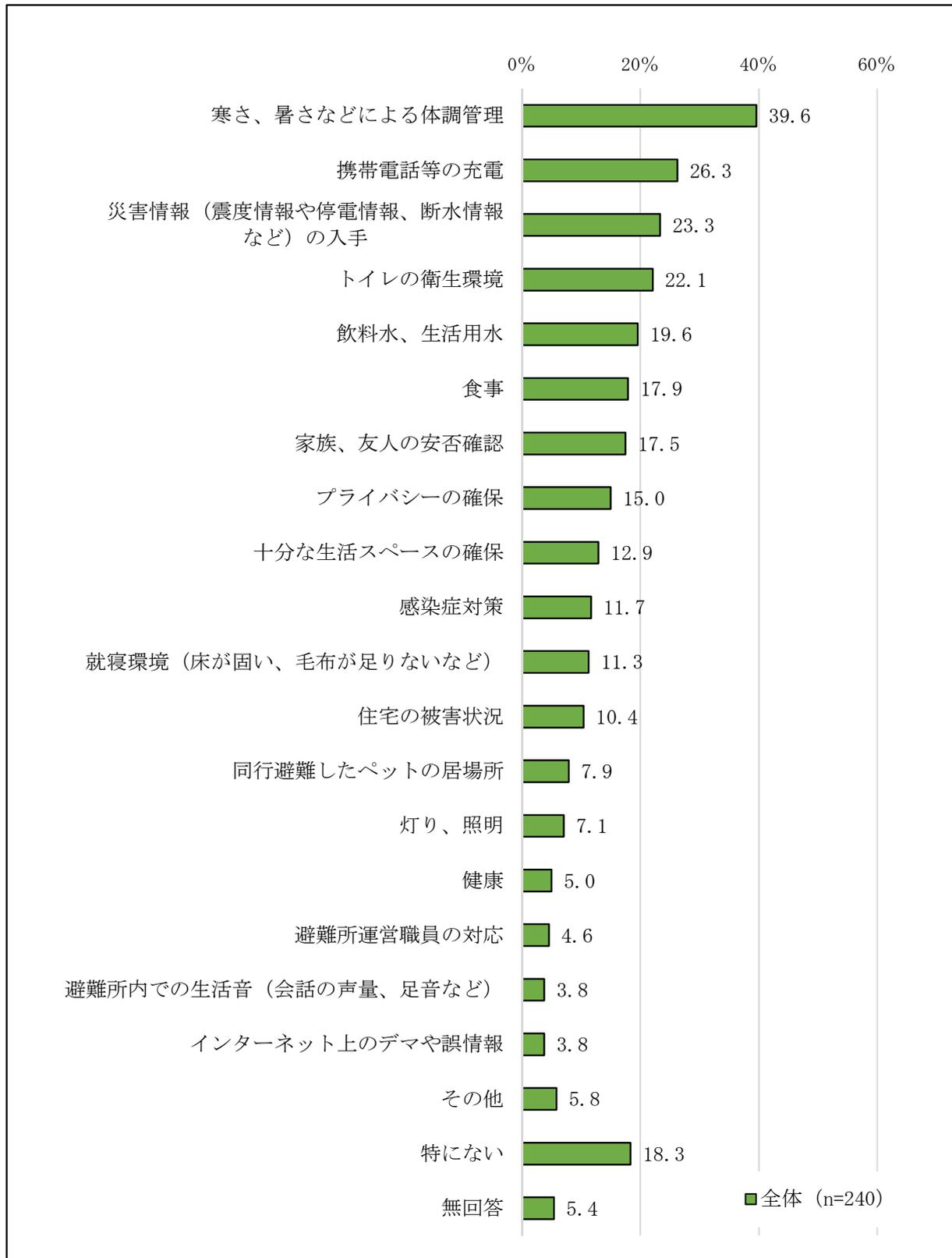
図 2.8 避難先までかかった時間

(区別/性別/年齢別)



(9) 津波避難場所又は津波避難ビルに滞在中に困ったこと、不安に感じたこと

問 16 津波避難場所又は津波避難ビルに避難した方（問 11 で「1または2」を選んだ方）のみお答えください。避難場所滞在中に困ったこと、不安に感じたことは何ですか。（あてはまるものすべて）



【全体結果】

津波避難場所又は津波避難ビルに滞在中に困ったこと、不安に感じたことは、「寒さ、暑さなどによる体調管理」(39.6%)が最も割合が高く、次いで「携帯電話等の充電」(26.3%)、「災害情報(震度情報や停電情報、断水情報など)の入手」(23.3%)、「トイレの衛生環境」(22.1%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.9 参照)

① 区別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

② 性別

該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

③ 年齢別

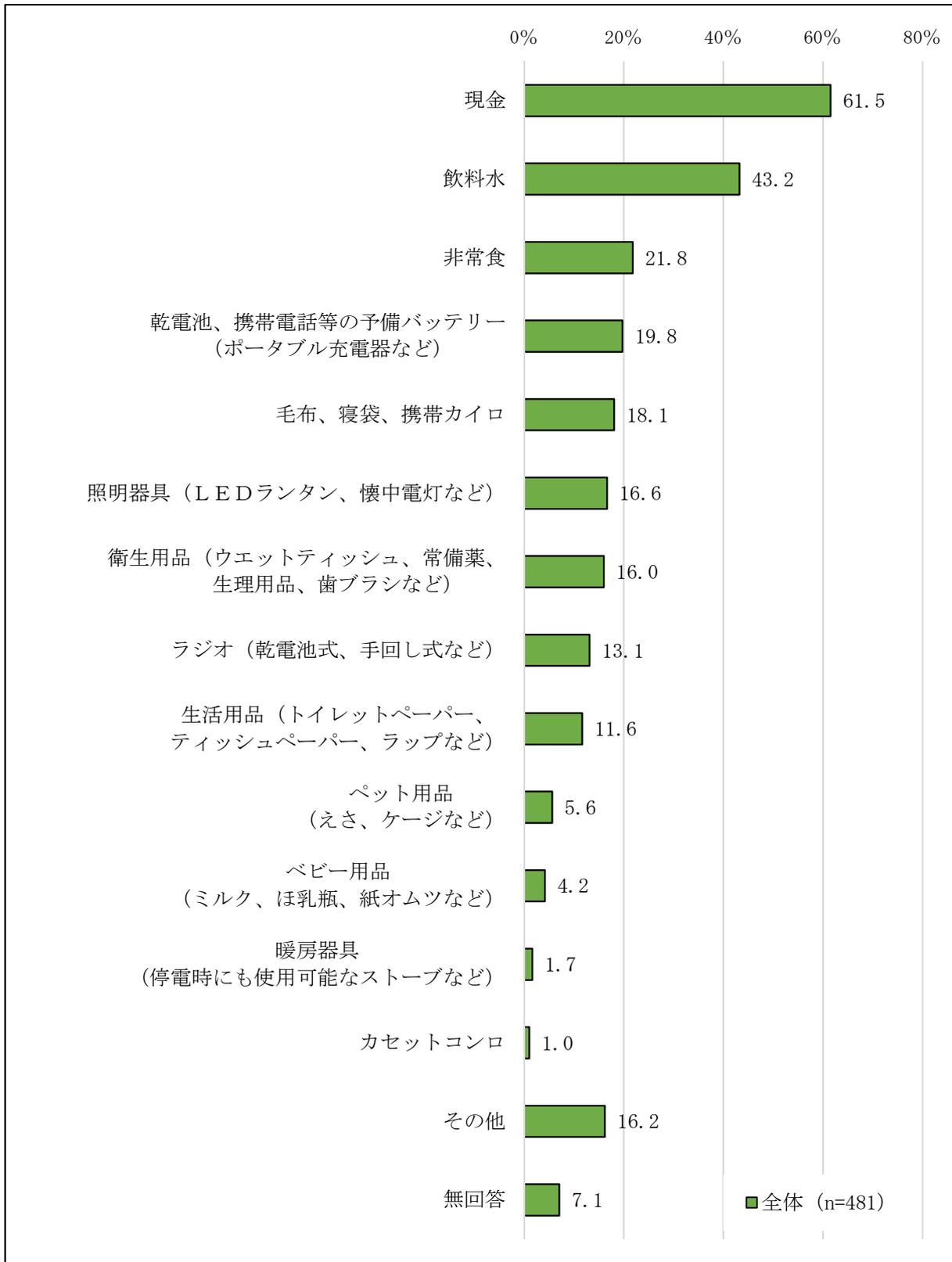
該当者数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

図 2.9 津波避難場所又は津波避難ビルに滞在中に困ったこと、不安に感じたこと
(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	寒さ、暑さなどによる体調管理	携帯電話等の充電	断水情報(地震情報や停電情報、断水情報など)の入手	トイレの衛生環境	飲料水、生活用水	食事	家族、友人の安否確認	プライバシーの確保	十分な生活スペースの確保	感染症対策	就寝環境 (床が固い、毛布が足りないなど)	住宅の被害状況	同行避難したベットの居場所	灯り、照明	健康	避難所運営職員への対応	避難所内での生活音 (会話の音量、足音など)	インターネット上のデマや誤情報	その他	特になし	無回答
全体 (n=240)	39.6	26.3	23.3	22.1	19.6	17.9	17.5	15.0	12.9	11.7	11.3	10.4	7.9	7.1	5.0	4.6	3.8	3.8	5.8	18.3	5.4
【区別】																					
北区 (n=21)	23.8	28.6	4.8	9.5	14.3	14.3	19.0	4.8	14.3	4.8	4.8	9.5	9.5	9.5	0.0	0.0	4.8	4.8	14.3	23.8	9.5
東区 (n=62)	35.5	22.6	24.2	17.7	14.5	11.3	27.4	16.1	12.9	16.1	14.5	8.1	6.5	6.5	4.8	4.8	1.6	1.6	9.7	21.0	1.6
中央区 (n=62)	51.6	25.8	25.8	24.2	24.2	22.6	16.1	19.4	12.9	11.3	12.9	11.3	4.8	3.2	6.5	4.8	4.8	4.8	0.0	17.7	6.5
江南区 (n=12)	41.7	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	33.3	0.0
秋葉区 (n=9)	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1	22.2	11.1	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
南区 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
西区 (n=60)	38.3	33.3	26.7	28.3	20.0	18.3	13.3	8.3	15.0	8.3	10.0	13.3	6.7	11.7	6.7	5.0	5.0	5.0	5.0	13.3	8.3
西蒲区 (n=8)	50.0	37.5	50.0	25.0	37.5	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
【性別】																					
男性 (n=94)	35.1	25.5	25.5	21.3	17.0	18.1	11.7	12.8	12.8	7.4	10.6	5.3	5.3	7.4	2.1	2.1	1.1	4.3	6.4	22.3	4.3
女性 (n=144)	42.4	27.1	22.2	22.9	21.5	18.1	20.8	16.0	13.2	14.6	11.1	13.9	9.7	6.9	6.9	6.3	5.6	3.5	5.6	16.0	6.3
【年齢別】																					
18～19歳 (n=7)	42.9	42.9	57.1	0.0	14.3	28.6	14.3	57.1	0.0	14.3	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0
20～29歳 (n=20)	45.0	35.0	20.0	30.0	35.0	25.0	25.0	20.0	30.0	10.0	5.0	10.0	10.0	15.0	5.0	0.0	0.0	10.0	5.0	15.0	0.0
30～39歳 (n=31)	41.9	38.7	19.4	29.0	32.3	29.0	19.4	22.6	25.8	19.4	22.6	12.9	6.5	9.7	0.0	6.5	3.2	3.2	3.2	16.1	3.2
40～49歳 (n=41)	58.5	39.0	19.5	24.4	26.8	29.3	17.1	22.0	12.2	19.5	12.2	14.6	12.2	4.9	7.3	2.4	4.9	7.3	4.9	4.9	4.9
50～59歳 (n=40)	55.0	35.0	30.0	27.5	17.5	15.0	20.0	17.5	17.5	17.5	17.5	15.0	10.0	5.0	7.5	10.0	10.0	2.5	2.5	15.0	0.0
60～69歳 (n=41)	31.7	24.4	24.4	22.0	19.5	9.8	14.6	4.9	4.9	2.4	7.3	4.9	2.4	12.2	2.4	2.4	2.4	2.4	14.6	19.5	7.3
70歳以上 (n=58)	17.2	1.7	20.7	13.8	5.2	8.6	13.8	3.4	5.2	5.2	0.0	5.2	5.2	3.4	6.9	5.2	1.7	0.0	5.2	32.8	12.1

(10) 避難時に携行したもの

問 17 避難するときに何を携行しましたか。(あてはまるものすべて)



【全体結果】

避難時に携行したものは、「現金」(61.5%)が最も割合が高く、次いで「飲料水」(43.2%)、「非常食」(21.8%)、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」(19.8%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.10 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「現金」の割合が最も高く、次に「飲料水」の割合が高い。

② 性別

「現金」、「飲料水」と答えた割合は、男性(各 58.3%、38.0%)より女性(各 64.5%、47.4%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、「現金」と答えた割合は、50~59 歳(68.3%)で最も高く、60~69 歳(52.6%)、70 歳以上(57.1%)の高齢層で低くなっている。高齢層は、他の項目でも割合が低くなっている項目が多い。

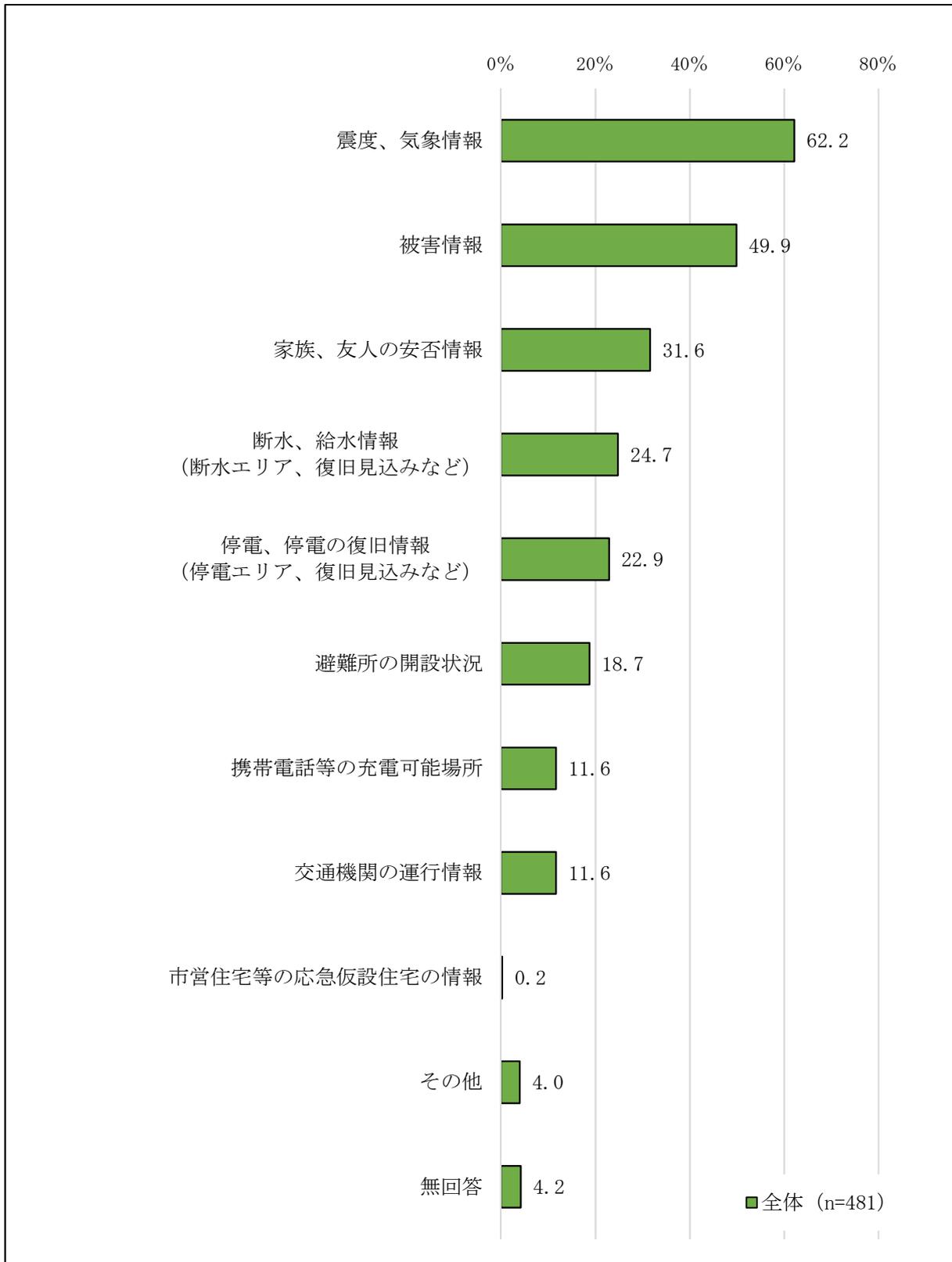
図 2.10 避難時に携行したもの

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	現金	飲料水	非常食	乾電池、携帯電話等の予備バッテリー (ポータブル充電器など)	毛布、寝袋、携帯カイロ	照明器具 (LEDランタン、懐中電灯など)	薬、生理用品(ウェットティッシュ、常備)	ラジオ(乾電池式、手回し式など)	生活用品(トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)	ペット用品(えさ、ケージなど)	ベビー用品 (ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)	暖房器具 (停電時にも使用可能なストーブなど)	カセットコンロ	その他	無回答
全体 (n=481)	61.5	43.2	21.8	19.8	18.1	16.6	16.0	13.1	11.6	5.6	4.2	1.7	1.0	16.2	7.1
【区別】															
北区 (n=43)	58.1	39.5	20.9	18.6	18.6	9.3	7.0	11.6	11.6	4.7	0.0	0.0	7.0	9.3	14.0
東区 (n=116)	63.8	48.3	26.7	25.0	13.8	18.1	19.8	17.2	12.9	6.9	6.9	2.6	0.9	12.1	4.3
中央区 (n=125)	63.2	37.6	17.6	17.6	20.8	14.4	13.6	12.8	11.2	3.2	1.6	0.8	0.0	20.8	8.0
江南区 (n=22)	63.6	63.6	22.7	31.8	9.1	22.7	9.1	4.5	4.5	9.1	27.3	4.5	0.0	22.7	0.0
秋葉区 (n=17)	47.1	41.2	35.3	11.8	11.8	23.5	11.8	5.9	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
南区 (n=6)	66.7	50.0	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
西区 (n=128)	64.8	41.4	17.2	18.0	21.1	18.0	19.5	10.9	10.9	5.5	2.3	2.3	0.0	15.6	6.3
西蒲区 (n=15)	40.0	53.3	46.7	13.3	20.0	13.3	20.0	13.3	20.0	6.7	6.7	0.0	0.0	40.0	6.7
【性別】															
男性 (n=187)	58.3	38.0	23.0	20.3	9.6	17.6	9.1	17.1	8.0	3.7	4.3	1.6	2.1	15.5	5.9
女性 (n=287)	64.5	47.4	21.3	19.5	24.0	15.7	20.6	10.1	13.9	6.6	4.2	1.7	0.3	17.1	7.0
【年齢別】															
18～19歳 (n=9)	77.8	55.6	44.4	22.2	22.2	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3	0.0
20～29歳 (n=41)	61.0	41.5	24.4	14.6	19.5	4.9	12.2	7.3	14.6	2.4	9.8	2.4	0.0	12.2	9.8
30～39歳 (n=62)	67.7	58.1	30.6	30.6	21.0	17.7	25.8	8.1	17.7	8.1	12.9	1.6	3.2	9.7	1.6
40～49歳 (n=92)	65.2	50.0	31.5	27.2	26.1	18.5	16.3	8.7	14.1	6.5	5.4	3.3	0.0	19.6	4.3
50～59歳 (n=82)	68.3	41.5	18.3	23.2	15.9	13.4	19.5	12.2	8.5	8.5	2.4	1.2	2.4	15.9	7.3
60～69歳 (n=76)	52.6	40.8	15.8	10.5	18.4	14.5	11.8	11.8	5.3	2.6	1.3	0.0	0.0	13.2	9.2
70歳以上 (n=112)	57.1	33.9	13.4	13.4	11.6	21.4	13.4	22.3	10.7	3.6	0.0	0.9	0.9	20.5	8.0

(11) 避難中に必要だった情報

問 18 避難中、あなたは特にどのような情報が必要でしたか。(3つまで)



【全体結果】

避難中に必要だった情報は、「震度、気象情報」(62.2%)が最も割合が高く、次いで「被害情報」(49.9%)、「家族、友人の安否情報」(31.6%)、「断水、給水情報(断水エリア、復旧見込みなど)」(24.7%)、「停電、停電の復旧情報(停電エリア、復旧見込みなど)」(22.9%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.11 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「震度、気象情報」の割合が最も高く、次に「被害情報」の割合が高い。「断水、給水情報(断水エリア、復旧見込みなど)」と「停電、停電の復旧情報(停電エリア、復旧見込みなど)」は、西区(各37.5%、30.5%)で割合が高かった。

② 性別

「震度、気象情報」と答えた割合は、女性(57.8%)より男性(68.4%)で、「家族、友人の安否情報」と答えた割合は、男性(25.1%)より女性(34.8%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「震度、気象情報」と答えた割合は、30～39歳(69.4%)で最も高く、「被害情報」と答えた割合は、50～59歳(65.9%)で最も高い。60歳以上の高齢層は、他の年代と比べ、割合が低い項目が多い。

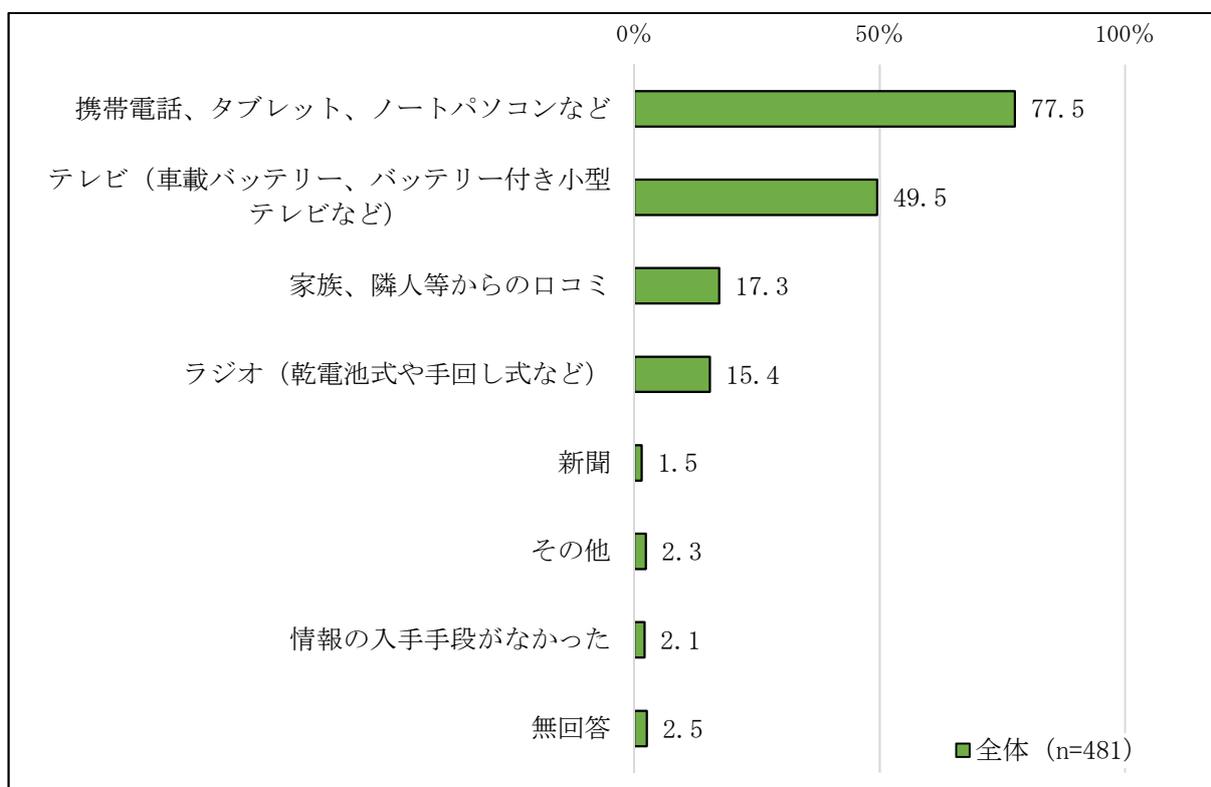
図 2.11 避難中に必要だった情報

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	震度、 気象情報	被害情報	家族、 友人の 安否情報	断水、給水情報 (断水エリア、 復旧見込みなど)	停電、停電の復旧情報 (停電エリア、 復旧見込みなど)	避難所の 開設状況	携帯電話等 の充電可能場所	交通機 関の運 行情報	市営住宅等 の応急仮 設住宅の 情報	その他	無回 答
全体 (n=481)	62.2	49.9	31.6	24.7	22.9	18.7	11.6	11.6	0.2	4.0	4.2
【区別】											
北区 (n=43)	60.5	62.8	34.9	7.0	14.0	18.6	14.0	18.6	0.0	2.3	2.3
東区 (n=116)	66.4	50.9	40.5	17.2	15.5	19.8	12.1	12.1	0.0	3.4	4.3
中央区 (n=125)	62.4	48.0	28.8	28.0	24.0	19.2	9.6	10.4	0.0	4.8	5.6
江南区 (n=22)	77.3	40.9	18.2	27.3	22.7	27.3	22.7	4.5	0.0	0.0	4.5
秋葉区 (n=17)	70.6	47.1	23.5	17.6	29.4	17.6	0.0	17.6	0.0	5.9	0.0
南区 (n=6)	66.7	50.0	33.3	16.7	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0
西区 (n=128)	56.3	47.7	26.6	37.5	30.5	14.8	11.7	9.4	0.0	4.7	3.1
西蒲区 (n=15)	40.0	53.3	26.7	6.7	20.0	20.0	13.3	13.3	0.0	6.7	6.7
【性別】											
男性 (n=187)	68.4	51.3	25.1	24.6	24.6	17.1	10.7	12.3	0.0	4.3	3.7
女性 (n=287)	57.8	49.1	34.8	24.7	21.6	19.9	12.5	11.1	0.3	3.8	4.2
【年齢別】											
18～19歳 (n=9)	55.6	33.3	55.6	44.4	22.2	22.2	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=41)	68.3	41.5	46.3	29.3	31.7	19.5	17.1	9.8	0.0	0.0	2.4
30～39歳 (n=62)	69.4	37.1	25.8	37.1	32.3	21.0	16.1	8.1	0.0	4.8	3.2
40～49歳 (n=92)	63.0	54.3	32.6	22.8	26.1	26.1	13.0	14.1	0.0	2.2	0.0
50～59歳 (n=82)	62.2	65.9	30.5	28.0	23.2	19.5	9.8	8.5	0.0	1.2	0.0
60～69歳 (n=76)	56.6	51.3	28.9	19.7	14.5	10.5	9.2	18.4	0.0	5.3	7.9
70歳以上 (n=112)	58.9	45.5	26.8	17.0	17.0	16.1	8.0	8.0	0.9	8.0	8.9

(12) 避難中の情報入手方法

問 19 避難中、あなたはどのような手段で情報を入手しましたか。(あてはまるものすべて)



【全体結果】

避難中の情報入手方法は、「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」(77.5%)が最も割合が高く、次いで「テレビ (車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」(49.5%)、「家族、隣人等からの口コミ」(17.3%)、「ラジオ (乾電池式や手回し式など)」(15.4%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.12 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」の割合が最も高く、次に「テレビ (車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」の割合が高い。

② 性別

「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」、「テレビ (車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」、「ラジオ (乾電池式や手回し式など)」と答えた割合は、女性 (各 76.3%、47.0%、12.5%) より男性 (各 79.7%、52.9%、19.8%) で、「家族、隣人等からの口コミ」と答えた割合は、男性 (13.9%) より女性 (19.5%) で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」と答えた割合は、30~39 歳 (96.8%) で、「テレビ (車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)」と答えた割合は、20~29 歳 (61.0%) で最も高い。「家族、隣人等からの口コミ」と答えた割合は、70 歳以上 (22.3%) で最も高く、年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。

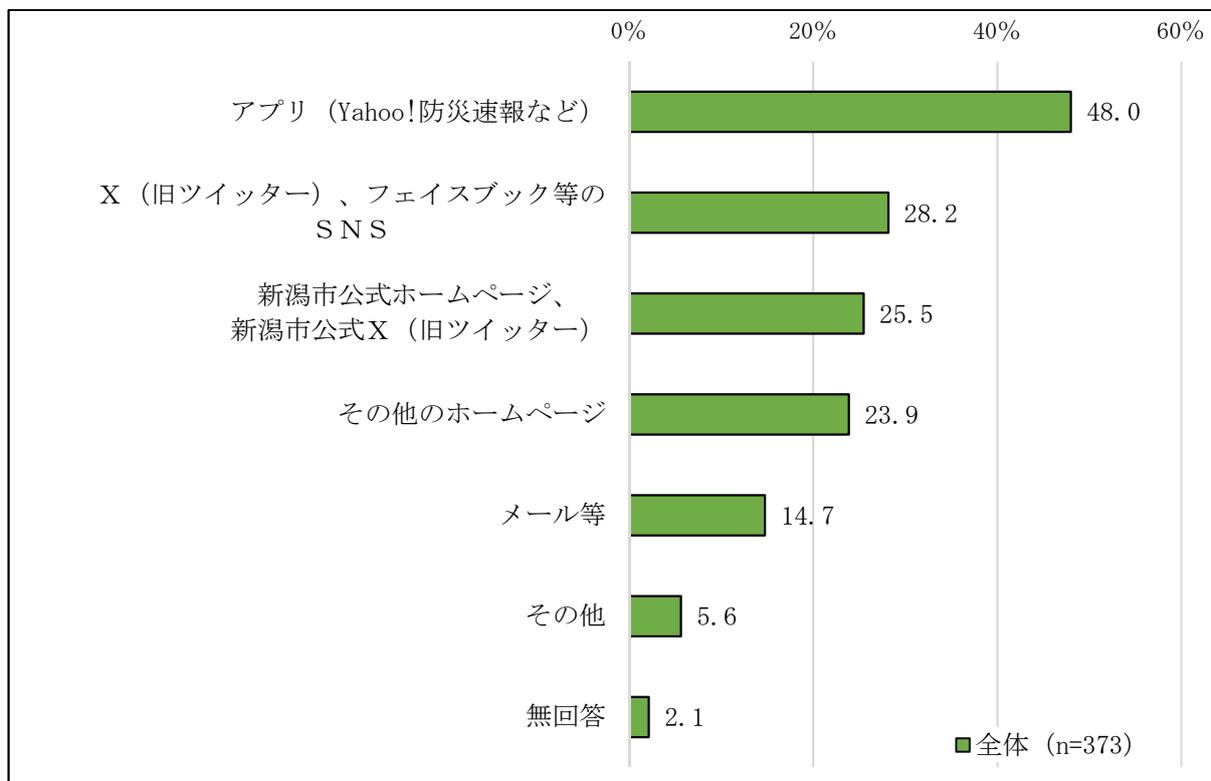
図 2.12 避難中の情報入手方法

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど	テレビ（車載バッテリー付き小型テレビなど）	家族、隣人等からの口コミ	ラジオ（乾電池式や手回し式など）	新聞	その他	情報の入手手段がなかった	無回答
全体 (n=481)	77.5	49.5	17.3	15.4	1.5	2.3	2.1	2.5
【区別】								
北区 (n=43)	83.7	67.4	11.6	18.6	2.3	4.7	0.0	2.3
東区 (n=116)	81.9	49.1	19.0	15.5	0.0	1.7	2.6	0.0
中央区 (n=125)	77.6	46.4	13.6	16.0	0.0	1.6	1.6	4.0
江南区 (n=22)	86.4	59.1	13.6	13.6	9.1	0.0	0.0	4.5
秋葉区 (n=17)	70.6	76.5	5.9	17.6	5.9	0.0	5.9	0.0
南区 (n=6)	66.7	66.7	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
西区 (n=128)	76.6	39.1	22.7	12.5	1.6	3.1	3.1	2.3
西蒲区 (n=15)	33.3	60.0	13.3	20.0	0.0	6.7	0.0	6.7
【性別】								
男性 (n=187)	79.7	52.9	13.9	19.8	1.1	1.1	2.7	1.1
女性 (n=287)	76.3	47.0	19.5	12.5	1.7	3.1	1.7	3.1
【年齢別】								
18～19歳 (n=9)	100.0	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=41)	95.1	61.0	9.8	17.1	0.0	0.0	0.0	2.4
30～39歳 (n=62)	96.8	54.8	16.1	9.7	0.0	0.0	0.0	1.6
40～49歳 (n=92)	81.5	53.3	17.4	18.5	0.0	2.2	1.1	0.0
50～59歳 (n=82)	81.7	50.0	12.2	11.0	0.0	1.2	2.4	1.2
60～69歳 (n=76)	67.1	35.5	19.7	19.7	0.0	5.3	2.6	5.3
70歳以上 (n=112)	59.8	50.0	22.3	17.0	6.3	3.6	4.5	3.6

(13) 携帯電話、タブレット、ノートパソコンなどでの情報入手方法

問 20 問 19 で「3」を選んだ方のみお答えください。
具体的に、どこから情報を入手しましたか。(あてはまるものすべて)



【全体結果】

携帯電話、タブレット、ノートパソコンなどでの情報入手方法は、「アプリ (Yahoo!防災速報など)」(48.0%)が最も割合が高く、次いで「X (旧ツイッター)、フェイスブック等の SNS」(28.2%)、「新潟市公式ホームページ、新潟市公式 X (旧ツイッター)」(25.5%)、「その他のホームページ」(23.9%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.13 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「アプリ (Yahoo!防災速報など)」の割合が最も高い。次に割合が高いのは、中央区と西区では「X (旧ツイッター)、フェイスブック等の SNS」、東区では「新潟市公式ホームページ、新潟市公式 X (旧ツイッター)」となった。

② 性別

「アプリ (Yahoo!防災速報など)」、「新潟市公式ホームページ、新潟市公式 X (旧ツイッター)」、「メール等」と答えた割合は、男性 (各 46.3%、22.8%、12.1%) より女性 (各 49.8%、27.4%、16.4%) で、「その他のホームページ」と答えた割合は、女性 (17.8%) より男性 (32.2%) で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない 18~19 歳を除き、「アプリ (Yahoo!防災速報など)」は年齢が高いほど割合が高く、「X (旧ツイッター)、フェイスブック等の SNS」は、年齢が低いほど割合が高い傾向がみられた。

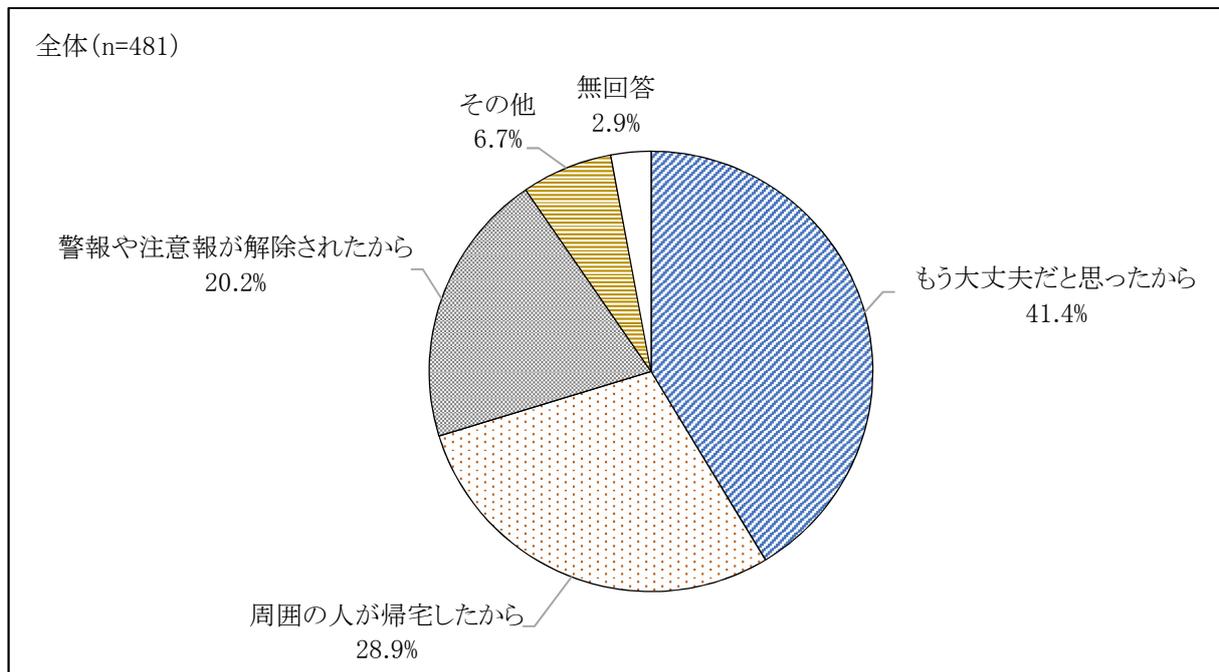
図 2.13 携帯電話、タブレット、ノートパソコンなどでの情報入手方法

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	アプリ (Yahoo! 防災速報など)	X (旧ツイッター)、 フェイスブック等のSNS	新潟市公式ホームページ、 公式X (旧ツイッター)	その他のホームページ	メール等	その他	無回答
全体 (n=373)	48.0	28.2	25.5	23.9	14.7	5.6	2.1
【区別】							
北区 (n=36)	50.0	19.4	22.2	30.6	13.9	8.3	2.8
東区 (n=95)	46.3	22.1	29.5	23.2	12.6	4.2	3.2
中央区 (n=97)	42.3	29.9	25.8	21.6	16.5	9.3	2.1
江南区 (n=19)	52.6	36.8	36.8	26.3	15.8	5.3	0.0
秋葉区 (n=12)	58.3	16.7	16.7	25.0	8.3	8.3	8.3
南区 (n=4)	75.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
西区 (n=98)	53.1	33.7	20.4	23.5	16.3	2.0	1.0
西蒲区 (n=5)	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
【性別】							
男性 (n=149)	46.3	29.5	22.8	32.2	12.1	5.4	0.0
女性 (n=219)	49.8	27.9	27.4	17.8	16.4	5.9	3.7
【年齢別】							
18～19歳 (n=9)	22.2	55.6	33.3	0.0	22.2	0.0	11.1
20～29歳 (n=39)	38.5	56.4	20.5	17.9	12.8	5.1	0.0
30～39歳 (n=60)	41.7	46.7	21.7	25.0	5.0	8.3	0.0
40～49歳 (n=75)	53.3	29.3	28.0	36.0	5.3	4.0	0.0
50～59歳 (n=67)	50.7	28.4	34.3	22.4	16.4	7.5	0.0
60～69歳 (n=51)	58.8	9.8	19.6	25.5	17.6	5.9	2.0
70歳以上 (n=67)	47.8	6.0	23.9	14.9	29.9	4.5	9.0

(14) 避難場所から帰宅する判断をした理由

問 21 避難場所から帰宅する判断をした理由は何ですか。



【全体結果】

避難場所から帰宅する判断をした理由は、「もう大丈夫だと思ったから」(41.4%)が最も割合が高く、次いで「周囲の人が帰宅したから」(28.9%)、「警報や注意報が解除されたから」(20.2%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.14 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも「もう大丈夫だと思ったから」の割合が最も高く、次に「周囲の人が帰宅したから」の割合が高い。

② 性別

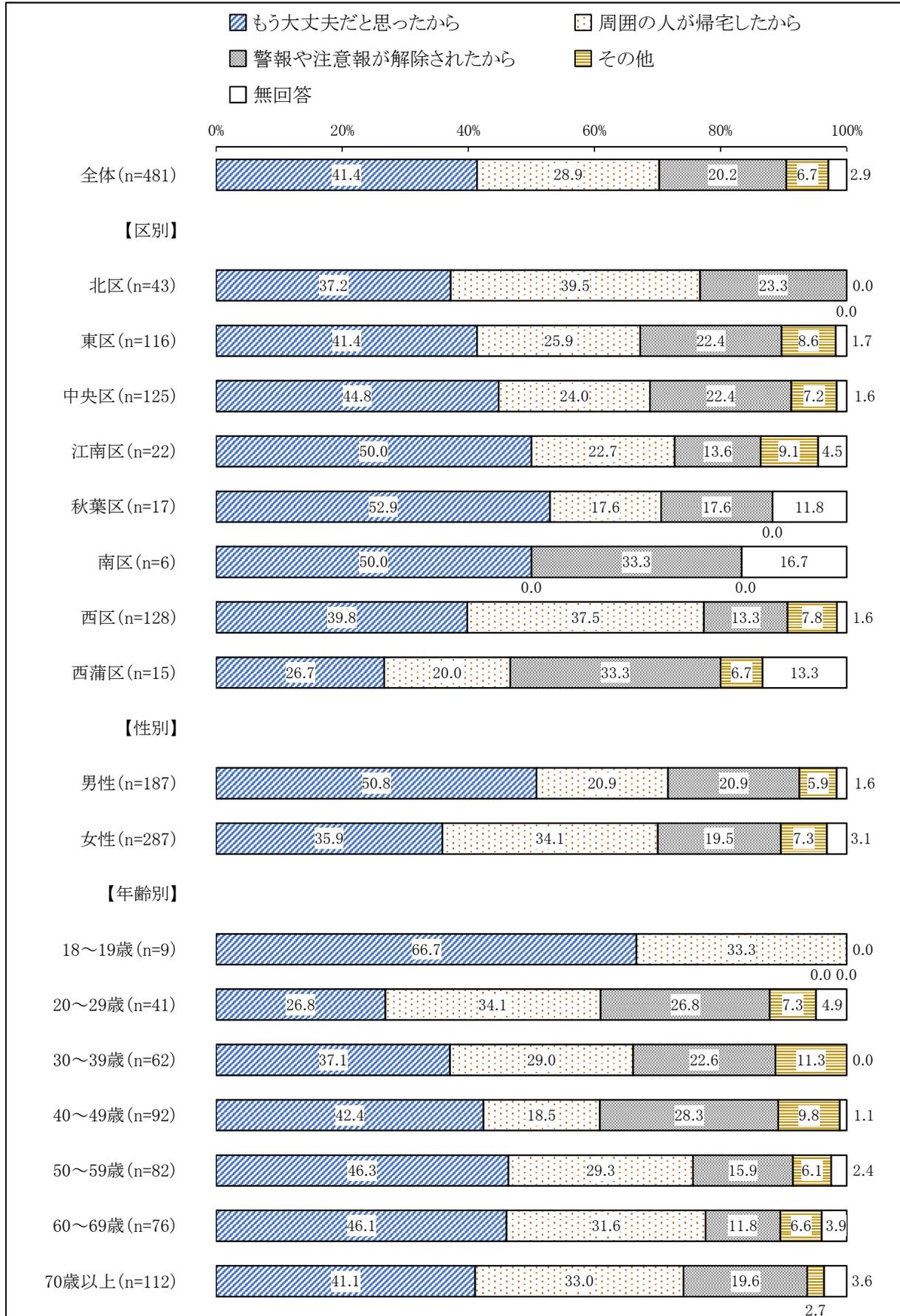
「もう大丈夫だと思ったから」と答えた割合は、女性(35.9%)より男性(50.8%)で、「周囲の人が帰宅したから」と答えた割合は、男性(20.9%)より女性(34.1%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、20～29歳以外は「もう大丈夫だと思ったから」の割合が最も高い。20～29歳は、「周囲の人が帰宅したから」(34.1%)の割合が最も高い。

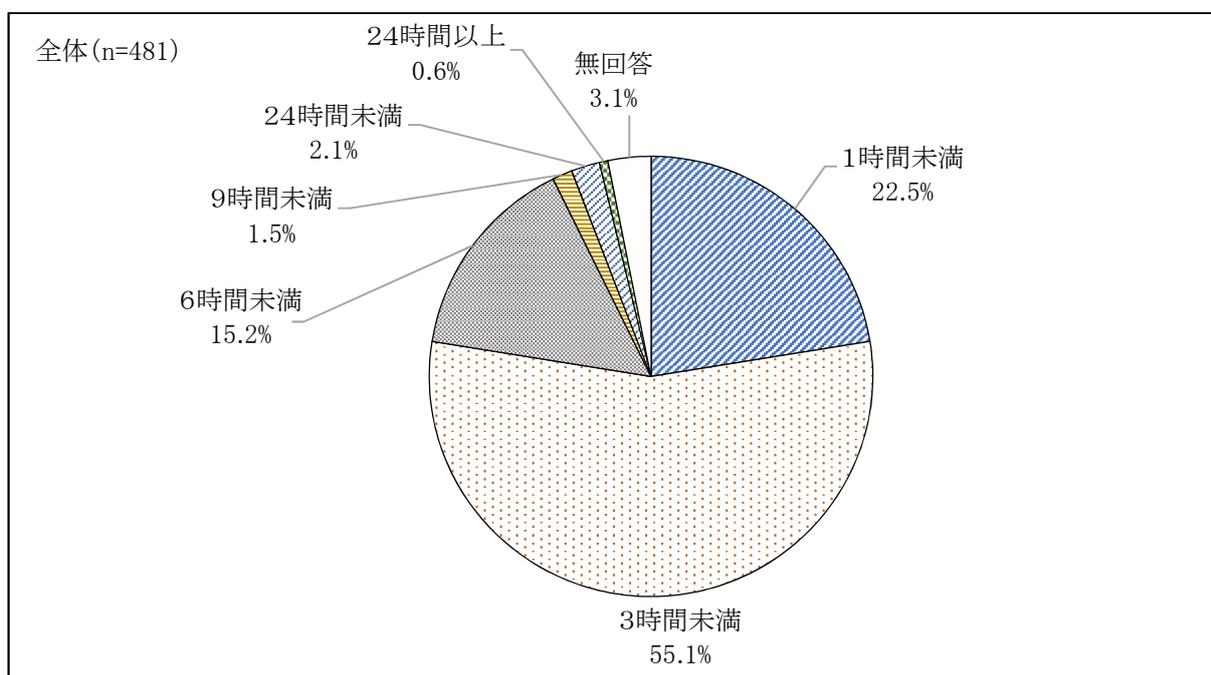
図 2.14 避難場所から帰宅する判断をした理由

(区別/性別/年齢別)



(15) 避難場所の滞在時間

問 22 避難場所の滞在時間はどれくらいでしたか。



【全体結果】

避難場所から帰宅する判断をした理由は、「3時間未満」(55.1%)が最も割合が高く、次いで「1時間未満」(22.5%)、「6時間未満」(15.2%)の順で続く。『3時間未満の合計』で77.5%、「6時間未満の合計」で92.7%を占めた。

【属性別結果】(次ページ図 2.15 参照)

① 区別

該当者数が多い東区、中央区、西区では、いずれも『6時間未満の合計』が9割以上を占めた。「6時間未満」の割合は、西区(20.3%)、中央区(18.4%)、東区(8.6%)の順に高い。

② 性別

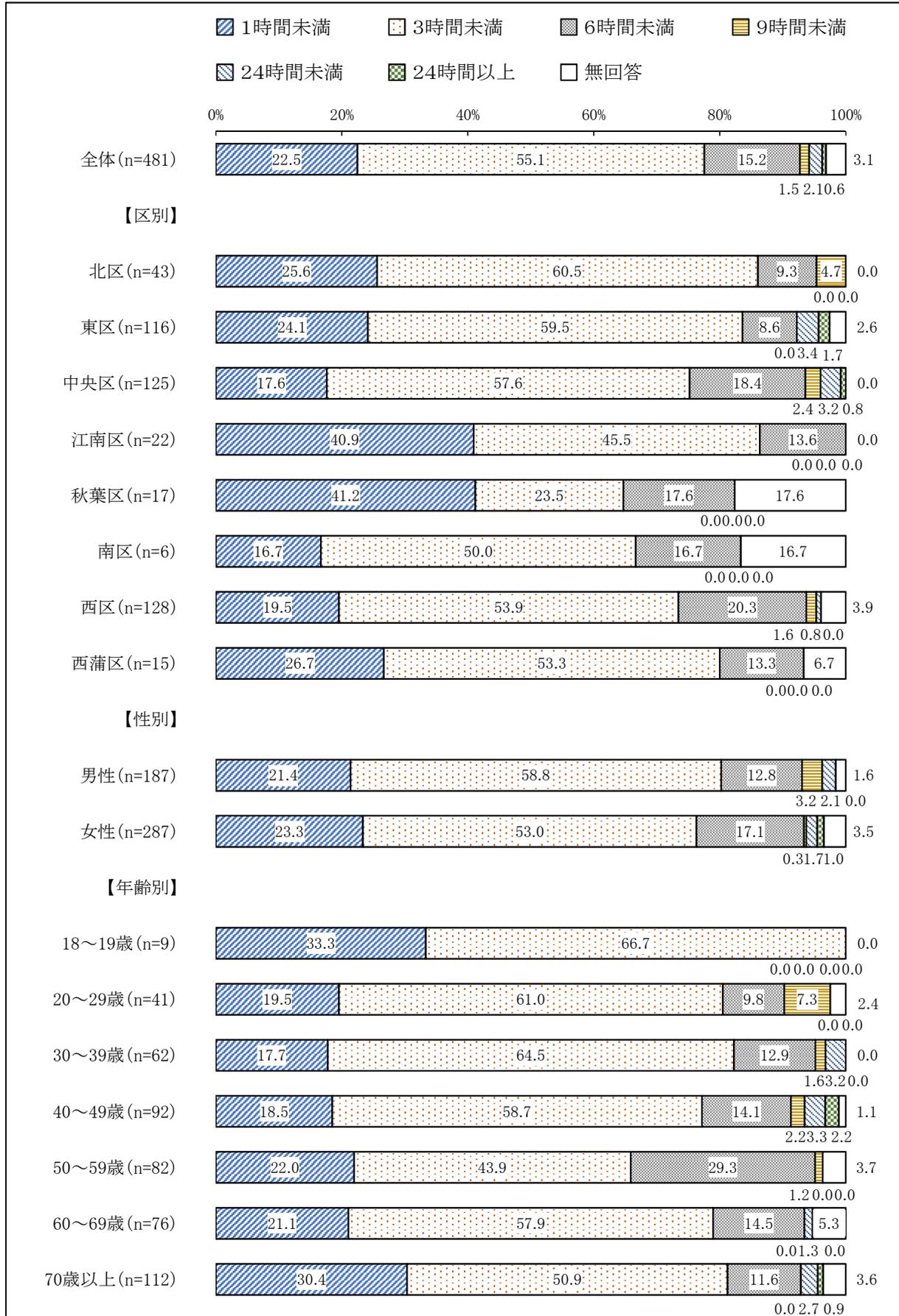
「3時間未満」と答えた割合は、女性(53.0%)より男性(58.8%)で、「6時間未満」と答えた割合は、男性(12.8%)より女性(17.1%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、「1時間未満」と答えた割合は70歳以上(30.4%)で最も高い。

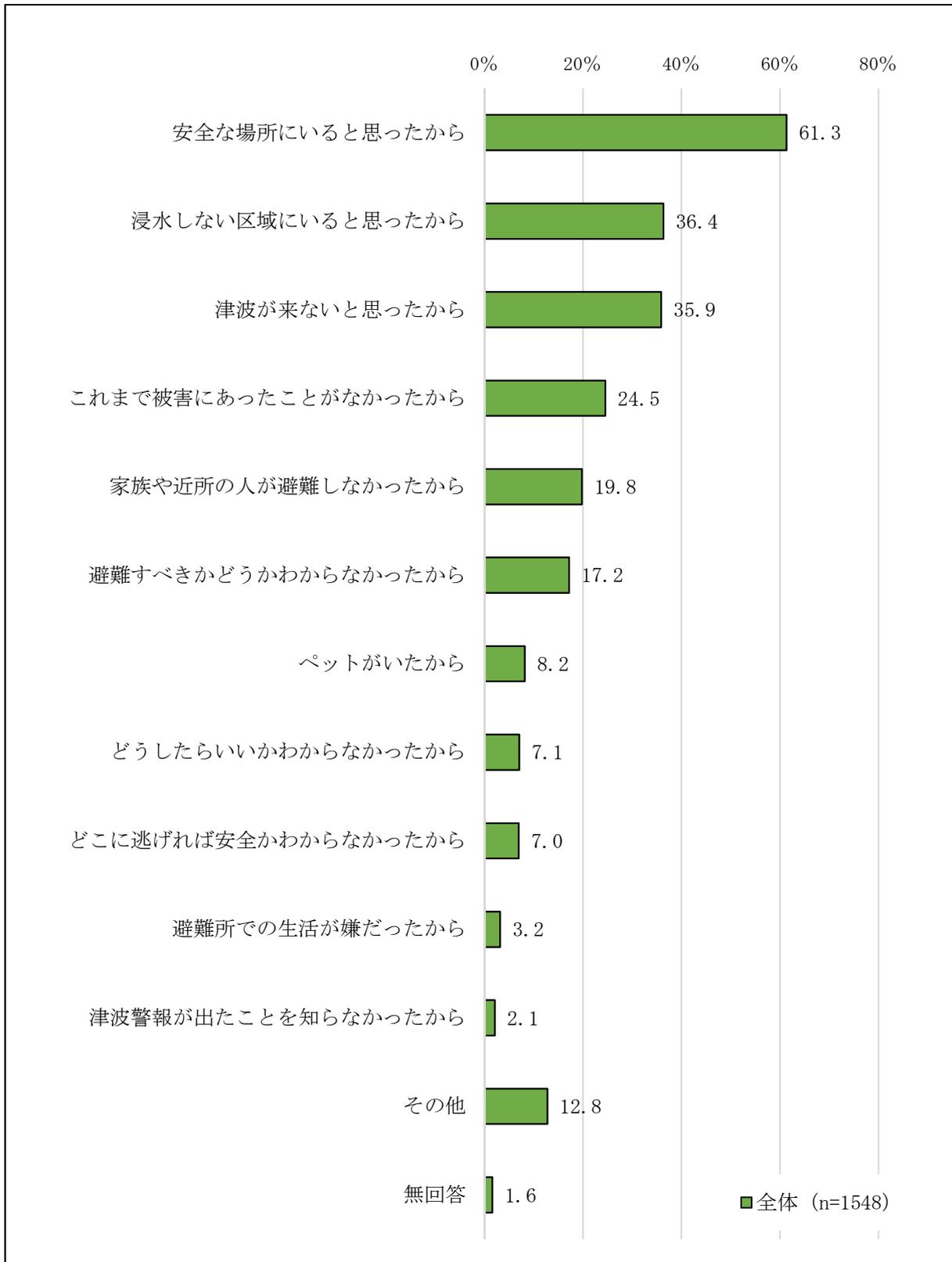
図 2.15 避難場所の滞在時間

(区別/性別/年齢別)



(16) 避難しなかった理由

問 23 避難しなかった方（問 10 で「2」を選んだ方）のみお答えください。
避難しなかった理由を教えてください。（あてはまるものすべて）



【全体結果】

避難しなかった理由は、「安全な場所にいると思ったから」(61.3%)が最も割合が高く、次いで「浸水しない区域にいると思ったから」(36.4%)、「津波が来ないと思ったから」(35.9%)、「これまで被害にあったことがなかったから」(24.5%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 2.16 参照)

① 区別

すべての区で「安全な場所にいると思ったから」の割合が最も高い。「これまで被害にあったことがなかったから」の割合は、他の区と比較して、東区(19.9%)、中央区(20.2%)、西区(22.3%)で低い。

② 性別

「安全な場所にいると思ったから」「これまで被害にあったことがなかったから」と答えた割合は、女性(各59.9%、22.5%)より男性(64.0%、27.9%)で、「家族や近所の人が避難しなかったから」「避難すべきかどうかわからなかったから」「どうしたらいいかわからなかったから」と答えた割合は、男性(各16.0%、15.3%、4.5%)より女性(23.1%、18.5%、9.1%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18~19歳を除き、「安全な場所にいると思ったから」「浸水しない区域にいると思ったから」「浸水しない区域にいると思ったから」「これまで被害にあったことがなかったから」「家族や近所の人が避難しなかったから」の割合は、概ね年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

④ 地震発生時にいた場所別

地震発生時にいた場所が、津波浸水想定区域だった人が避難しなかった理由は、「安全な場所にいると思ったから」(47.9%)が最も割合が高く、次いで「津波が来ないと思ったから」(29.8%)、「家族や近所の人が避難しなかったから」(21.8%)の順で続く。「その他」の意見として、津波浸水想定区域であっても、「マンションの高層階に住んでいる」等の意見が散見された。

図 2.16 避難しなかった理由

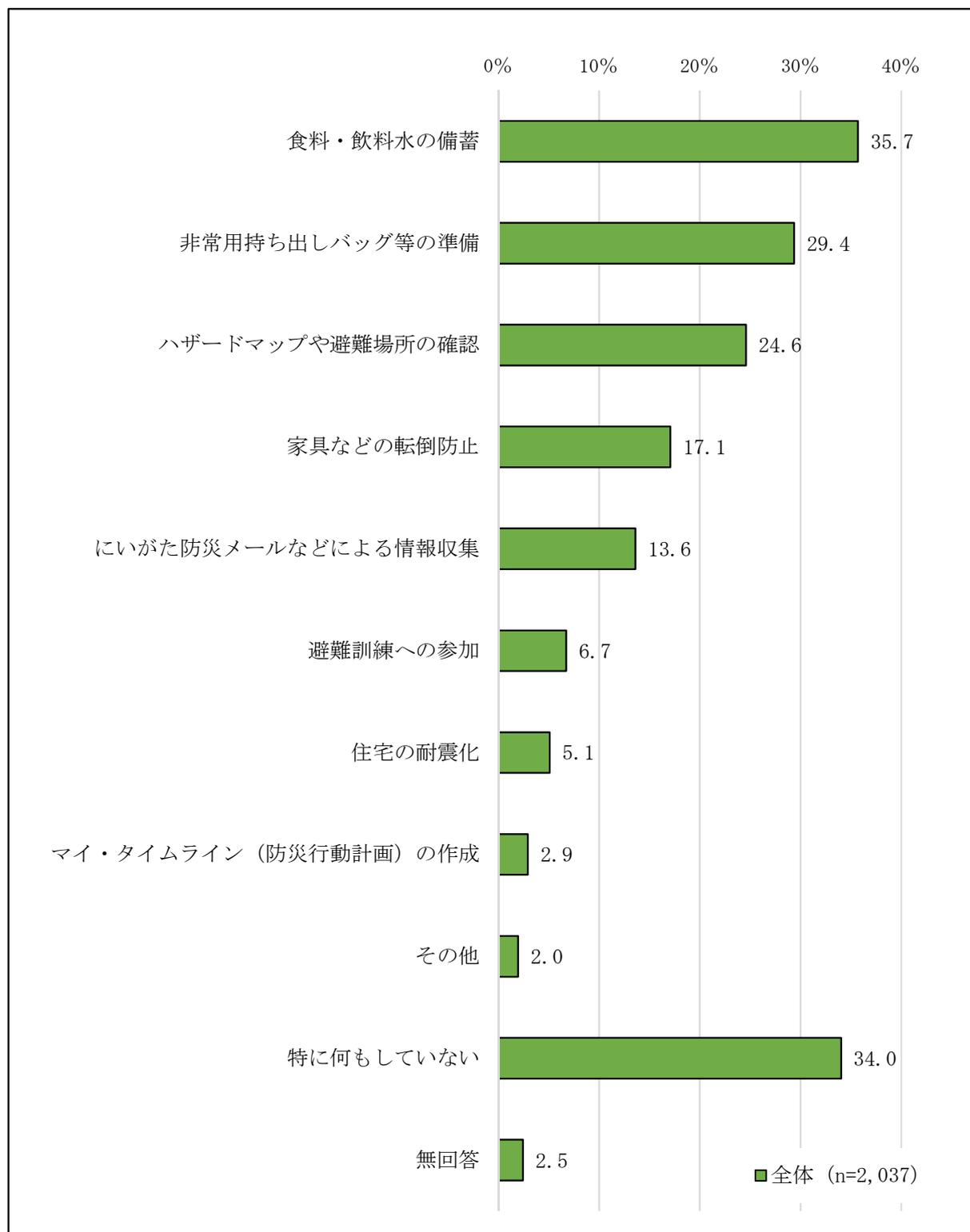
(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	安全な場所にいると 思ったから	浸水しない区域にいると 思ったから	津波が来ないと思ったから	これまで被害にあつた ことがなかつたから	家族や近所の人から 避難しなかつたから	避難すべきかどうか わからなかつたから	ペットがいたから	わからなかつたから	どこに逃げれば安全か わからなかつたから	避難所での生活が 嫌だつたから	津波警報が出たことを 知らなかつたから	その他	無回答
全体 (n=1548)	61.3	36.4	35.9	24.5	19.8	17.2	8.2	7.1	7.0	3.2	2.1	12.8	1.6
【区別】													
北区 (n=124)	64.5	30.6	39.5	29.8	21.0	16.1	10.5	5.6	5.6	4.8	0.8	12.1	1.6
東区 (n=226)	55.3	33.6	34.5	19.9	20.8	17.7	6.6	3.5	3.5	3.1	0.9	17.7	2.2
中央区 (n=321)	65.1	29.6	28.0	20.2	18.1	15.3	8.4	4.7	6.5	5.0	1.2	13.4	1.6
江南区 (n=162)	59.3	38.3	38.3	29.0	24.7	21.6	5.6	11.7	11.7	1.9	3.7	13.6	1.2
秋葉区 (n=176)	67.0	42.6	35.2	31.3	14.2	13.1	8.5	5.1	2.3	0.6	1.7	5.7	2.8
南区 (n=101)	55.4	36.6	45.5	32.7	24.8	18.8	11.9	8.9	11.9	5.0	3.0	9.9	0.0
西区 (n=247)	61.5	40.1	36.4	22.3	21.5	18.6	7.7	9.7	9.7	3.2	3.6	15.8	1.6
西蒲区 (n=122)	64.8	42.6	44.3	26.2	18.9	18.0	7.4	11.5	5.7	0.0	3.3	7.4	0.8
【性別】													
男性 (n=648)	64.0	36.0	36.4	27.9	16.0	15.3	6.0	4.5	5.9	1.9	1.7	11.6	2.3
女性 (n=836)	59.9	36.2	35.2	22.5	23.1	18.5	9.4	9.1	7.7	4.1	2.5	14.0	1.1
【年齢別】													
18～19歳 (n=7)	71.4	28.6	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
20～29歳 (n=105)	55.2	31.4	23.8	13.3	21.0	19.0	2.9	7.6	3.8	4.8	2.9	21.0	1.0
30～39歳 (n=134)	59.0	25.4	26.9	13.4	16.4	20.1	6.7	13.4	10.4	0.7	2.2	17.9	0.7
40～49歳 (n=202)	58.4	35.1	32.2	15.3	16.3	15.8	11.4	4.0	5.9	2.0	2.5	17.8	1.0
50～59歳 (n=283)	61.5	36.0	31.8	17.7	17.0	19.4	8.8	7.1	5.3	3.5	0.7	12.7	1.1
60～69歳 (n=269)	66.9	39.8	42.0	26.4	21.2	17.5	11.5	7.8	10.8	3.7	1.9	9.3	1.5
70歳以上 (n=486)	62.3	38.5	41.4	38.1	23.5	14.8	5.8	6.2	5.8	3.3	2.9	9.7	2.7
【地震発生時にいた場所別】													
津波浸水想定区域だった (n=188)	47.9	14.4	29.8	18.1	21.8	13.8	8.5	4.3	6.4	5.3	2.1	20.7	2.1
津波浸水想定区域ではなかつた (n=854)	69.8	47.4	37.6	25.3	16.9	11.5	7.6	4.6	3.7	2.2	1.5	10.1	1.9
わからなかつた (n=490)	52.2	26.1	35.9	25.3	24.1	28.8	9.0	12.9	12.9	4.3	3.3	14.5	1.0

3. 地震発生後の状況（変化）について

(1) 新たに行った対策

問 24 あなたは、ご家庭で「新たに」どのような対策を行いましたか。（今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて）



【全体結果】

地震発生後、新たに行った対策は、「食料・飲料水の備蓄」(35.7%)が最も割合が高く、次いで「非常用持ち出しバッグ等の準備」(29.4%)、「ハザードマップや避難場所の確認」(24.6%)、「家具などの転倒防止」(17.1%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 3.1 参照)

① 区別

すべての区で、「食料・飲料水の備蓄」が最も割合が高く、次に「非常用持ち出しバッグ等の準備」の割合が高い。「特に何もしていない」と答えた割合は、秋葉区(42.6%)と西蒲区(41.0%)で高い。

② 性別

「食料・飲料水の備蓄」「非常用持ち出しバッグ等の準備」「ハザードマップや避難場所の確認」「にいがた防災メールなどによる情報収集」と答えた割合は、男性(各30.3%、25.0%、21.7%、11.7%)より女性(40.3%、32.9%、27.0%、15.4%)で高く、「特に何もしていない」と答えた割合は、女性(30.4%)より男性(39.0%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、いずれの年代も「食料・飲料水の備蓄」「非常用持ち出しバッグ等の準備」「ハザードマップや避難場所の確認」の順に割合が高い。「特に何もしていない」と答えた割合は、30～39歳(39.8%)で割合が最も高い。

④ 被害状況別

「食料・飲料水の備蓄」「非常用持ち出しバッグ等の準備」「ハザードマップや避難場所の確認」「家具などの転倒防止」「にいがた防災メールなどによる情報収集」「住宅の耐震化」の割合は、被害状況が大きいほど割合が高い。

図 3.1 新たに行った対策

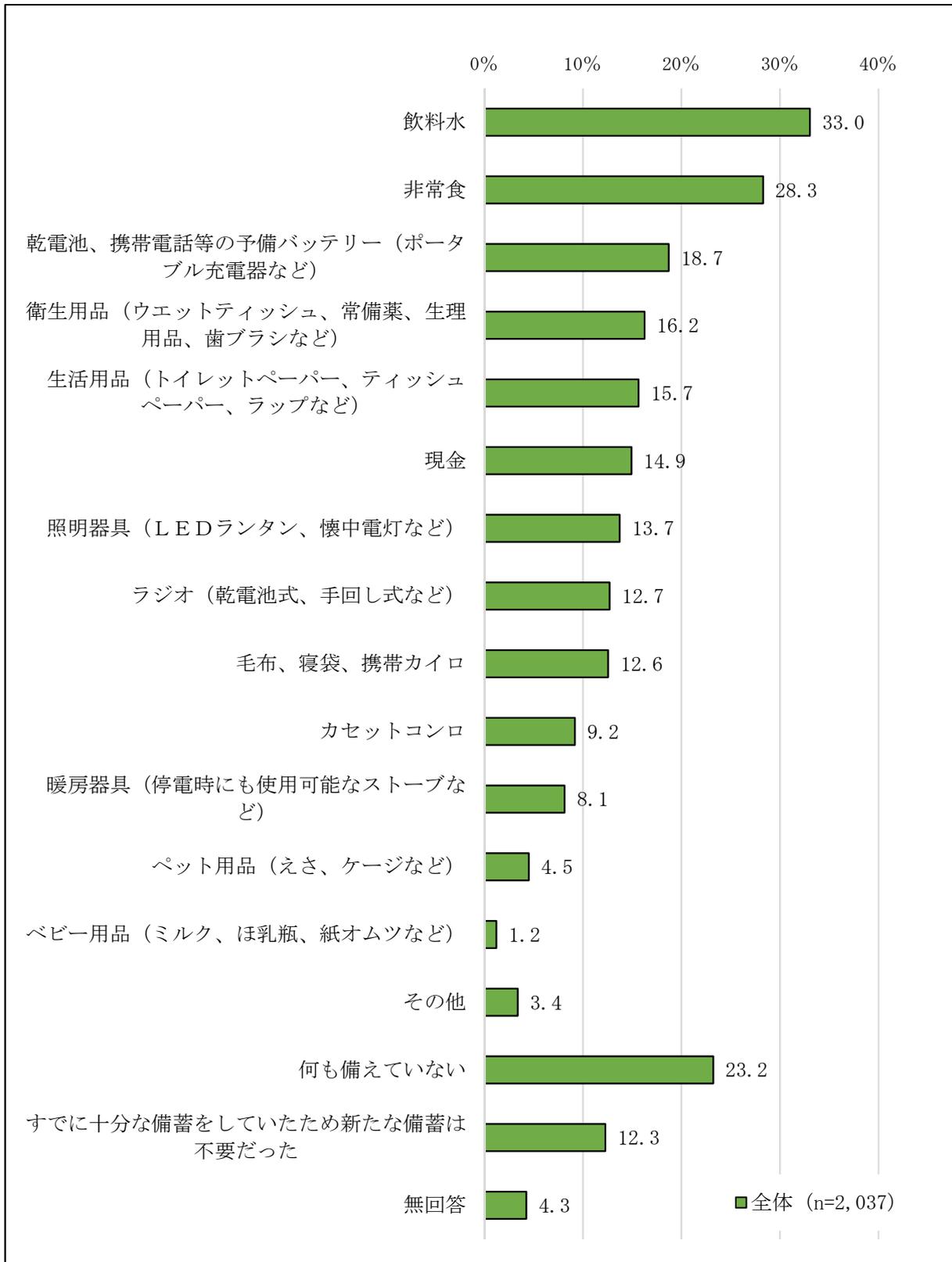
(区別/性別/年齢別)

割合 (%)	食料・飲料水の備蓄	非常用持ち出しバッグ等の準備	ハザードマップや避難場所の確認	家具などの転倒防止	情報がた防災メールなどによる情報収集	避難訓練への参加	住宅の耐震化	マイ・タイムライン(防災行動計画)の作成	その他	特に何もしていない	無回答
全体 (n=2,037)	35.7	29.4	24.6	17.1	13.6	6.7	5.1	2.9	2.0	34.0	2.5
【区別】											
北区 (n=167)	35.9	27.5	28.1	21.0	15.6	9.0	4.2	3.0	0.6	32.9	3.0
東区 (n=342)	33.0	31.0	27.8	11.7	12.0	7.0	4.7	4.1	2.3	35.1	2.6
中央区 (n=448)	37.3	29.9	23.7	15.2	11.2	7.1	3.3	3.6	2.2	32.6	2.5
江南区 (n=185)	34.6	25.9	22.7	15.7	15.7	3.8	3.8	2.7	4.3	36.8	2.2
秋葉区 (n=195)	30.8	24.6	21.5	18.5	13.3	6.7	7.2	0.5	0.5	42.6	2.6
南区 (n=107)	34.6	30.8	20.6	27.1	13.1	10.3	8.4	3.7	0.9	27.1	2.8
西区 (n=376)	42.8	34.0	25.8	20.5	18.1	6.1	5.9	1.9	2.1	28.5	1.6
西蒲区 (n=139)	33.1	27.3	23.7	17.3	12.2	5.8	7.2	2.9	0.0	41.0	2.9
【性別】											
男性 (n=836)	30.3	25.0	21.7	17.3	11.7	7.8	5.3	2.8	1.4	39.0	2.0
女性 (n=1,130)	40.3	32.9	27.0	17.1	15.4	6.0	4.9	2.9	2.3	30.4	2.7
【年齢別】											
18～19歳 (n=16)	25.0	18.8	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	6.3
20～29歳 (n=146)	37.0	30.8	24.7	17.8	13.0	2.1	6.2	5.5	2.1	30.8	1.4
30～39歳 (n=196)	35.2	29.1	25.5	16.8	11.2	4.1	5.6	3.1	3.1	39.8	0.0
40～49歳 (n=294)	40.1	29.9	23.8	13.9	11.6	3.7	2.4	3.1	1.7	36.1	2.0
50～59歳 (n=365)	32.3	26.6	23.0	14.2	12.6	3.3	4.1	2.5	2.2	38.1	0.8
60～69歳 (n=346)	36.4	29.2	24.9	17.1	15.3	5.2	4.0	1.4	1.4	37.0	0.9
70歳以上 (n=605)	36.4	31.7	26.3	20.2	16.0	13.4	7.3	3.1	1.8	27.8	5.3
【被害状況別】											
準半壊以上 (n=70)	44.3	35.7	25.7	34.3	18.6	8.6	22.9	4.3	4.3	17.1	1.4
一部損壊 (n=244)	41.8	32.8	24.6	25.4	16.8	9.8	8.6	0.8	3.3	25.0	2.5
被害確認できず (n=1601)	34.7	29.0	24.7	15.1	13.4	6.2	3.7	3.2	1.6	36.2	2.2

)

(2) 新たに備えた備蓄品

問 25 あなたは、備蓄品として「新たに」どのようなものを備えましたか。(今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて)



【全体結果】

地震発生後、新たに備えた備蓄品は、「飲料水」(33.0%)が最も割合が高く、次いで「非常食」(28.3%)、「乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)」(18.7%)、「衛生用品(ウェットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)」(16.2%)、「生活用品(トイレトーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)」(15.7%)の順で続く。

【属性別結果】(次ページ図 3.2 参照)

① 区別

西蒲区では「非常食」(25.2%)の割合が最も高いが、他の区はすべて、「飲料水」の割合が最も高い。

② 性別

ほとんどの項目で、男性より女性で割合が高く、「何も備えていない」「すでに十分な備蓄をしていたため新たな備蓄は不要だった」と答えた割合は、女性(各20.2%、10.7%)より男性(各27.2%、14.6%)で高い。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、いずれの年代も「飲料水」の割合が最も高い。「何も備えていない」答えた割合は、概ね年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

④ 被害状況別

ほぼすべての備蓄品で、被害状況が大きいほど割合が高い。

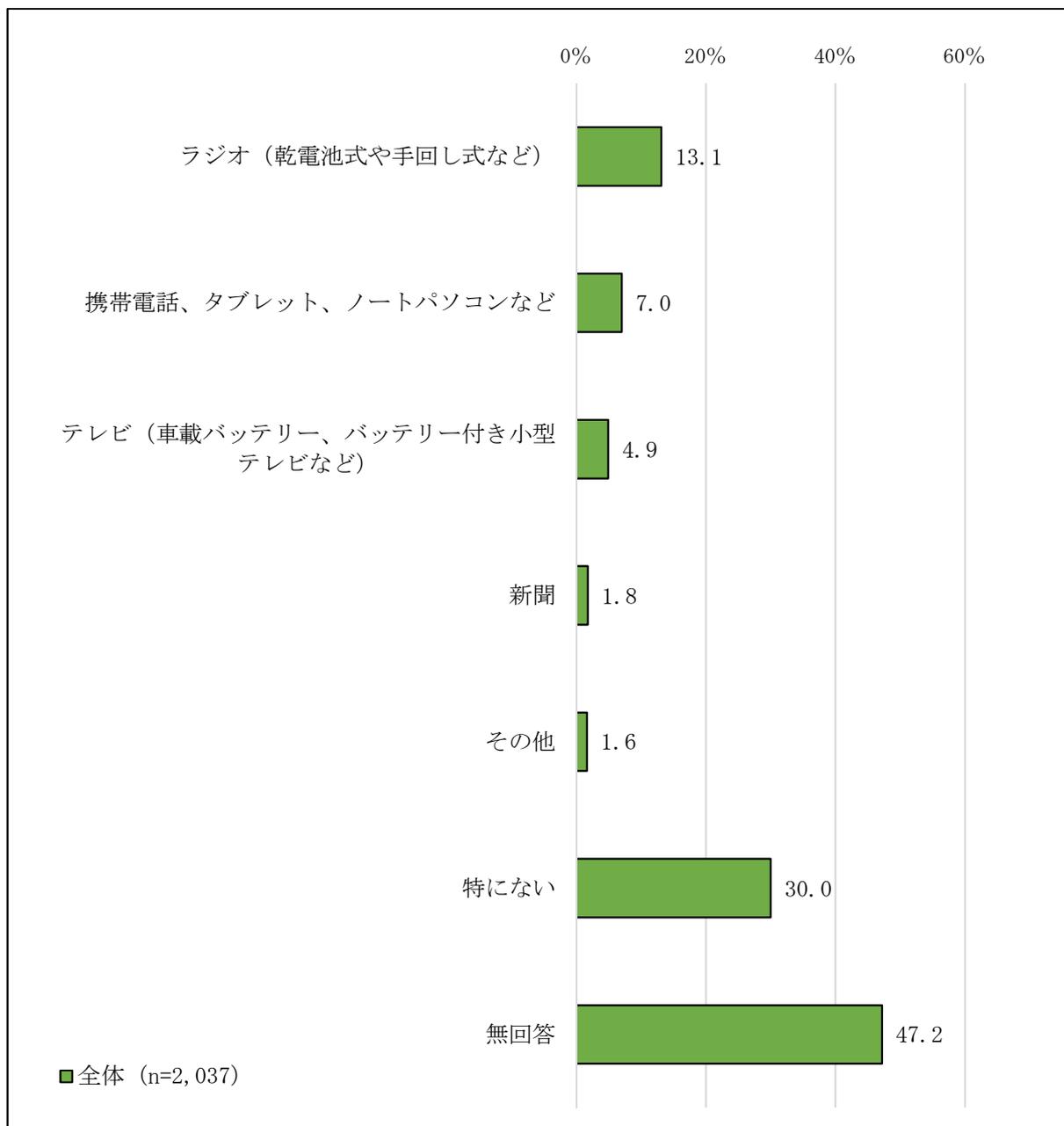
図 3.2 新たに備えた備蓄品

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	飲料水	非常食	乾電池、携帯電話等の予備バッテリー (ポータブル充電器など)	衛生用品(ウェットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)	生活用品(トイレトベーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)	現金	照明器具 (LEDランタン、懐中電灯など)	ラジオ(乾電池式、手回し式など)	毛布、寝袋、携帯カイロ	カセットコンロ	暖房器具 (停電時にも使用可能なストーブなど)	ペット用品(えさ、ケージなど)	ベビー用品 (ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)	その他	何も備えていない	すでに十分な備蓄をしていたため 新たな備蓄は不要だった	無回答
全体 (n=2,037)	33.0	28.3	18.7	16.2	15.7	14.9	13.7	12.7	12.6	9.2	8.1	4.5	1.2	3.4	23.2	12.3	4.3
【区別】																	
北区 (n=167)	36.5	32.9	21.0	16.8	19.2	13.8	18.0	9.6	9.6	10.8	10.2	6.0	1.2	1.2	24.0	11.4	6.0
東区 (n=342)	31.3	24.6	16.1	15.2	13.7	13.2	12.3	14.0	13.2	7.0	7.6	4.1	1.5	2.9	23.4	12.9	5.0
中央区 (n=448)	32.8	27.5	21.2	17.0	15.6	14.7	12.9	12.7	13.6	9.8	7.4	4.2	0.9	2.0	23.7	14.3	4.0
江南区 (n=185)	37.3	34.6	17.8	16.2	16.2	22.2	16.8	15.1	11.9	11.9	11.9	3.8	2.2	4.3	27.6	8.6	2.2
秋葉区 (n=195)	31.3	30.3	15.9	14.4	16.4	13.3	12.8	10.8	12.8	8.7	7.7	5.1	0.0	3.6	26.7	14.4	2.6
南区 (n=107)	36.4	33.6	20.6	17.8	15.9	15.9	15.0	18.7	10.3	13.1	11.2	6.5	1.9	1.9	14.0	13.1	4.7
西区 (n=376)	36.2	28.2	21.5	18.4	17.0	14.1	15.4	11.2	12.2	8.2	6.4	4.0	1.6	5.9	18.6	11.7	4.5
西蒲区 (n=139)	24.5	25.2	15.1	15.8	12.9	13.7	10.8	12.9	13.7	10.1	10.1	4.3	0.7	4.3	27.3	10.1	2.9
【性別】																	
男性 (n=836)	29.5	26.1	17.3	10.9	11.7	13.0	12.6	12.2	9.2	9.1	7.3	2.0	0.7	2.0	27.2	14.6	3.6
女性 (n=1,130)	36.0	30.4	20.2	20.8	18.8	16.0	15.0	13.1	14.9	9.6	9.0	6.3	1.6	4.5	20.2	10.7	4.5
【年齢別】																	
18～19歳 (n=16)	12.5	25.0	12.5	25.0	6.3	0.0	0.0	12.5	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	25.0	0.0	6.3
20～29歳 (n=146)	32.2	26.7	18.5	21.2	13.7	15.1	15.1	7.5	13.7	6.8	5.5	2.1	2.7	2.1	32.2	7.5	0.7
30～39歳 (n=196)	31.6	28.6	19.9	22.4	18.9	15.8	13.8	8.7	16.3	6.6	7.1	7.7	5.6	3.6	28.6	14.8	1.5
40～49歳 (n=294)	31.0	26.9	19.7	17.7	16.7	12.9	12.2	9.2	9.5	7.5	5.4	4.4	1.0	3.7	24.5	13.3	2.7
50～59歳 (n=365)	32.6	28.8	15.6	15.1	15.1	10.4	12.6	11.2	10.7	9.3	5.5	3.6	0.3	4.9	26.3	12.1	2.5
60～69歳 (n=346)	33.5	29.8	20.5	14.2	14.5	11.8	15.0	14.2	11.6	11.0	10.1	6.4	0.6	3.5	23.7	11.3	2.6
70歳以上 (n=605)	36.0	29.1	19.7	15.0	16.4	20.0	15.4	17.0	13.9	10.9	11.4	3.5	0.5	2.8	16.4	13.4	8.3
【被害状況別】																	
準半壊以上 (n=70)	44.3	44.3	30.0	24.3	22.9	28.6	20.0	24.3	20.0	11.4	8.6	7.1	1.4	7.1	8.6	10.0	4.3
一部損壊 (n=244)	37.7	32.4	23.4	21.3	18.4	19.7	16.4	11.1	16.8	11.5	10.2	5.3	1.6	4.9	18.9	12.3	4.1
被害確認できず (n=1601)	32.0	27.2	18.0	15.6	15.1	13.2	13.5	12.3	11.6	9.0	7.9	4.2	1.1	3.1	24.7	12.6	3.6

(3) 情報入手のために新たに用意したもの

問 26 あなたは、災害時における情報入手のため、「新たに」用意したものはありますか。(今後用意する予定の項目を含む。あてはまるものすべて)



【全体結果】

地震発生後、情報入手のために新たに用意したものは、「ラジオ（乾電池式や手回し式など）」（13.1%）が最も割合が高く、次いで「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」（7.0%）、「テレビ（車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど）」（4.9%）の順で続く。

調査票には選択肢に「特にない」が設定されていなかったため、その他の回答欄に『ない』『特にない』と記載があったもの等を「特にない」として集計している。「無回答」の割合が高いが、何も用意していない人が何も選択（回答）しなかったと考ええると、8割近くの人は何も用意していないこととなる。

【属性別結果】（次ページ図 3.3 参照）

① 区別

用意したものは、すべての区で、「ラジオ（乾電池式や手回し式など）」「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」「テレビ（車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど）」の順に割合が高い。

② 性別

用意したものとして、「携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど」と答えた割合は、女性（5.6%）より男性（8.9%）で高く、差がみられた。

③ 年齢別

回答数が少ない18～19歳を除き、いずれの年代も用意したものは「ラジオ（乾電池式や手回し式など）」の割合が最も高い。

④ 被害状況別

ほぼすべてのもので、被害状況が大きいほど割合が高い。

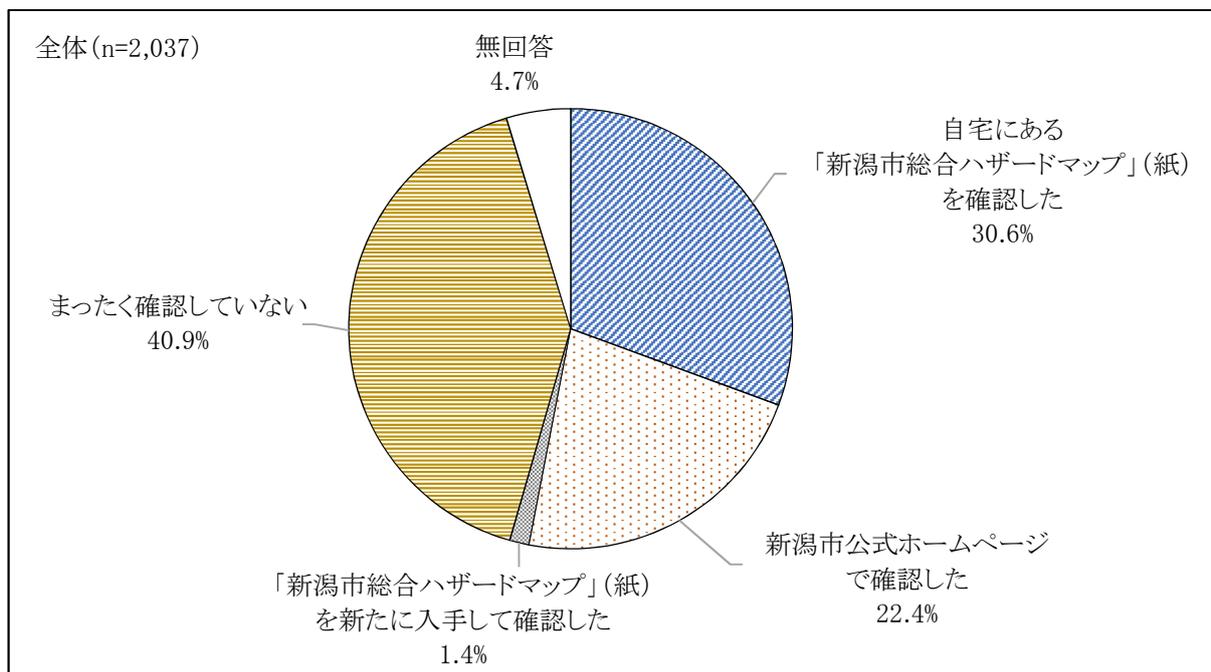
図 3.3 情報入手のために新たに用意したもの

(区別／性別／年齢別)

割合 (%)	ラジオ (乾電池式や手回し式など)	携帯電話、タブレット、 ノートパソコンなど	テレビ (車載バッテリー、 バッテリー付き 小型テレビなど)	新聞	その他	特 に な い	無 回 答
全体 (n=2,037)	13.1	7.0	4.9	1.8	1.6	30.0	47.2
【区別】							
北区 (n=167)	13.2	10.8	3.0	1.8	1.2	28.7	47.3
東区 (n=342)	14.0	6.4	4.7	2.0	2.9	26.9	47.7
中央区 (n=448)	10.5	5.1	4.7	2.0	0.7	35.3	46.4
江南区 (n=185)	11.9	9.7	7.0	1.1	1.1	31.4	45.4
秋葉区 (n=195)	16.9	7.2	5.6	2.6	1.0	27.7	46.7
南区 (n=107)	15.0	10.3	8.4	3.7	0.9	27.1	47.7
西区 (n=376)	13.8	5.9	3.7	1.3	2.1	32.4	45.7
西蒲区 (n=139)	14.4	5.8	5.0	0.7	2.2	29.5	44.6
【性別】							
男性 (n=836)	11.7	8.9	5.6	1.9	1.1	36.1	40.9
女性 (n=1,130)	14.4	5.6	4.2	1.8	1.9	26.8	50.5
【年齢別】							
18～19歳 (n=16)	0.0	0.0	18.8	0.0	6.3	43.8	31.3
20～29歳 (n=146)	13.7	11.6	4.8	2.7	1.4	49.3	24.7
30～39歳 (n=196)	13.8	10.2	4.6	1.0	2.6	42.3	32.1
40～49歳 (n=294)	11.9	5.8	5.4	1.0	1.4	51.7	28.6
50～59歳 (n=365)	11.8	4.7	4.4	1.1	1.4	38.6	41.6
60～69歳 (n=346)	15.9	5.8	4.0	1.4	2.6	22.8	51.4
70歳以上 (n=605)	13.4	7.8	5.1	3.0	0.8	11.7	65.3
【被害状況別】							
準半壊以上 (n=70)	25.7	8.6	8.6	5.7	1.4	27.1	35.7
一部損壊 (n=244)	13.1	7.8	6.1	1.6	2.9	25.8	50.0
被害確認できず (n=1601)	12.7	6.7	4.5	1.7	1.4	32.5	45.5

(4) 新潟市総合ハザードマップの内容の確認状況

問 27 あなたは、区役所や市役所、新潟市公式ホームページなどで「新潟市総合ハザードマップ」の内容を確認しましたか。(どれか1つ)



【全体結果】

「新潟市総合ハザードマップ」の内容確認について、「自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を確認した」が 30.6%、「新潟市公式ホームページで確認した」が 22.4%、「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を新たに入手して確認した」が 1.4%、「まったく確認していない」が 40.9% となった。

【属性別結果】(次ページ図 3.4 参照)

① 区別

いずれの区でも、確認方法としては「自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を確認した」と「新潟市公式ホームページで確認した」の割合が高い。「まったく確認していない」の割合は、西蒲区(56.8%)と江南区(53.0%)で高く5割を超えた。

② 性別

男女での大きな差はみられない。

③ 年齢別

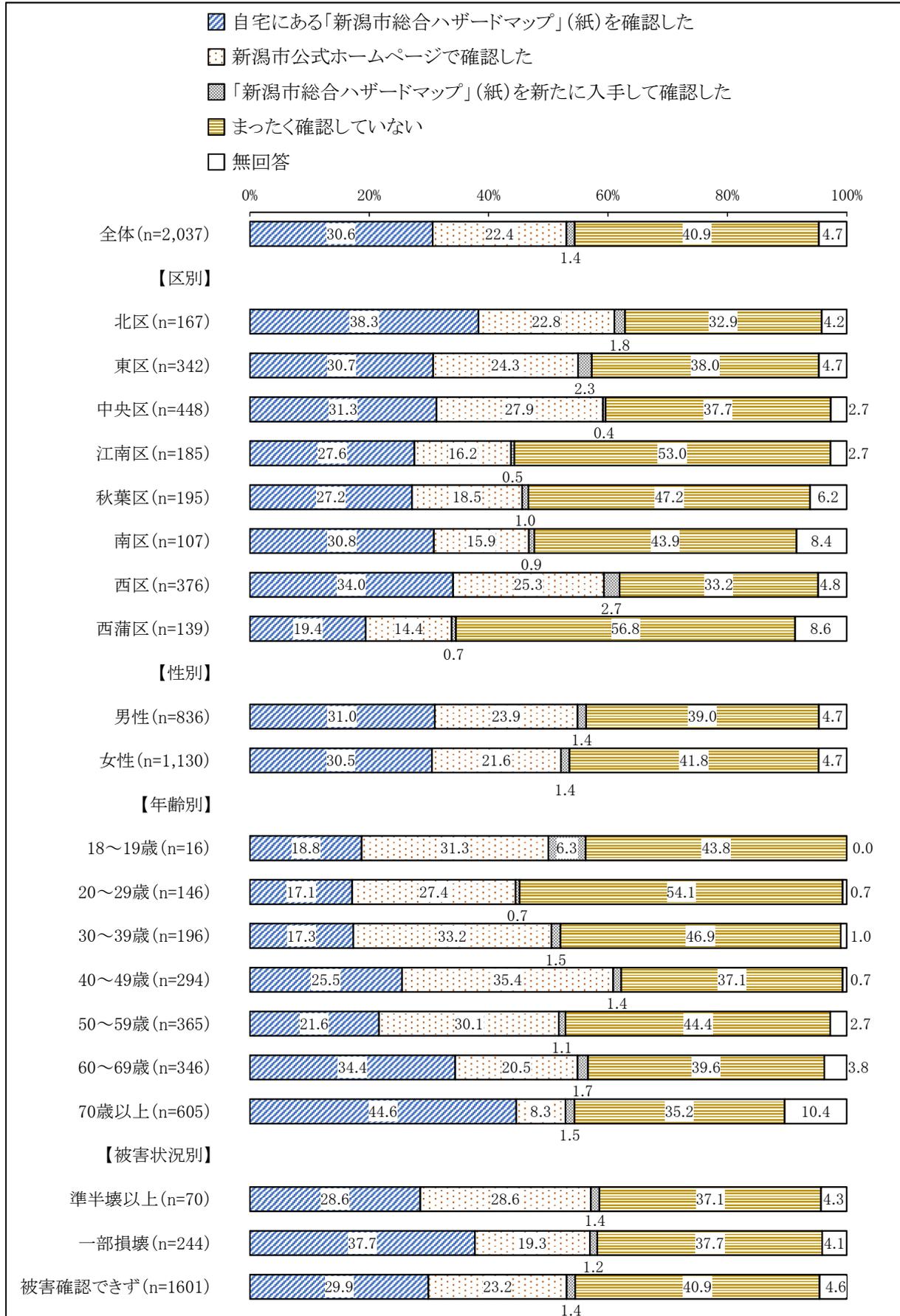
回答数が少ない18～19歳を除き、「自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」(紙)を確認した」は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。逆に「新潟市公式ホームページで確認した」の割合は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。「まったく確認していない」の割合は、20～29歳(54.1%)で最も高い。

④ 被害状況別

「まったく確認していない」の割合は、準半壊以上で37.1%、一部損壊で37.7%、被害確認できずで40.9%と、被害状況での差は大きくなかった。

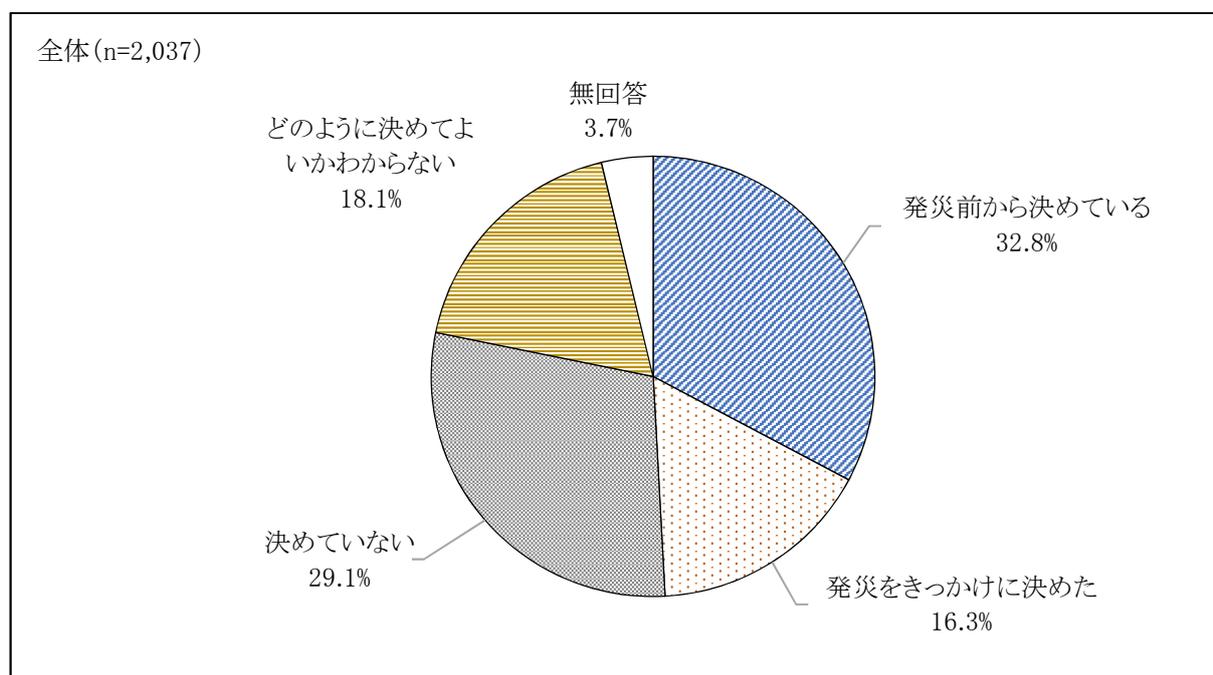
図 3.4 新潟市総合ハザードマップの内容の確認状況

(区別/性別/年齢別)



(5) 今後津波警報が出たときの行動について

問 28 あなたは、今後津波警報が出たときにどのように行動するか決めましたか。(どれか1つ)



【全体結果】

今後津波警報が出たときの行動について、「発災前から決めている」が32.8%、「発災をきっかけに決めた」が16.3%、合計で49.1%が行動を決めている。「決めていない」は29.1%、「どのように決めてよいかわからない」は18.1%、合計で47.2%が行動を決めていない。

【属性別結果】(次ページ図 3.5 参照)

① 区別

「発災前から決めている」と「発災をきっかけに決めた」を合わせた割合は、「中央区」(60.0%)、東区(58.2%)、西区(56.1%)で高い。北区(44.9%)で4割台だが、他の区はいずれも4割未満と低い。

② 性別

「決めていない」と答えた割合は、女性(23.5%)より男性(36.2%)で、「どのように決めてよいかわからない」と答えた割合は、男性(12.2%)より女性(22.2%)で高く、差がみられた。

③ 年齢別

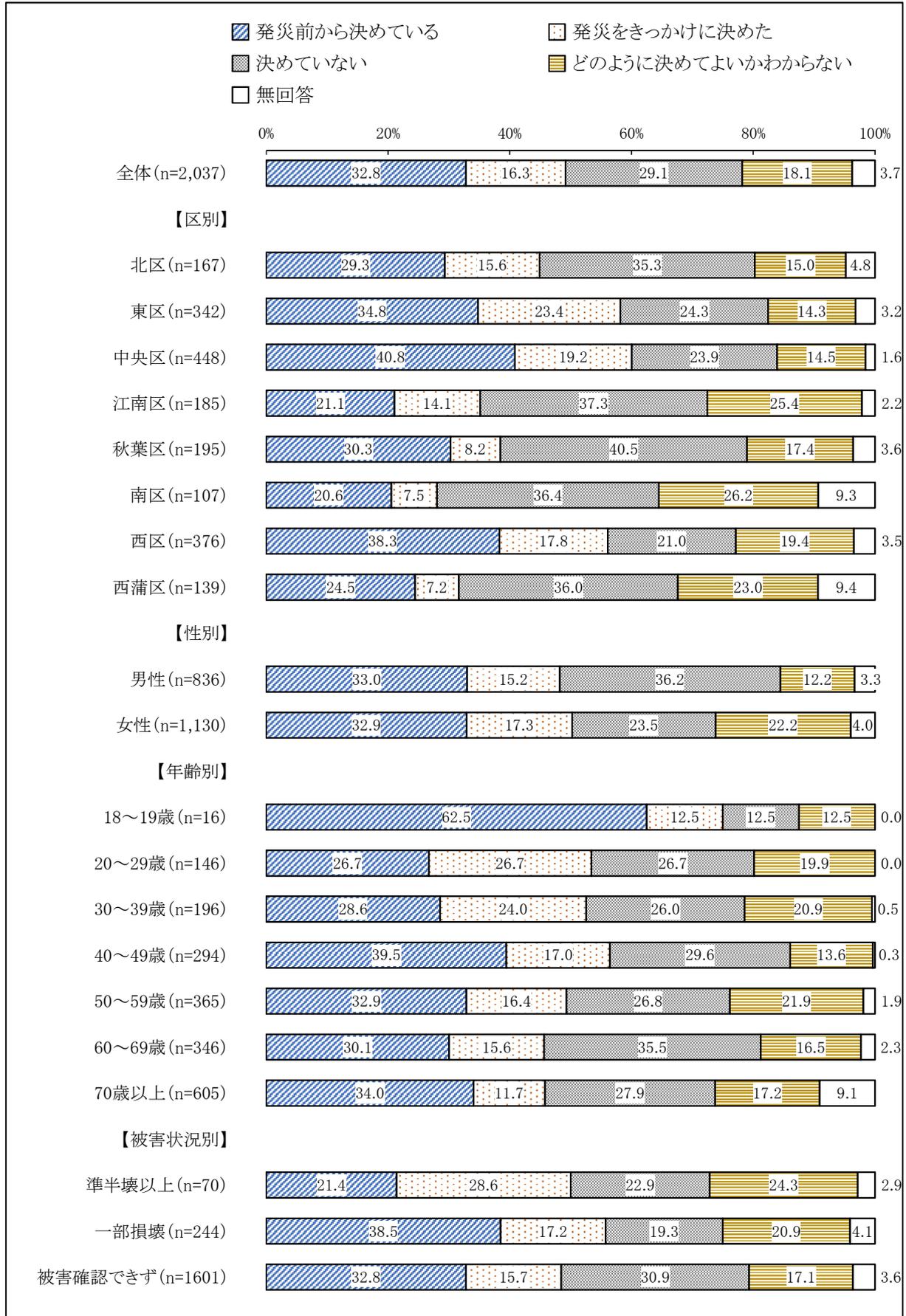
回答数が少ない18~19歳を除き、「発災をきっかけに決めた」の割合は、20~29歳(26.7%)で最も高く、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。「発災前から決めている」と「発災をきっかけに決めた」を合わせた割合も、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

④ 被害状況別

「発災をきっかけに決めた」の割合は被害状況が大きいほど高い。また、「どのように決めてよいかわからない」の割合も被害状況が大きいほど高い。

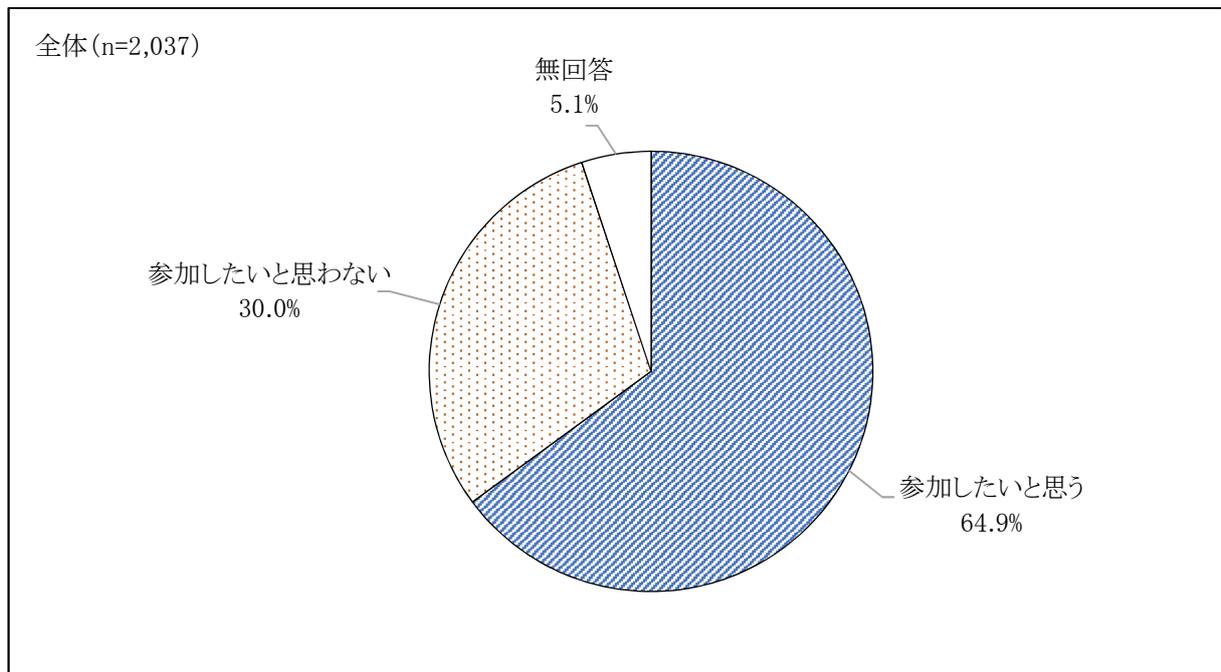
図 3.5 今後津波警報が出たときの行動について

(区別/性別/年齢別)



(6) 防災関連事業への参加について

問 29 あなたは、町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防災関連事業に参加したいと思いますか。



【全体結果】

防災関連事業への参加について、「参加したいと思う」は64.9%、「参加したいと思わない」は30.0%となった。

【属性別結果】(次ページ図 3.6 参照)

① 区別

「参加したいと思う」の割合は、「秋葉区」(71.3%)、北区(67.7%)、中央区(67.0%)の順に高い。最も低かったのは、西蒲区(61.9%)となった。

② 性別

男女での大きな差はみられない。

③ 年齢別

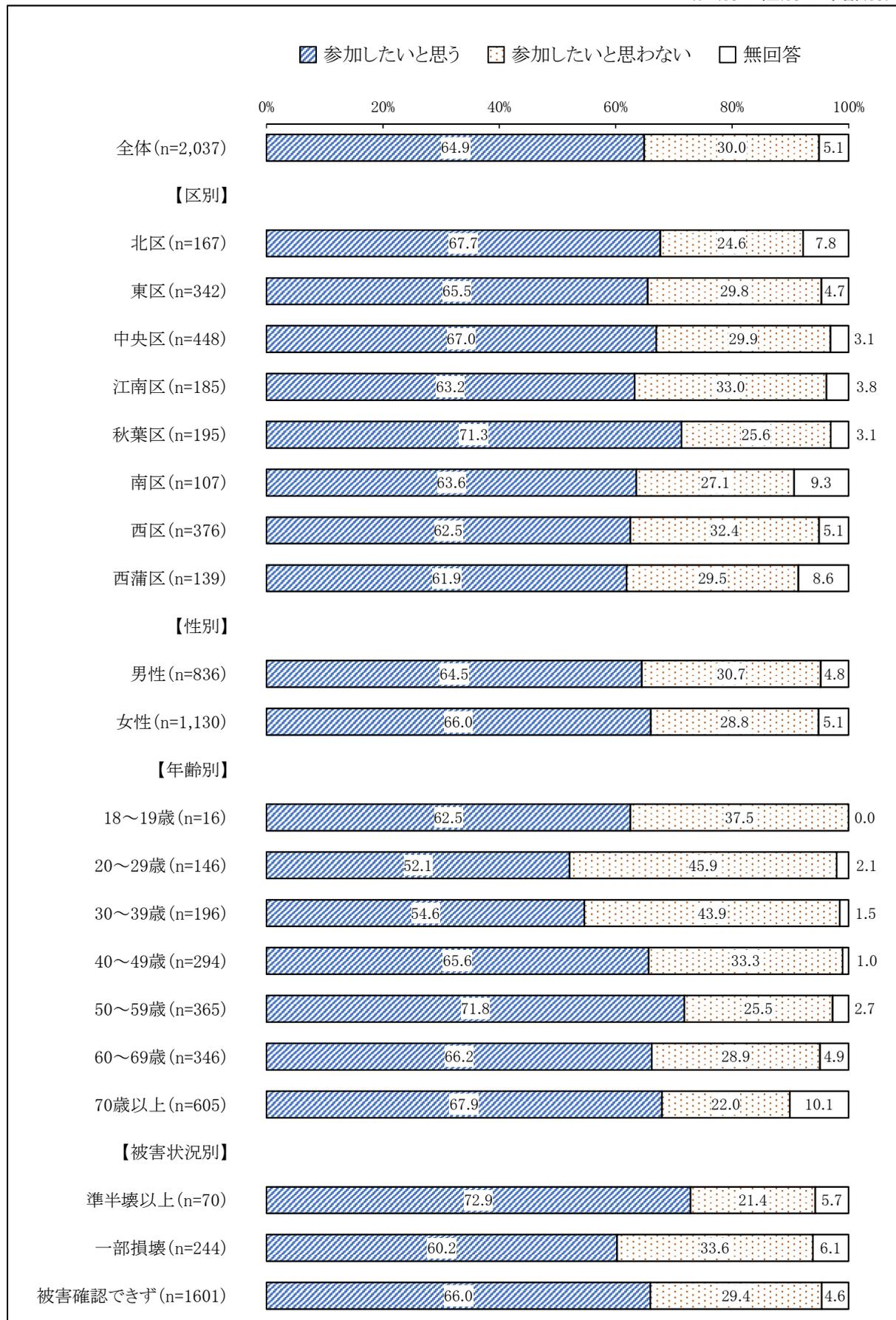
回答数が少ない18～19歳を除き、「参加したいと思う」の割合は、50～59歳(71.8%)で最も高く、20～29歳(52.1%)で最も低い。

④ 被害状況別

「参加したいと思う」の割合は、準半壊以上(72.9%)で最も高いが、被害確認できず(66.0%)と、一部損壊(60.2%)よりも高い。

図 3.6 防災関連事業への参加について

(区別/性別/年齢別)



◆能登半島地震に関する市民アンケート調査◆

ご協力をお願い

この度の、能登半島地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
本市では、一日でも早い復旧・復興を目指すとともに、今後の防災対策の見直しに向け取り組んでいるところです。

そこで、この度の地震による経験を今後の防災対策に活かすため、市民の皆さま 4,000 人を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

突然のお願いで恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

- 4,000 人の選び方
18 歳以上の市民の皆さまの中から、無作為抽出法（くじ引きのような方法）で選ばせていただきました。
- プライバシーの保護について
この調査は、皆さまから無記名でご回答いただくものであり、個人のお名前が公表されることは、決してございません。
また、調査をお願いした方の名簿は、この調査以外には使用いたしません。

〔ご回答にあたって〕

ご回答は、あてはまる番号に○印をつけるか、あるいは具体的な内容をご記入ください。記入されました市民アンケート調査票は、お手数ですが、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに令和6年7月31日（水）までに、郵便ポストへ投函いただくか、下記のインターネットからご回答ください。

本アンケートは、**インターネットでもご回答いただけます。**

次のアドレスまたは、右の二次元コードからアンケート画面へお入りください。

アドレス <https://form.qooker.jp/Q/ja/bousai/ngt/>

最初に表示される入力欄に以下の ID とパスワードを入力してお答えください。



※この ID とパスワードは、重複回答を防ぐためのものでランダムに設定されています。個人を特定するものではありません。

※インターネットからご回答いただく場合、本調査票の返信は不要です。

ご不明な点やお問い合わせは

新潟市危機管理防災局危機対策課 ☎ 025-226-1146 まで

※受付時間 8:30~17:15（平日）

<ここから質問です。令和6年1月1日の能登半島地震についてお答えください。>

1 地震発生前の状況について

問1 あなたは、災害に備え事前にどのような対策をとっていましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 住宅の耐震化
- 2 食料・飲料水の備蓄
- 3 非常用持ち出しバッグ等の準備
- 4 ハザードマップや避難場所の確認
- 5 マイ・タイムライン（防災行動計画）の作成
- 6 家具などの転倒防止
- 7 避難訓練への参加
- 8 にいがた防災メールなどによる情報収集
- 9 その他（)
- 10 特に何もしていなかった

問2 あなたは、災害に備えご家庭でどのようなものを備蓄していましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 非常食
- 2 飲料水
- 3 ラジオ（乾電池式、手回し式など）
- 4 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー（ポータブル充電器など）
- 5 照明器具（LEDランタン、懐中電灯など）
- 6 暖房器具（停電時にも使用可能なストーブなど）
- 7 カセットコンロ
- 8 ベビー用品（ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど）
- 9 衛生用品（ウェットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど）
- 10 現金
- 11 毛布、寝袋、携帯カイロ
- 12 生活用品（トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど）
- 13 ペット用品（えさ、ケージなど）
- 14 その他（)
- 15 何も備えていなかった

問3 あなたは、自治会・町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防災関連事業に参加したことがありますか。(どれか1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 定期的に参加している | 2 過去3年以内に参加したことがある |
| 3 3年以上前に参加したことがある | 4 参加したことはない |

問4 あなたは、「新潟市津波ハザードマップ」でご自宅やお勤め先の津波浸水想定状況（津波の高さや到達時間）を知っていましたか。

- 1 知らなかった ⇒ **問7** ハ
- 2 知っていた ⇒ **問5** ハ

問5 あなたは、津波警報が発表された時にどこへ避難するか決めていましたか。

- 1 決めていなかった ⇒ **問7** ハ
- 2 決めていた ⇒ **問6** ハ

問6 どこへ避難するか決めていましたか。（どれか1つ）

- 1 津波避難場所 ※津波避難場所・・・市の指定した公園や駐車場
- 2 津波避難ビル ※津波避難ビル・・・市の指定した公共または民間施設
- 3 高い建物（具体的に ） ※津波避難ビル以外
- 4 車中、ホテル
- 5 その他（ ）

2 地震発生時の行動について

問7 あなたは、地震発生（津波警報発表）時どこにいましたか。（どれか1つ）

- 1 自宅
- 2 自宅以外（市内）
- 3 市外

問8 地震発災時にいた場所は、津波浸水想定区域でしたか。（どれか一つ）

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからなかった

問9 津波警報は何で知りましたか。（あてはまるものすべて）

- 1 テレビ・ラジオ
- 2 携帯電話（緊急速報メール・エリアメール・にいがた防災メール等）
- 3 防災行政無線
- 4 その他（ ）
- 5 津波警報が出たことを知らなかった

問10 地震発生時に避難しましたか。

- 1 避難した ⇒ 問11～22へ
- 2 避難しなかった ⇒ 問23(8ページ)へ

問11 問11～22は避難した方(問10で「1」を選んだ方)のみお答えください。

どこに避難しましたか。(どれか1つ)

- 1 津波避難場所 ※津波避難場所・・・市の指定した公園や駐車場
- 2 津波避難ビル ※津波避難ビル・・・市の指定した公共または民間施設
- 3 高い建物(具体的に) ※津波避難ビル以外
- 4 車中、ホテル
- 5 その他()

問12 どうやって避難しましたか。(どれか1つ)

- 1 徒歩
- 2 自家用車
- 3 近所の車に同乗
- 4 その他()

問13 誰と避難しましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 親
- 2 子
- 3 夫や妻
- 4 近所の人
- 5 その他()

問14 避難先までどれくらいの時間がかかりましたか。

「_____」分くらい

問15 避難時(避難する場所まで行く時)に苦勞したこと(自由記載)

()

問16 津波避難場所又は津波避難ビルに避難した方（問11で「1または2」を選んだ方）のみお答えください。

避難場所滞在中に困ったこと、不安に感じたことは何ですか。（あてはまるものすべて）

- 1 食事
- 2 灯り、照明
- 3 飲料水、生活用水
- 4 トイレの衛生環境
- 5 十分な生活スペースの確保
- 6 就寝環境（床が固い、毛布が足りないなど）
- 7 プライバシーの確保
- 8 寒さ、暑さなどによる体調管理
- 9 災害情報（震度情報や停電情報、断水情報など）の入手
- 10 携帯電話等の充電
- 11 同行避難したペットの居場所
- 12 家族、友人の安否確認
- 13 避難所内での生活音（会話の音量、足音など）
- 14 インターネット上のデマや誤情報
- 15 避難所運営職員の対応（具体的に：)
- 16 感染症対策
- 17 住宅の被害状況
- 18 健康
- 19 その他（)
- 20 特になし

問 17 避難するときに何を携行しましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 非常食
- 2 飲料水
- 3 ラジオ(乾電池式、手回し式など)
- 4 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー(ポータブル充電器など)
- 5 照明器具(LEDランタン、懐中電灯など)
- 6 暖房器具(停電時にも使用可能なストーブなど)
- 7 カセットコンロ
- 8 ベビー用品(ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど)
- 9 衛生用品(ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど)
- 10 現金
- 11 毛布、寝袋、携帯カイロ
- 12 生活用品(トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ラップなど)
- 13 ペット用品(えさ、ケージなど)
- 14 その他()

問 18 避難中、あなたは特にどのような情報が必要でしたか。(3つまで)

- 1 震度、気象情報
- 2 停電、停電の復旧情報(停電エリア、復旧見込みなど)
- 3 断水、給水情報(断水エリア、復旧見込みなど)
- 4 避難所の開設状況
- 5 携帯電話等の充電可能場所
- 6 被害情報
- 7 交通機関の運行情報
- 8 家族、友人の安否情報
- 9 市営住宅等の応急仮設住宅の情報
- 10 その他()

問 19 避難中、あなたはどのような手段で情報を入手しましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 テレビ(車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど)
- 2 ラジオ(乾電池式や手回し式など)
- 3 携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど
- 4 新聞
- 5 家族、隣人等からの口コミ
- 6 その他()
- 7 情報の入手手段がなかった

問 20 **問 19**で「3」を選んだ方のみお答えください。具体的に、どこから情報を入手しましたか。(あてはまるものすべて)

- 1 新潟市公式ホームページ、新潟市公式X(旧ツイッター)
- 2 X(旧ツイッター)、フェイスブック等のSNS
- 3 その他のホームページ
- 4 アプリ(Yahoo!防災速報など)
- 5 メール等
- 6 その他()

問 21 避難場所から帰宅する判断をした理由は何ですか。

- 1 警報や注意報が解除されたから
- 2 周囲の人が帰宅したから
- 3 もう大丈夫だと思ったから
- 4 その他()

問 22 避難場所の滞在時間はどれくらいでしたか。

- 1 1時間未満
- 2 3時間未満
- 3 6時間未満
- 4 9時間未満
- 5 24時間未満
- 6 24時間以上

問23 避難しなかった方（問10で「2」を選んだ方）のみお答えください。

避難しなかった理由を教えてください。（あてはまるものすべて）

- 1 安全な場所にいると思ったから
- 2 これまで被害にあったことがなかったから
- 3 ペットがいたから
- 4 家族や近所の人が避難しなかったから
- 5 避難すべきかどうかわからなかったから
- 6 避難所での生活が嫌だったから
- 7 どこに逃げれば安全かわからなかったから
- 8 どうしたらいいかわからなかったから
- 9 津波が来ないと思ったから
- 10 浸水しない区域にいると思ったから
- 11 津波警報が出たことを知らなかったから
- 12 その他（)

3 地震発生後の状況（変化）について

問 24 あなたは、ご家庭で「新たに」どのような対策を行いましたか。（今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて）

- 1 住宅の耐震化
- 2 食料・飲料水の備蓄
- 3 非常用持ち出しバッグ等の準備
- 4 ハザードマップや避難場所の確認
- 5 マイ・タイムライン（防災行動計画）の作成
- 6 家具などの転倒防止
- 7 避難訓練への参加
- 8 にいがた防災メールなどによる情報収集
- 9 その他（）
- 10 特に何もしていない

問 25 あなたは、備蓄品として「新たに」どのようなものを備えましたか。（今後取り組む予定の項目を含む。あてはまるものすべて）

- 1 非常食
- 2 飲料水
- 3 ラジオ（乾電池式、手回し式など）
- 4 乾電池、携帯電話等の予備バッテリー（ポータブル充電器など）
- 5 照明器具（LEDランタン、懐中電灯など）
- 6 暖房器具（停電時にも使用可能なストーブなど）
- 7 カセットコンロ
- 8 ベビー用品（ミルク、ほ乳瓶、紙オムツなど）
- 9 衛生用品（ウエットティッシュ、常備薬、生理用品、歯ブラシなど）
- 10 現金
- 11 毛布、寝袋、携帯カイロ
- 12 生活用品（トイレトーパー、ティッシューパー、ラップなど）
- 13 ペット用品（えさ、ケージなど）
- 14 その他（）
- 15 何も備えていない
- 16 すでに十分な備蓄をしていたため新たな備蓄は不要だった

問 26 あなたは、災害時における情報入手のため、「新たに」用意したものはありますか。（今後用意する予定の項目を含む。あてはまるものすべて）

- 1 テレビ（車載バッテリー、バッテリー付き小型テレビなど）
- 2 ラジオ（乾電池式や手回し式など）
- 3 携帯電話、タブレット、ノートパソコンなど
- 4 新聞
- 5 その他（ ）

問 27 あなたは、区役所や市役所、新潟市公式ホームページなどで「新潟市総合ハザードマップ」の内容を確認しましたか。（どれか1つ）

- 1 自宅にある「新潟市総合ハザードマップ」（紙）を確認した
- 2 新潟市公式ホームページで確認した
- 3 「新潟市総合ハザードマップ」（紙）を新たに入手して確認した
- 4 まったく確認していない

問 28 あなたは、今後津波警報が出たときにどのように行動するか決めましたか。（どれか1つ）

- 1 発災前から決めている
- 2 発災をきっかけに決めた
- 3 決めていない
- 4 どのように決めてよいかわからない

問 29 あなたは、町内会やマンションの管理組合、新潟市等が実施する防災訓練や講演会などの防災関連事業に参加したいと思いますか。

- 1 参加したいと思う
- 2 参加したいと思わない（理由： ）

4 その他について

問 30 今回の地震対応において、新潟市（行政）の対応として良かった点及び改善すべき点は何ですか。（自由記載）

良かった点

（ ）

改善すべき点

（ ）

問 31 事前の備えを含め、ご自身（ご家族）の対応として良かった点及び改善すべき点は何ですか。（自由記載）

良かった点

（ ）

改善すべき点

（ ）

問 32 あなたは、避難所にどのような備蓄物資があると良いと思いますか。（自由記載）

（ ）

問 33 その他、今回の地震を受けて感じたことなどがあればご自由に記載してください。

（ ）

最後に、あなたご自身のことについておたずねします。

すべて地震発生時（令和6年1月1日）の状況で、あてはまるものに○をつけてください。

F1 あなたの性別は

- 1 男性 2 女性 3 その他

F2 あなたの年齢は

- 1 18～19歳 2 20～29歳 3 30～39歳 4 40～49歳
5 50～59歳 6 60～69歳 7 70歳以上

F3 あなたのお住まいは

- 1 北区 2 東区 3 中央区 4 江南区 5 秋葉区
6 南区 7 西区 8 西蒲区 9 その他

F4 あなたのご職業は（もっとも近いもの1つに○をつけてください。）

- 1 会社員 2 公務員 3 自営業 4 パート・アルバイト
5 主婦・主夫 6 学生 7 無職 8 その他（ ）

F5 あなたの同居しているご家族は（あてはまるものにいくつでも○をつけてください。）

- 1 配偶者 2 乳幼児（0～2歳程度）
3 就学前児童（3～5歳程度） 4 小学生（6～12歳程度）
5 中学生（13～15歳程度） 6 高校生（16～18歳程度）
7 大学（院）・専門学校生 8 65歳以上の高齢者
9 上記「1」～「8」以外の方 10 いない

F6 携帯電話の所有状況は

- 1 スマートフォンを持っている 2 スマートフォン以外の携帯電話を持っている
3 携帯電話を持っていない

F7 日ごろから参加している地域活動は
（あてはまるものにいくつでも○をつけてください。）

- 1 自治会・町内会 2 自主防災組織 3 学校関係、PTA
4 民生委員・児童委員、福祉関係 5 マンション組合等 6 商店会組合等
7 消防団 8 防犯活動 9 ボランティア
10 その他まちづくりに関連する活動 11 特に何もしていない

F8 今回の地震でご自宅に被害はありましたか

- 1 全壊 2 大規模半壊 3 中規模半壊 4 半壊
5 準半壊 6 一部損壊 7 被害確認できず

アンケートは以上で終了です。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。